

『勝 海舟の嫁 クララの明治日記』について

—— 人物記載のあり方の検討を通して ——

野 口 武 司

承前

○それから富田氏のうちに行ったが、夫人はひどい風邪をひかれて、何日も髪を結(213)っておられないので、ものすごい様相だった。

11・2・20条 上491

○富田氏がまずみえて、手に入りそうな家が見つかったと言われた。それは勝家の隣で建宮(たけのみやゆきひと)（敬仁親王、二歳）が亡くなった古い徳川屋敷の向かい側にある。彼は有望な家だと思っておられる。富田氏はサムライが着る堅苦しい仕立ておろしの紋付羽織袴(212)でも立派に見えた。

11・9・23条 下48

○今日は杉田氏と富田氏の招待で日本式の宴会へ行った。（中略）はじめ杉田家へ行って、日本に初めて外国語を紹介した大学者の祖先（杉田玄白）の立派な彫像を見せていただいた。（中略）それから名前はわからないが、新橋の近くのお茶屋に行った。（中略）最後のほうで、西郷中将のごひいきの芸者の桃太郎が入ってきて琴を弾いた。（中略）桃太郎は次に胡弓を弾き、能面のような顔をした老女はひどく大きな声をあげて鼓を勢いよくたたいた。桃太郎は図々しくて、いやな人のようで、私はきらいだ。彼女の(313)眉はとても目立ち、目が合っても大胆にそらさない。おまけに絶えずしゃべっている。明らかにとても気がきいている。食事のあと、

彼女はなれなれしく私に手をかけて、私の服や帽子、肌までもひどく無遠慮にほめた。食後の踊りはむかむかするほどで、もう金輪際彼女たちが良いなどは思わない。どれほど美しくとも、善良であるはずがないから。富田夫人が私の耳もとで「この人たちはよくありませんね、慎みがなさすぎます。お母様は不快のご様子ですね」とささやいた。⁽²¹³⁾△△△△△

○富田夫人もほとんど変わらさず、赤ちゃんは立派な顔立ちの五歳の少年に成長していた。みんなのところをふたたび戻れて本当にうれい。⁽²¹⁴⁾○○○○○○○○○○
15・11・25条 下 437

(215) ドーラ (ホイットニー、クララ姻戚) → (25) ウィニフレッド (ホイットニー、クララ姻戚)
(216) トルー、マリア、T. P. 夫人 (新栄・桜井両女学校教師・宣教師) → (279) ホイットニー、ウィリアム、C. 令嬢アデレイド (アデイ) (クララ令妹)

○アデイは泣いていた。⁽²⁷⁹⁾○○○○○○○○○○
「クララ、とても私には耐えきれそうにない、私は天に帰ります」と母は言った。私はもう我慢できなくなつて、トルー夫人が眼くばせをしたけれども、心の悲しみを皆しゃべってしまった。⁽²¹⁶⁾○○○○○○○○○○
16・4・30条 下 464

(217) 中島信行 (前神奈川県令・元老院議員) → (315) 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使)

○皇后様の随員の馬車に続いて、各省の文官武官が数百人かそれ以上、全員洋服で通つた。私たちの友人も幾人かいたが、大島氏も、内閣で三番目の位なのでそこに入っていた。森氏も、ひどく変な帽子をかぶつて、「特命全権公使」にしてはむっつりした顔をして現われたが、位は四番目だった。前神奈川県令の中島氏は私たちを見つけ、過ぎ去つたあともずっと、⁽²¹⁷⁾○○○○○○○○○○
⁽³¹⁵⁾○○○○○○○○○○
首がねじ切れそうなどここちらを

振り返っていた。それ以外に見覚えのある顔は見なかったが、たぶんもつといたのだろう。

9・6・2条

上198

(218) 中原国三郎 (銀行家)

(219) 令妹すえ

(220) 令母

↓ (60) 小野 (報知新聞論説委員)

○ 中原氏は四年以上もアメリカに行っていたので、⁽²¹⁸⁾とても上手に英語を話す。幾分小柄で、ほつそりとしていて、私より頭の半分ぐらい背が高い。容貌も悪くなく、誰にでも優しく丁寧に振る舞う気持ちのよい方である。私たちがアメリカにいた時、訪ねて来たことがある。中原氏は日本よりアメリカのほうが好きなのではないかと思う。アメリカから来た友達に会うと、⁽²¹⁸⁾明らかに大喜びしている。

8・8・30条

上4546

○ 扉のそばには、木像がうずくまった格好で台座の上に坐っていた。中原氏がその像には目も鼻も口もなく、全体が暖かですべすべしていると云ったので、私は注意してみたが、病氣の人がよくこするからそのようなようになったのだそうだ。実はそれは健康の神だったのだ。(中略) 私たちがそこに立っていると、かわいそうな人たちがやって来て、聞くことも感じることも見ることもできないその神に祈り、病氣が癒やされると思ひ込んで立ち去って行った。しかし、悲しいことに、あの連中は、哀れで無力な偶像などがとても治すことのできない病氣、つまり罪という病氣にかかっているのだ。私の連れの日本人はその人たちのことを笑いたがっているようだったが、だまされた人間たちがあまりにも真剣な様子だったので、私も努めてうやうやしい顔をしていた。中原氏に、「あの人たちを見ていると、なんだかおかしくなるんですけれど、それが当たり前でしょう？」と尋ねると、中原氏ははつきりと「ええ」と答えた。

8・8・30条

上47

○ 私たちが一軒の茶店に坐ると、例によって女の人が何人かじろじろ見ながら、まわりに集まってきた。一人が高木氏に話しかけて、外国の婦人たちは、あんなきれいな顔——白くてピンクの顔——にするのに、^(おしろい)白粉を塗ったり粉をはいたりするのかと尋ねた。その中の一人が、私たちが顔を洗ったとたんに、その美しさがはげてしまうのではないかと言った時、母はその言葉に頑強に反対した。

の人たちがまだなかなか着かないうちに無事てっぺんに着いた。

8・12・17条

上 97

○どうして中原氏に、外国の婦人と通りを歩く勇氣があるのかわからない。外国の婦人が弟子とか使用人以外の日本人と出歩くことは、この国ではまったく新しいことなのだ。事実、日本の女の人だつて男の人といつしよにいるのをめつたに見かけない。ある確かな筋から聞いたところによれば、日本人の男性は外国から帰ると、日本の女性の状態をイギリスやアメリカの婦人のと比べてみて、日本の女性にあまり敬意を払わなくなるという。それで彼女たちは外国婦人をなんとなくねたんでのだそうだ。みんな私たちを不思議そうにじろじろ見る。(中略) 人々の流し目や、言葉がわからないから私には推測するだけしかできないが、彼らのささやきに耐えられるとは、中原氏には相当の勇氣があるに違いない。しかし中原氏はまるで私と同国人であるかのように、平気でしゃべったり笑つたりしながら歩くのだった。

8・12・17条

上 99 100

○とかくするうちに、お客がどつとやってきた。大小、老若を問わず、遂に三十二人(一!)の地位も実力も高い日本人が、もてなしのよい我が家に集まった。私たちは楽屋裏で浮き浮きしていた。中原氏は最上機嫌で冗談をとぼした。

8・12・25条

上 102

○私たちは長い間、この国に來ている外国人の大部分が浪費家で放蕩者であることについて、また、そういう生活をしているのはお金もうけに夢中な人たち(商人など)だけであり、來た時は本当に誠実だつた人たちも、悪い模範にならつて墮落していくのだ、などと話し合つた。それから中原氏は、アメリカでのかなりひどい経験を語つた。中原氏が独りでお金に困つていた時、アメリカ人の悪い人にだまされたことがあるそうだ。中原氏は初めてスケートをした時の滑稽な話もした。冗談を交えて雑談をしたのち、中原氏が帰ろうと立ち上がった時計が十一時を打つた。

9・1・14条

上 113 114

○中原氏は、銀座にいる間中ずつと付き添つて、私がみかんや靴紐(一!)や石筆を買うのをまつたく紳士らしく優雅な態度で手伝い、それから家まで送つてくださった。

9・2・6条

上 118

○私は、私の好きなのは金髪ですと言って、そういう話題をかなり自由に広げていると、中原氏は例のいたずらっぽいや目で見ながら、溜め息をつくふりをして、「おやおや、私にはなんの魅力もないわけですね！」と言(218)い、とてもふざけた絶望的な様子で漆黒の髪をなでた。そしてこの家へ来るのが好きなので、三時以後は仕事がないから、夕方ちよくちよく来てもいいかと尋ねた。

9・2・26条

上 137

○昨夜、中原氏が結婚して、奥様に会いに招かれて行ったという夢を見たのも奇妙なことだ。夢の中の奥様はちつともきれいでなく、太ったつまらない人だったので、妹(219)さんがそのような少女であるのを見て少なからずびっくりしたが、ただ妹さんはずっと感じがよくて、地味な着物を着ていた。母は、中原氏は自分の奥さんを妹さんとして通そうとしている、つまり、アブラハムの役割を演じているのではないかしらと言った。妹(219)さんは十四歳ぐらいだがとても大きい方だ。母が私の夢のことを話したら、中原氏は驚くほど喜(218)び、私が下りて行くと、その話を私に繰り返させた。中原氏は私のことを予言者とか夢想家とか呼んで、帰るまでひどくからかい続(218)けた。

9・4・3条

上 151
152

○中原氏はすぐに立ち上がり、私について外に出たが、私はしばらくは口もきけなかった。中原氏は「ほんとにすみません、知らなかったものですから」と言ったが、私は、「私にはわかってました。入って来た時からお酒の匂いがしていたんですもの」と強調した。中原氏が、その外国人に非難や怒りの言葉を一言も言わないで、人(218)をそらさぬ、口先だけのような柔らかい態度で静観していたのがとてもしゃくにさわった。もし、ウィリイか、知り合いのアメリカの青年だったら、あんな人はきつと殴り倒していただろう。それなのに、中原氏は「知りませんでした」としか言わなかった。もし中原氏が怒った様子を見せたら、私だってそんなに気を悪くはしなかっただろうが、彼はただ私を見て微笑するだけだった。中原氏(218)はいつもにこにこしている。決していら立ったり、痾癩を起こしたり、人をばかにしたりすることはなくて、いつも笑みを浮かべている。しかし「何事にも潮時というものがある」のだから、(218)

〇〇〇〇
にこにこもい加減飽きが来る。

9・5・13条

上
179
180

○小野寺氏が午餐を召し上がって行かれた。その後、吹上ふきあげの天皇の御苑へいっしょに行くため、中原氏がお母様と妹さんを連れて来た。中原夫人は、もちろん息子さんよりずっとお年を召していらっしゃるが、⁽²²⁰⁾⁽²¹⁸⁾中原氏にとてもよく似ておられる。五十を越えたところだが、日本の女の人の例にもれず、大変年寄りに見える。日本の女の人はずいぶん早く老けていくのだ。妹のおすえさんは十六歳で、⁽²¹⁹⁾本当にきれいだがあどけない顔をしていて、明日皇后様の女学校へ行くことになっている。私たちはお客様を新しい部屋へお通ししてから、二階に上がって着替えた。

9・5・16条

上
182

○私はただ、「婚約なさったそうですね。結婚式に招待してくださいと、二度と口をききませんわよ」と言つて、オルガンを弾き始めた。中原氏は私を止めて、どういふことが聞きたいと言つた。私はちよつとからかつてから、すべてを話した。中原氏は椅子によりかかつて、長い間笑い、「おや、おや、どこでそんなことを聞いたんですか」と言つた。私ははつきりは言わなかつたが、それとなく知らせた。中原氏は怒らず、それを面白い冗談として受け取め、「多くの青年が奥さんを探しまわっていますから、男がある年齢になると疑われるのですね。ただどなたはそんなことを信じないでください。私は一生独身でいるつもりですから、そんなことはしませんよ！」と言つた。私が考えていたのとは違つて、驚きもせず、顔色も変えず、震えもしないで、⁽²¹⁸⁾私をまつすぐに見ながら、大胆に機嫌よく笑つた。

9・5・30条

上
193
194

○中原氏と私は腕を組んで、⁽²¹⁸⁾笑つたりおしゃべりをしたりしながら、きれいな庭を歩きまわつたが、日本のサムライが、外国人の少女と腕を組んで散歩しているのを見て女給仕たちはびっくり仰天した。(中略)中原氏が日本人だということをいつも忘れてしまう。いっしょにいて、そんなに気楽に感じる日本人はほかにいない。気持ちよく、紳士的で、人をくつろいだ気分になさせてくれる。中原氏は一体どこでその外国式礼儀と、洗練された紳士的態度を身につけたのかしらとよく思うが、アメリカ人に聞くより本人に聞いた

ほうが早いだろう。

9・8・19条

上 230

△△△△△△△△△△
○お逸が授業を受けて、私がオルガンの練習をしていた時、扉を叩く音が聞こえたので振り向くと中原氏だった。私たちは長い間陽気におしゃべりをして、二人で作ったアイスクリームを食べた。

9・8・24条

上 231

(221) 中村正直 (同人社女学校主)

○学校のことを話すため小石川同人社の中村(正直)氏を訪ねた。中村氏は⁽²²¹⁾ひどい吃音であるが、大変愛想がよかった。奥様(鉄子)と息子さんもご在宅で、二人ともとても感じの良い方たちである。

11・7・15条

上 598

○今日は中村(正直)氏の同人社女学校が、平河町達磨坂に開校する記念すべき日である。母はここで教えるようにたのまれた。今朝九時に行き、十二時から宴会で、二時までいた。(中略)中村先生がまず挨拶をした。⁽²²¹⁾早口なのでわかったのは大体次のおりだった。聖堂までは遠いため、このあたりに女学校が欲しいということは長年いわれてまいりましたが、今日ここにめでたく開校いたすことになりました。長いお話はほかの方々にしていただくとして、その前に一言申し上げたいと思います。(下略)

12・5・1条

下 202

○中村(正直)氏は、だぶだぶの燕尾服を着、うまく留まらないカラーをつけて、⁽²²¹⁾ドアのうしろからほほえみかけた。人波がこの目立たない人物をそこへ押し込んでしまったらしい。

12・8・28条

下 310

(222) 鍋島直大 (元佐賀藩主・元老院議員) → (30) 上野景範 (英国駐在特命全権公使・外務大輔)

(223) 成瀬隆蔵 (講習所第一回卒業生) → (84) 川村順次郎 (幕臣・成瀬隆蔵令敵) (85) 同夫人

(224) 新島 襄 (同志社女学校設立者)

○今夜の会はとてもよかった。外国人はいつもより少なかったが、「日本の最初の伝道者」として有名な新島(襄)という人が来た。⁽²²⁴⁾

精養軒に注文した。一時に少年たちが椅子を持って入室し、⁽²³⁶⁾借りて来た猫のように、まじめに、おごそかに、きちんと坐った。ジョージ・バチエルダーやウィリイ・ヴァーベックもいて、みんなケーキ、サンドイッチ、コーヒ、レモネード、⁽²³⁶⁾果物をがつがつと平らげた！彼らが帰ったのちカローザ夫人が来られて祈禱会をした。 9・7・5条 上116

○バチエルダー氏は葡萄について話をしようとなさったが、長年この国におられるのに、⁽²³⁴⁾日本語でも最悪の言葉を少ししか話せない。日本人のような礼儀正しい国民の中にそんなに長くいるのだから、日本人の優雅さを少しは見習うべきだと思う。とてもひどい振る舞いをするので、私は役人たちに謝らねばならなかった。 10・8・22条 上405

○今日日曜学校でマクラレン氏、ジョージと私の三人で「働き人はその報いを受けるに値する」という文章について討論をした。活発な討論で、マクラレン先生のほうが分が悪かったと思う。私たちは福音の伝道者がもっと克己の精神を発揮し、キリストの教えを厳しく守ったほうがよいのではないかという点を論じた。マクラレン先生は現在の宣教師たちが立派な邸宅に住み、ぜいたくな生活をしていることに対する弁解として故郷から遠く離れていることを挙げた。それは事実であり、身を挺して宣教に当たっている立派な人たちのことを私たちがとやかく言うべきではないだろう。しかしジョージは⁽²³⁶⁾熱く反論していた。 12・3・2条 下153

○このところ小さな地震が頻繁にあるので、時々おそろしくなる。大地が足下で揺れるのは死ぬほどこわい。バチエルダー夫人がみえ、恐ろしい地震の話なさり、私の恐怖感は軽くなるどころではなかった。サンフランシスコで地震に遭ったことがあり、下田でも地震の破壊のあとを見たことがあるそうだ。「気圧計が一日中たいへんな勢いで下がっているから」もうじききつと地震があると言われた。夫人は⁽²³⁵⁾妙に哀れっぽい声をした奇妙な方で、六十に近いにちがいないのに、⁽²³⁵⁾とても若作りだ。 12・12・6条 下173

(237) 服部嬢

○顔に四角い膏葉をいくつもつけているので、膏葉さんと呼ばれているミス・服部は、相変わらず人はよさそうだが、⁽²³⁷⁾ぎこちなく、大儀そうに動いていた。 12・5・26条 下 225

(238) 林 (村田一郎令厳) 令息恒五郎 → (158) 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息六蔵 (159)

同玄端令息武夫人よし (307) 村田一郎夫人久子 (ひさ) (318) 森 ひろ (森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 義

姉・有祐令母)

○そのうちに、おひろさんがあの若い男のかたはどなたですかと尋ねられたので、林氏だと答えると、あの恒五郎ちゃんがこんなに背の高い立派な青年に育ったのかとびつくりなされた。彼女は何度も頭を低く下げて、有祐さんといっしょに学校へ行ってくださった親切に対して、お礼を言われた。しばらくして、またおひささんのほうをちらっと見て、⁽³⁰⁷⁾あの美しいかたにどこかでお目にかかったのではなかるうか、と聞かれた。村田 (一郎) 氏のお嫁さんだ、と答えると、村田氏ってどなたですかとお聞きになったので、林氏の兄さんであると答えた。こういう会話が取り交わされている間、二人はたもとで口元をかくしてくすくす笑っておられた。⁽²³⁸⁾⁽³⁰⁷⁾

11・7・23条 下 13

○お客様はまず勝家の女性方と、小鹿さんまで含めてお子さん方全員、杉田さん一族、富田夫人、林氏 (今では背の高い逞しい青年) と従兄弟の喜一郎さん、イノコ、大鳥氏の四人のお子さん——おゆきさん、おきくさん、富士太郎さん、もう一人小さい坊ちゃん——徳川家達公の弟御さんの田安公とお付きの懇懃な二人のご家来等であった。 11・12・30条 下 115

(239) 原 胤昭 (十字屋)

○夜明け前に、消防士の服を着た十字屋さん (原 胤昭) が、提灯を持ってお見舞いに来てくださった。二階の縁側にいた私に声を

かけた時、紋章と声で十字屋さんだとわかったが、心のこもった挨拶をして行った。

10・3・30条

上 340

(240) バラ、ジェームス、H. (バラ学校開設者・宣教師) 夫人マーガレット、T. K. ↓ (62) 同令息オーランド、ベントン

(241) バラ、ジョン、クライグ、B. (バラ、ジェームス、H. 《バラ学校開設者・宣教師》令弟・築地大学校校長) 夫人

○矢田部氏がいつものように訪ねて来たが、母はバラ夫人に誰だか知らせようとしなかった。というのは宣教師たちは皆矢田部氏に腹を立てているからである。それでわざと夫人には知らせなかつたのだ。夕方ずっと、夫人は矢田部氏と、ご自分の友達がいるイサカについて話をしておられた。矢田部氏が午後十一時に帰ってから、母が誰だつたかを話すと、夫人は大変びっくりして「まあ! あんな若僧が騒ぎのもとだつたんですの。みんな気にし過ぎているのですね」と言われた。夫人は、有名なる「盗賊の首領」に会つていながらご存じなかつたというわけだ!!

10・4・9条

上 344

(242) ハリス、メリーマン、C. (東京英和学校教師・宣教師) (243) 同夫人 ↓ (37) 内村鑑三夫人 (旧姓浅田タケ)

(166) ソーパー、ユリアス (耕教学舎設立者・宣教師) (167) 同夫人 (334) リート、レナ (リーナ) 嬢 (ヘップバン夫人

姪・新栄学校教師・宣教師)

○祝禱はハリス氏だつたが、⁽²⁴²⁾とてもあぶなつかしくて、何度も間違えては訂正していた。それがすむとお茶菓子が出たが、リーナさんはこんなものは食べられないと受けつけない。だがリーナさんが⁽³³⁴⁾ハンカチも持たず汗をかきかき手に唾をつけて菓子を作る裸職人の様子を描写してみせたにもかかわらず、ミス・エルドレッドはかまわず二人分平らげた。 12・6・21条 下 238

(244) ハル (ホイットニー家使用人、金太郎夫人) ↓ (144) シュウ (ホイットニー家使用人)

○昨日の朝は、台所で大騒動があつた。やさしそうな料理人の金太郎が夫の威厳を示すために、ハルの髪の毛をつかんで引きずりま

わし、薪の棒でぶった。当然のことながら、⁽²⁴⁴⁾怒り心頭に発した妻は、私に⁽²⁴⁴⁾ぐちをこぼして気晴らしをした揚句、今朝、旦那が肉を買いに行つて留守の間に逐電した。

12・8・22条 下 299 300

○今日は面白いことがあったので、日記に書いておく。使用人の金太郎とハルに暇を出した。ハルと別れるのはいやだったけれど、金太郎は、「まったくもつてまったく」我慢ができなかった。ハルは⁽²⁴⁴⁾泣いていた。そして、別れをひどく悲しんでいた。ハルは本当にいい人だったから私たちも残念だった。彼女がやめる前日に、私は聖書について何か聞いたり、読んだりしたことがあるかときいてみた。ハルは読んだことはないし、はじめて聖書について聞いたのは、お正月にウィリイが幻灯を使ってヨセフの話をした時だといつた。ハルはその話をきいて⁽²⁴⁴⁾泣き、それをすっかり金太郎に話してやったそう。

16・2・2条 下 444 445

(245) 東伏見宮依仁親王

○津田氏が昨日みえて、東伏見宮妃殿下がピアノを持っておられて、習いたいとおっしゃっているので、うかがつてお教えするようにとのことだった。東伏見宮殿下は⁽²⁴⁵⁾日本でもっとも美しい男性と考えられており、内外の楽器をどれでも上手にお弾きになる。

11・9・27条 下 51

(246) 正田正善 (247) 同夫人 (勝 安芳 (海舟・安房守) 次女孝子 (小太郎)) (248) 同長女輝子 (249) 同長男玄龜

(250) 同次男保爾 (251) 同三男静守 (26) 上 真行 (36) 内田夫人 (勝 安芳 (海舟・安房守) 長女夢 (ゆめ)

(71) 勝 安芳 (海舟・安房守) 三女逸子 (お逸) (72) 勝 安芳 (海舟・安房守) 三男梅太郎 (133) シェパード、エリ

1、T. (外務・司法両省万国公法顧問) 令嬢アニー (182) 田中 (勝家家扶) (259) 藤島常興 (測量器械製造家)

(279) ホイットニー、ウィリアム、C. 令嬢アデレイド (アデイ) (クララ令妹)

○疋田夫人の赤ちゃんは⁽²⁵⁰⁾すばらしくかわいらしい。坊ちゃんは三歳だが小さなおとなである。午後にベッドから落ちてけがをした

が、この小さなスパルタ人は唇をかみ、涙が抑え切れなくなると、袖に顔を隠してそつと泣いた。叔母さんは坊ちゃんを見て笑つて、この子は赤ちゃんのお兄さんなのだから、変な模範を示してはいけけないのだと言つた。 9・9・28条 上 249

○一時にお客様、つまり勝夫人、疋田夫人と二人のお子さん、玄亀(長男)と保爾(二男)がみえた。アデイはアニー・トルーのところへ午後を過ぎしに行つていたので、私がおちびさんたちの相手をしなくてはならなかつた。日本の子供たちは好きだ。とても礼儀正し(249)い(250)がかわいくて、いつたん始まるとたいへんなおしゃべりである。 10・2・1条 上 317

○富田氏と、勝家の方々と、滝村家の方々が、次に来られた。皆よそ行きの着物でもきれいだ。疋田(海舟の娘、孝子の嫁ぎ先)氏の長女のお輝ちゃん(248)は髪から何から大名のお姫様のような姿であつた。 10・12・24条 上 446

○玄亀が一日中アデイと遊んでいったが、そのほかにも大勢の来訪者があつた。玄亀とアデイはおかしな取り合わせである。アデイ(279)はとび色のお下げに生き生きした膚、背が高いのに対して、玄亀(249)は背が低く、黒髪、小さい下がり目、色黒の丸顔である。二人が最初にしたことは、天水桶の栓を抜いて二人ともびしょ濡れになることだつた。それから真つ黒になつて、泥まんじゅうを作つた。 11・6・6条 上 558

○玄亀ちゃんが庭で遊んでいたの、彼を連れてきて聖書の物語をして聞かせた。そのうちに大きい男の子たちが『夜明け』を勉強しに来たが、玄亀ちゃん(249)は私の横にじつと腰掛けて聞いていた。とてもかわいい子で、私は大好きだ。私を見かけるといつも「クララさん」とか「おクララさん」とか呼ぶ。 11・12・15条 下 107

○今日弥三郎に暇を出した。最近(249)はうまくいっていなかったのだ。ケライとして田中を雇つておく価値が今日(249)はじめてわかつた。今まではこういう種類のことは全部私がしなければならなかつたのだが、それはつらい仕事であつた。ところが今日はまったく偶然のよう(249)にして疋田氏がみえて、田中とお話をなさつた。しばらくすると弥三郎が呼ばれて、給料を下げるがよいか、と言われた。彼が

〇〇〇〇〇〇〇〇
な顔をしていた。

12・7・20条

下 277

○それから私は、戸口のところでお茶を飲んでる内田夫人のところへ行き、杉田 武さんから来た手紙を読んでいただいたお礼を言い、赤ちゃんが亡くなってあの方はさぞ悲しんでおいででしょうと言った。「皆さんともお悲しみでしょう」と内田夫人。「赤ちゃんは誕生の時から洗礼を受けていました。〈センレイ、ウク〉「え？まあね、あの子は弱い子だといつも思っていました。そのせいで亡くなったんですよ」と内田夫人は言った。「せんれい」のことを何か病氣の名前だと思ったのだ。疋田夫人は姉の無知を恥じて⁽²⁴⁷⁾ささやいた。△△△△△△「ちがいますよ、お夢姉さん、洗礼というのは宗教の儀式で、病氣の名前ではないのですよ」

12・8・10条

下 287

○昨晚も、小さな黒鳥のような玄亀が私に抱きついてきて⁽²⁴⁹⁾悲しそうな声で「クララさん、オクニへ、オカエリナサルカ」と言う。「ええ、玄亀、そのうちにね、でもまだ行かないわ」と黒い髪を軽くたたくと、「行ってしまったらとつても悲しい」と言う。「私もよ。でもいつしよに行かれないかしら。どう」「イヤ、イカレマセン」⁽²⁴⁹⁾「どうして。アメリカにはいい子がいっぱいいるから、いつしよに遊べるわよ」「日本人の子か？」と玄亀君は心配気にたずねる。「ううん。アメリカ人よ」「じゃ僕行きたくない。話できないもの」「それじゃ、私が遊んであげるわ。それでどう」「でもクララさんは男の子じゃないもの」と心得顔に黒鳥君は言った。⁽²⁴⁹⁾

12・11・11条

下 352

○勝氏のところからは小さな玄亀が最初に来て、⁽²⁴⁹⁾たわいなしにおしゃべりをするので面白かった。「クララさん、どうしてそんなに鼻が高いの。ああわかった、外国人だからだね。でも僕みたいにかっこよく低くしたいなら、ただ『ぼくぼく』って言えばいいんだよ」と言⁽²⁴⁹⁾って、ほとんど目に見えないほど小さい自分の鼻を、小さな人差指でトントンとたたいた。「でも小さい時にこれを知らなかったから、きつとこうしたんだね。『ぼくぼくぼく』と⁽²⁴⁹⁾小さな鼻をつまんで引っ張りあげた。玄亀はお茶目な子だ。」

○私は小さい玄亀、保爾と遊び、子供が必ず喜ぶ「黒い小鳥が丘に二羽。一羽はジャック、もう一羽はジル」と「ブー、カチン」という遊びを教えた。玄亀は遊んでいるうちに間違つて弟をぶつてしまったので、甘やかされている保爾は(250)大声で泣きだし、玄亀は勉強しなさいといわれた。養母の内田夫人は保爾を抱き上げ「おおかわいそう、眠い眠い」と言ったが、保爾はしゃくりあげるのを止めない。夫人は保爾をゆすぶって、「静かになさい。お母さんのところへ返しますよ」と言った。(中略)お逸は哀れな玄亀に(251)ひどく怒つて「すぐ勉強しなさい」と言うと、玄亀はおどおどと「でもおばさま。ヨ、ヨ、ヨシは今晚、勉強することはありません」と答えた。そこで玄亀は就寝時間までいることを許された。時間がくると一人一人に丁寧にお辞儀をし「ご機嫌よう、おばさま、今晚の無調法お許しください」と(249)小さな声で言つた。

○間もなく近くの鐘の音に答えるように、寺の中の鐘が鳴り、この荘厳な響きはしばらくの間続いていた。その間中、内田夫人、ヤーちゃん(保爾)と私、それに神山(内田家の家扶)と内田家の老僕は、かしこまって坐つて待つていた。ヤーちゃんは火鉢の中から炭を指でつまみあげては、みんなのほうを見て(250)ニヤニヤ笑つていた。間もなく本堂に迎えられた。17・2・7条 下 508

(252) ヒル

○ブリンドリー氏のほかはみんな私たち二人のまわりに集まつてしまったので、ヒル氏はのけ者にされたように感じたらしく、「日本語のしゃべれる外国人の女の子に夢中になるなんて、日本人は変わつてますね」と言つた。(252)真つ赤な顔をして、息づかいがいつも以上に荒く、目玉はますます飛び出していた。「ほかに誰もいなかったら、あの女たちは、あの子をつれて、家中見せて歩いているだろうな」とも言つていた。

(253) ビンガム、ジョン、A. (日本駐在美国全権公使)

(254) 同夫人

(255) 同令嬢ルーシー(フレイジャー、フレッド)

夫人) ——— (312) モクリッジ (ホイットニー、クララ祖父)

○午後、母やアディとアメリカ公使ビンガム氏の家を訪ねた。(中略) ビンガム夫人は⁽²⁵⁴⁾小柄な婦人で、若くはないが親切で快活な方だ。私は夫人と、豪華な家具のある暖かく気持ちのよい家にすっかり魅せられてしまった。 8・11・16条 上77

○やがて夫人がおいでになり、軽食をして行くよう誘ってくださったので、私は帽子を脱いだ。ビンガム氏が入って来られ、手を取って食卓に連れて行ってくださった。(中略) 夫妻はめいめい背の高い古風な感じの椅子を持っていらっしゃるが、ビンガム氏がそのゆったりした椅子に深く坐り、^{ひじ}肘を肘掛けにのせて⁽²⁵³⁾⁽³¹²⁾指を独特のやり方で握りしめている様子は、私の祖父にいつもよりもずつと似ていた。ビンガム氏の⁽²⁵³⁾まじめなきつぱりとした口調を聞き、⁽²⁵³⁾半分心配そうな、半分ほほえんだような顔を見ていると、⁽³¹²⁾私の祖父の面影が目の前に浮かぶ。祖父は政治に深く通じ、民主党とテイルデン知事を痛烈に批判していた人だ。

9・11・23条 上276

○日曜日にアディと教会から帰って来る途中でビンガム公使に出会ったが、公使は^{きびす}踵を返して私たちといっしよに家まで来られ、しばらく腰掛けて休まれてからまた帰って行かれた。途中の会話は面白かった。公使は十五年ほど前に起こった通訳の殺人事件のことを話された。私が二度とそんなことがありませんようにと言うと、公使は「私のいる間は大丈夫」と言われた。彼は祖国とご自分のお子さんのことを誇りに思っておられ、たえず両方をほめておられる。ほんとうに親切で人の良いご老人で、私もあの方の孫だったらよかつたと思う。⁽²⁵³⁾⁽³¹²⁾それにうちのモクリッジお祖父さんにそっくりなのだ。 10・11・19条 上423 424

○伊藤(博文、参議)、大久保(利通、内務卿)その他の日本の高官たちの次に我が国の公使ジョン・A・ビンガム氏がステイヴンズ書記官と通訳のタムソン氏を従えて乗りつけて来られた。毛皮の裏のついたコートに山高帽のビンガム公使は、金モールをつけ、拍車のついた長靴を履き、^{かぶと}兜をかぶった他の国の公使に少しもひけを取らない堂々とした姿であった。(中略) あるアメリカ人が、

ビンガム公使も立派には見えるが、自分はやっぱり金モールが好きだ、と言った。 10・11・30条 上 432

○ビンガム氏はすべてのアメリカ人の保護者であり、父親である。あるイギリス人がこう言っていた。「パークス夫人はとても良い方だけど、アメリカ公使館のやさしい(254)小さいご婦人とは比較にならない」と。いつも好意的なことばをかけてくださり、私たちみんなを愛し尊敬していると云われた。

11・10・5条 下 59

○今夜父と母がビンガム公使に用があるというので、私もいっしょに築地へ出かけた。公使はとても親切でお父さんのようであり、私のお祖父さんにそっくりに思えた。はじめ公使夫人は、荷作りに忙しくて誰にも会えないと言われたが、やがて私たちが来ていると聞いて、会いに下りて来られた。夫人はいろいろ親切なことばをかけてくださった——特に母や私に対して。

11・10・23条 下 70

○今朝、母が同人社から帰ってから、ビンガム夫人に会いに行った。母はアメリカの土地の税金について、公使にお聞きしたいことがある、私はウィリイに東京で職を見つけていただきたかった。公使はとても親切に、細々としたことまで教えてくださり、法律の講義のようだった。ウィリイの勤め口も喜んで探してくださるとおっしゃり、私は大変ありがたかった。ビンガム夫人も相変わらずやさしく、(254)容貌も態度もちつとも変わらず、昔どおりゆつくりと話をなさる。

12・6・9条 下 233

○十一時に公使館へ行つた。母が途中まで来た。ビンガム夫人はとても愛想がよく、今度の日曜の夜、フレイジャー氏と祈禱会に来るかもしれないとおっしゃった。夫人は、フレイジャー氏と結婚後に亡くなられたお嬢様のルーシーさんのことを話だし、(255)クレヨン描きのすてきな肖像画を見せてくださり、(254)涙ぐんでおられた。小柄でやさしい方なのだ。

12・6・23条 下 241

○まず第一にアメリカ公使館に行った。客間でしばらく待っていると、ビンガム夫人が、(254)やさしい、貴婦人のような微笑をたたえて出ていらつしゃった。この大好きな友達や、うす暗くて静かで涼しい客間から離れ難く、私は二時間もここにいた。

12・8・18条 下 295

○フレッド大佐は玄関まで案内してくださり、石段の上で話をした。(中略)そこに私たちの人力車が来たので、それに乗り、グラント夫人によろしくと言いながら走り去った。ちようどその時、アメリカ公使館の馬車が、ビンガム夫妻を乗せて近づいて来た⁽²⁵³⁾。大層驚かれた様子で、ビンガム公使は窓から頭を出し、中の夫人に向かって「クララちゃんだよ」といった。「それにキャツ(勝)のお嬢さまも」とビンガム夫人が応じた。

12・8・29条 下 319

○皆さん私にはとても親切だったが、すべてはビンガム夫人の親切な庇護によることは私にはよくわかっていた。公使が冗談めかしておつしやつたように、一時間以上も「うろついた」のち、ついに私たちはふたたびお池の近くに呼ばれた。

17・4・25条 下 523

(256) フェノロサ、アーネスト、F. (東京大学〈哲学〉教師・文部省美術取調委員) 夫人リジイ、グッドヒュー、M.

○午後にフェノロサ夫人がみえた⁽²⁵⁶⁾。とても美しい方だが無神論者だ。

12・4・17条 下 187

○きのう一日と今日の午前中、ひどい風邪で頭と喉が痛くて寝ていたが、午後には起きて服を着、わざわざ加賀屋敷から訪ねてこられたフェノロサ夫人とメンデンホール夫人をお迎えするのに間にあつた。フェノロサ夫人は若くて⁽²⁵⁶⁾、とてもきれいな方だが、イギリス人の男の人たちは活発すぎるのでみな嫌っている。だが私はつんととりすましたイギリス女や、ドイツ人の陰気な無関心さよりはるかに好きだ。夫人は話上手で、⁽²⁵⁶⁾どことは言えないのだがアメリカ的な感じのする人だ。生まれ故郷のマサチューセッツのセーラムのことをすっかり話してくださったが、とても貴族的で文学の盛んなところで、日本での華やかな暮らしに慣れたあと、ふたたびあの退屈な生活には戻れないと言われた。

12・12・2条 下 368

○汽車の中で佐野氏に会い、またウォデル氏が駅に迎えに来てくださった。フェノロサ夫人も偶然駅におられ⁽²⁵⁶⁾、滔々と歓迎のことば

△△△△△△
を述べられた。

15・11・25条

下
436

(257) 福沢諭吉 (慶應義塾創設者)

(258) 同夫人錦

○土曜日、お菓子焼いてから、富田夫人と、芝の福沢 (諭吉) 氏のお宅にうかがった。人力車の乗り心地もよく、福沢家の皆さんがとても親切で礼儀正しいので、私はすっかりうれしくなった。福沢氏は二階に案内して、江戸湾のすばらしい眺めを見せてくださった。(中略) やがて福沢氏が夕食をどうぞと言ってくたさったので、階下に下りてみると、食卓が半分洋式、半分日本式に用意されていた。(中略) 福沢氏はとても親切にもてなしてくたさって、「またいらっしゃい」⁽²⁵⁷⁾と念を押され、どうぞお風呂をお使いくださいと三度も言われた。

8・11・16条

上
78

○十時に私はお菊ちゃんを連れて車で三光坂に行った。(中略) 帰途福沢 (諭吉) 家に寄って、奥様を火曜日の夕食にお招きした。福沢氏がご在宅で上がっていくようにしきりにおっしゃった。私は靴がまだ泥んこだったので、靴を脱いで上がった。福沢氏はとてもご親切で、お嬢さんのお琴の練習を聞きに連れていってくださり、日本料理の昼食をご馳走になった。福沢氏のうちは日本建築だがほこり一つなくきれいである。いつも親切にしてくださるので私は先生を尊敬している。強い男らしい方で、いろんな有益な本を日本語に訳しておられる。先生の学校 (慶應義塾) は弁論で有名だ。また先生は非常にリベラルな考え方の持主である。開校した当時は杉田 武氏がただ一人の学生だったが、今では大きい学校になっている。福沢氏は日本のために大いに功績があるかただ。

11・2・16条

上
488

○福沢夫人、おサンさん、杉田夫人の三人が二時の昼食にみえた。お逸も残って通訳を手伝ってくれた。(中略) 福沢夫人と長女のおサンさんは食事の時間ぎりぎりにお着きになった。二人とも立派な服装をしておられた。夫人は相当の年配なのにほんとうにきれいだ。日本の女の人は概して早くふけこむのに、⁽²⁵⁸⁾この方はいつまでも若い。年配のお客様であまり話ははずまなかったが、それなり

に楽しんでおられたことと思う。

11・2・19条

上 490

○十時に家を出て、まずお逸のところへ病氣全快祝いを言いに行った。(中略)次に福沢先生のところへアルバムに書いていただけのために行った。彼は上機嫌で部屋に入って来られるなり、あらゆるお世辞を一気に並べたてられた。私の願いに對し、意地悪をして、字は書けないのだと言われた。「このへんに書の上手な人ならいっばいいますよ。誰か呼んできましょう」と言われたが、私は先生の書が欲しいのだと言った。そうしたら、何か印刷してあげると言われるので、そうじゃない、書いて欲しいのだと言った。それでやつと笑いながら降参されたが、ほんとうに困り果てたという様子で、どうしても書けないと言われた。有名な大先生も、ほんとうに困っておられた。勝氏の歌を見て嘆息され、自分の字は「大下手」だと言われたが、これはみんな冗談なのだ。

11・4・4条

上 522

○外に出ると馬上の福沢先生にばったり出会った。先生はすぐに馬から下りて、ウイリイに金沢での成功のお祝いを言われた。石川県令の桐山(純孝)氏から福沢先生に手紙が来ていたのだ。福沢先生は英語と日本語をやたらに混ぜて奇妙な話し方をなさるので、何を言っておられるのかわかりにくい。例えば桐山氏のことを話すときに「ミスター桐山イズほんとにカインドマンけれども、ヒイズ大層ビジイ、この節、イエス」といった具合である。

12・1・7条

下 125

○ごわごわしたハカマで威儀を正した背の高い男らしい福沢(諭吉)氏は、まわりの背の低い人々の上にそびえていた。こちらを見てうれしそうな様子で、低いお辞儀をし、小声で歓迎の言葉をつぶやかれた。この日出席した紳士方で和服は福沢氏だけだった。しかし立派な着物を召された姿は、体に合わない洋服を着て身のこなしのまずい他の紳士たちよりずっと堂々として威厳があつた。福沢氏は思想上完全な革命を遂げられた。というのは、洋式の家、洋式の生活様式を捨てられたばかりでなく、もう洋服は召されないし、私たちのような挨拶の仕方もなさらない。しかしあの方は今までどおりの方で、東京の三著名教師(福沢・中村正直・津田 仙)の

欲しいと頼んだ。彼は玄関の中に私を待たせて二階に上がっていった。そして次のような会話が取り交わされているのがいや応なしに耳に入ってきた。「お嬢様、お客様がみえています」「どなた?」「東京からの方で、私は初めてお目にかかる方です」「女の方?」「はい、若い女の方でございます」「私くらいの年?」「はい、でももう少し年下で、小さい方です」私はくつくつ笑ってしまつて、その先は聞こえなかつた。そこへアニーが下りて来て、私を見ると「あら、クララじゃないの」と大きな声で叫んだので、使用人はやにや笑いながら台所へ消えていった。アニーが客間に案内してくれたが、部屋はごつた返しになつていて、明らかに大掃除の最中だつた。私たちはソファに坐つて、私は自分の冒険談を威勢よく大げさにしゃべりまくつた。アニーはまじめ一点張りで、笑わせろするには相当の努力がいるのである。まだ十六歳なのに三十歳ぐらいの感じである。それに六十歳の人ほどいろいろ病氣を持つている。彼女を訪問すると、いつもひどく憂鬱になる。不満だらけなのだ。ああ、もしも彼女が眞の幸福の源を知っていたなら、今年になつて一回しかパーティに招かれなかつたとか、きつとオールド・ミスになるにちがいない、といつてこぼしている代わりに、元氣を出して神様のため、あるいは自分の修養のためにとめるはずだ。

11・6・22条

上 578
下 579

○きのうメイ・ブラウンとアニー・ブラウンが来て、今日昼食をいっしょに食べてから永楽町の展覧会に行こうと誘つてくれたので、公使館の帰りにマツカーティ先生のお家に寄つた。アニーはいつものようにだまりこんでいた。背はますます高くなつたが、一体いつ成長が止まるのだろう。きれいな黒のアルパカの洋服を着て、白い毛織のコートに、前面に赤いばらの蕾の飾りのついた茶色の帽子をかぶつていた。

12・3・1条

下 151

(263) ブリンドリー、フランシス令息フレッド → (283) マクラレン、サミュエル、G. (一致神学校教師・宣教師)

○日曜学校ではマクラレン氏がハガル(アブラハムの妾、イシマエルの母)の話をした。フレッド・ブリンドリーがとても熱心に聞いているようなので、先生は主にそちらにむけてしゃべつていた。そのうちフレッドに質問をしたが、期待した答は返つてこない。質問をくり返すと、⁽²⁶³⁾不自然に大きな声で、「先生、すみません、風邪で耳が」といわれて、また先生は声⁽²⁸³⁾を大きくしてくり返したが、

めにして「ホイットニーのざくろレモネード」と銘打つたらと言った。

10・8・31条

上 410

○ヘップバン夫人は、やさしく迎えてくださった。ピンクの絹レースの帽子が⁽²⁶⁹⁾ほほえむ顔にぴったりと似合っていた。泊まるのかと思われて、二階に行つて荷物を置いていらつしやいとおつしやつた。

12・4・19条

下 190

○夜私たちはとても楽しく歌を歌った。「ジュアニタ」の美しいメロディーや「三人の漁師」のもの悲しい音にさそわれて、先生が書斎から出てこられ、いつしよに古今讚美歌集の中で好きな曲はじきに全部歌ってしまった。リーナ（ミス・リート）が歌わないので、先生は⁽²⁶⁸⁾ご自分のすばらしいテノールに合わせられる人がいて喜んでおられたし、私のほうも聞きあきた自分の声にあわせてくださる方がいてうれしかった。私も楽しかったが、ほかの方々も楽しかったと思う。

12・5・24条

下 223

○今日は八時の汽車で横浜へ行った。母は婦人会に出席するために、私はヘップバン夫人にお会いするためだった。（中略）讚美歌の後ヘップバン夫人がお祈りをし、それから日本での生活の話をなされた。二十年前の十月十八日に、ヘップバン先生と金沢に上陸した時には、友達もいなければ言葉もわからず、助けになる本も何もなかった。日本での最初の日曜日の礼拝には、先生が説教をなさり、夫人がたった一人の聴衆だった。翌週、船員が一人来て、その次の週にはもう一人、そしてブラウン先生一家が参加した。それからヘップバン夫人が日曜学校を始め、七年後には先生の辞書も完成したので、日本上陸の記念日に夫妻は横浜港を出港した。「そして今、二十年前は不可能だと思つたこのような会が可能になりました」と夫人は⁽²⁶⁹⁾目をうるませて言われた。「皆様は若くていらつしやいます。主人も私ももう人生の後半に入り、間もなく―」ここで夫人は⁽²⁶⁹⁾声を詰まらせた。

12・11・29条

下 365

○ヘップバン夫妻と昼食のお約束があつたので、今朝、新橋へ行った。駅につくとちょうど十時半の汽車が入つてきて、旅なれない旅行者をかまにしようと待ちかまえている車夫の手から博士をお救いした。十二時に家につくと、昼食ばかりでなくデイクソン兄弟も待つていた。食事の間、⁽²⁶⁸⁾話かはずみ、⁽¹⁹⁸⁾冗談が乱れ飛び、⁽¹⁹⁹⁾みんな上機嫌だった。

13・1・8条

下 409

(270) ベトン夫人

○私は、ド・ボワンヴィル夫人のお伴をして、三河台のベイリー夫人の家へキャロルの練習に行った。(中略) 集まったのはそう大勢ではなかった。ウイラン夫妻、ベトン氏と背の高い美人の夫人、ショー先生夫妻、ディクソン氏、ターリング氏に私たちである。楽しい練習を終えて十時に帰ってきた。

11・12・10条

下 105

(271) ベネット、アルバート、A. (バプテイスต์教会牧師)

○今朝はアンガス氏が東京から見え、ウイリイ、アデイ、私とを教会に連れて行ってくださったが、ディクソン兄弟も来ていた。新任のバプテイスต์教会牧師のベネット氏が説教をした。言葉づかいは洗練されていないが、平明で要領を得ており、日常生活から例を引くなど、彼の人柄が表われていた。

13・1・25条

下 433

(272) ペール(横浜コーヒー店主)

○フランス人の経営するペール・フレールで、すばらしくおいしいコーヒーを飲んだ。母はペールさんにねだって、煎ったコーヒー豆を一ポンド売ってもらったが、ペールさんは惜しくてたまらない様子だった。

11・4・20条

上 528

(273) ベルツ、エルウィン(東京医学校・東京大学医学部教師) ↓ (277) ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、

L. (クララ令母(愛称ペティ、ラヴィン))

○母はまだ起き上がれないので、加賀屋敷(本郷)からベルツ先生に来ていただいた。シモンズ先生が来られないなら是非そうしなさいとヘップバン夫人に勧められたのだ。体の大きい礼儀正しい方だが、ドイツ人特有の訛りがある。二、三質問されたあと、蛭を処方されたので震え上がった。まだ見たこともないそんなものを、とても使う気にはなれなかったが、母がどうしても言うので、

先生は五十四匹とおっしゃったが二十四匹だけ田中を買ってこさせた。

12・4・22条

下 193

○家に帰ると、グレイ夫人がみえ、アンガス氏、ベルツ先生もいらつしやつた。先生は診察カバンを持って来られて私たちみんなに注射をしてくださった。とても親切で⁽²⁷³⁾率直にものをおつしやる方で、家庭医としては貴重な存在だ。

12・6・23条

下 241

(274) ヘルム、アドルフ (開成学校・官立外国語学校 (ドイツ語) 教師) ↓ (10) アンガス、ウィリアム、M. (工部大

学校 (土木工学・測量術) 教師)

○ヘルム先生は今日は上機嫌で⁽²⁷⁴⁾次から次へと冗談を言つて、私たちを面白がらせた。日本にとっても長くいたので、先生は外国人の気まぐれの話をいっぱい知つておられる。

12・10・27条

下 339

(275) ボアソナード、グスタブ、エミリ (太政官法制局御用掛) 令嬢 ↓ (337) ロウ長官夫人 (341) ワシントン、ジョ

ージ元美国大統領夫人

○井上^(警)伯爵が天長節(三日)に舞踏会を催され、ウィリイと私は公使のご家族といつしよに出席した。大きな催しで、約千五百の招待状が出された。場所は春にバザーが開かれた鹿鳴館であつた。部屋が区切られていたので、前よりさらに小さく見えた。ほとんど全員が出席した。ピンガム公使はロウ長官夫妻をつれて来られたが、ロウ夫人は⁽³³⁷⁾絵のように美しくかつた。白い髪の毛をしていたが顔の色はみずみずしく若々しかつたので、きつと髪に粉をつけているに違いない。ほんとうにお若い方なのだと思わせるほどであつた。しかしお嬢様が二十七歳か八歳なので、もちろんそうしたことは論外である。夫人は薄水色の服で、ダイヤモンドを身につけ⁽³³⁷⁾⁽³⁴¹⁾前世紀風の髪形をして、ちようどワシントン夫人の絵のようであつた。ミス・ボアソナードが私に⁽²⁷⁵⁾ささやいたようにとても上品で、誰でもロウ夫人を好きになつた。この夜の服装は格別に立派であつた。私は九鬼夫人がご出立の時にくださった錦の帯のドレスを着ていつた。出席できたのはうれしかつたけれど、あまり楽しくはなかつた。あまりにも人がいっぱい、また暑すぎた。

17・11・12条

下 547

- (276) ホイットニー、ウイリアム、C. (クララ令嬢) (277) 同夫人アンナ、L. (クララ令母 (愛称ペティ、ラヴィ))
- (278) 同令息ウイリイ (クララ令兄) (279) 同令嬢アデレイド (アディ) (クララ令妹) ——— (36) 内田夫人 (勝 安芳 (海舟・安房守) 長女夢 (ゆめ)) (39) ウメ令息 (43) 大久保三郎 (二翁令息) (45) 大鳥圭介 (工部頭・工部大学 校長) (47) 同令嬢菊子 (きく) (60) 小野 (報知新聞論説委員) (67) 勝 安芳 (海舟・安房守) (68) 同夫人 ため (69) 同長男小鹿 (70) 勝 安芳 (海舟・安房守) 長男小鹿夫人栄子 (えい・たて) (71) 勝 安芳 (海舟・安房守) 三女逸子 (お逸) (72) 勝 安芳 (海舟・安房守) 三男梅太郎 (107) 幸野棟嶺 (日本画師匠) (115) こまつ (勝家使用人) (144) シュウ (ホイットニー家使用人) (145) 同夫人タケ (153) 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配 翻訳御用頭取) 夫人俊 (154) 杉田玄端令息武 (156) 杉田玄端令息雄 (159) 杉田玄端令息武夫人よし (188) チャプ リン、ウインフィールド、S. (開成学校・東京大学 (土木工学) 教師) (198) デイクソン、ウイリアム、G. (工部大学校 (英語・英文学) 教師) (213) 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 夫人縫 (216) トルー、マリア、T. P. 夫人 (新栄・桜井 両女学校教師・宣教使) (218) 中原国三郎 (銀行家) (246) 疋田正善 (247) 同夫人 (勝 安芳 (海舟・安房守) 次女 孝子 (小太郎)) (249) 同長男玄龜 (250) 同次男保爾 (253) ビンガム、ジョン、A. (日本駐在美国全権公使)
- (273) ベルツ、エルウィン (東京医学校・東京大学医学部教師) (288) 松平確堂 (元美作津山藩主) 養女八百子 (やお)
- (289) 松平定敬 (定次郎) (元伊勢桑名藩主) (301) 三浦 徹夫人柳

○外へ出ると、数名の人が「人力車」と呼ばれる乗り物のそばで待っていた。これは二つの車輪で上手にバランスを取って人を運ぶ小さな乗り物である。(中略) 私はその一台に乗り込んで、ホテルに駆け足で連れて行ってもらった。その時私が感じた気持ちは、とても言い表わすことができない。それはたとえようもなく滑稽で、笑いをこらえるために息を詰めていなくてはならなかった。母

とアディはまじめな顔で乗り込んだが、よく見ると、母が私と同じ経験をしているのがわかった。土地の人々がもの珍しそうに見守る中で、母はさも慣れてるように見せようと、時々こみあげる笑いをこらえて懸命な努力をしていたのである。(中略) ちょうどその時振り返ると、父が傘を片手で振りまわして、母の人力車のあとから、母の車を引いている日本人に「止まれ」と叫びながら駆けて来るのが見えた。しかし、それは「どんどん行け」と言っているようなものだった。というのは車夫は全速力で駆け出したからだ。

8・8・3条

上 32

○ついでこの間滑稽な出来事があった。ウィリイが母のためにペパミント・キャンデーを買に行ったのだが、ウィリイは日本語をほとんど知らないで、間違いが起こったのである。ペパミント・キャンデーの日本語は「ハッカ」(薄荷)で、アクセントがあとの音節にある。最初の音節にアクセントの来る「ハカ」という別の語があり、意味はまったく違っていて「墓石」のことだが、外国人は一般的にアクセントの位置には無頓着である。ウィリイはそんなに似通った二つの語があることを知らないで、その語を「ハカ」と発音した。それゆえ墓石一ポンドくださいと言ったことになり、皆に大笑いされ、憤慨して別の店へ行ったのだが、また同じ誤りをして同じような目にあつた。ウィリイは帰って来てから説明してもらつたが、皆笑ってしまった。ウィリイはもう二度とペパミント・キャンデーなんか買わないと宣言した。

8・10・11条

上 65 66

○私は日本語の勉強を始めた。むろんとても面白いが、初めは正しい文字を書くのは少し難しかった。ある晩、お祈りのあとみんなでテーブルを囲んで話をしていて、小野氏は報知新聞の記事を書いておられ、ウィリイは富田夫人と日本語(?)で話をしていて、

8・12・1条

上 88

○母は今朝、ウメの子供が埋葬される前に一目見に行った。(中略)母は、子供にイエス様について話さなかつたことが悔やまれて泣かずにはいらなかつた。

9・7・1条

上 211

○ちょうどその時雨が降り出してしばらくやまなかつた。九段で花火を見る予定なのでウィリイが私たちを迎えに来た。スーギーと私が一台の人力車に、ジョージとウィリイが別の一台に乗った。アデイは行くのをいやがったので、花火大会が終わってからウィリイが迎えに来ることにした。九時にウィリイがアデイを連れに行くと、アデイは帰りたくないといって大騒ぎをし、あとでまたウィリイが行ったら、もう寝てしまっていたので、そこに一晩泊めていただくことにしたが、母は(277)いやな顔をしていた。

9・7・10条 上 218

○帰宅すると、午後中ずっと母は客の相手をしていた。シン普森夫人がいらつしやつて、ご自分がお病気の時のお返しに、母をと(277)ても慰めてくださったそうだ。(中略)母はすっかり疲れてしまい、人の話し声も我慢ができないほどいららして、しばらく泣いて(277)いた。

9・10・5条 上 252

○みんなが健康なのでとてもありがたい。母は(277)顔が丸々として艶々とした感じだし、私も確かに元気になっている。それも、この気持ちのよい季節のおかげに違いない。

9・10・22条 上 259

○お世辞といえば、アデイの気のきいた言葉を思い出す。いろいろな町を通っていると、女の人が私たちを何かと批評して、それも私たちの白い肌や、明るい色の衣服をお世辞にほめることが多かった。ある日何人かの女の人のそばを通り過ぎた時、アデイが私に言った、「クララー！私美しいんですって」それで私が「ああ、あれは日本人のお世辞に過ぎないのよ」と言うと、アデイは「そうね、たぶんそうね」と溜め息をついたが、少ししてから、「でも私、まんざら嘘じゃないと思うわ」と言ったものだ。

10・5・18条 上 365

○母が足を滑らせて、どぶに落ちてしまい、私は気が転倒するばかりだった。ウィリイが母をかかえて、人力車のところまで連れて行ったが、母の気を失った(277)真つ青な顔を見た時の私の恐怖は、なんと言い表わしてよいかわからない。

○今日は憂鬱な日だった。昨夜は母の足元に坐つて、母の膝に頭をつけて思いきり泣いた。母のやさしい手を頭に感じながら。こういう姿勢で泣くのは気持ちがいい。私は本気で泣いてはいたが、一方で泣くことを楽しんでいたので。

10・11・30条

上 438

11・1・3条

上 455

○アデイはイーディス・ダイヴァーズのお誕生日のパーティに招かれて有頂天だった。(中略) 今までたいていの時は私がいっしょに招かれたので、アデイが一人でよそへ行くのは生まれて初めてのことだったから、向こうの家に着いたとたんに怖気づいてしまった。二人の間のドアが閉まる時にアデイが私に見せた絶望の表情は、なんとも滑稽だった。「クララ、どうしたらいいの?」というアデイの声が玄関の奥から聞こえてきた。

11・1・31条

上 471

○帰りは月明かりの中を帰ってきたが、お逸の説明によると、よく月明かりに花見をして、歌をたくさん詠む人があるそうだ。通りには酒を飲み過ぎた酔っぱらいがいっぱいだった。しかし無邪気な連中ばかりで、一人はお菓子をどうぞと差し出したし、一人は母の人力車に倒れかかって、死んだふりをした。まわりの人は面白がったが、アデイはびつくり仰天した。

11・4・20条

上 526

○母とアデイは横浜に行かなければならなかった。ウイリイと私で留守番をした。ウイリイは陽気に口笛を吹き、私の手の平に二つのハートを矢が射抜いている絵を描いたり、鼻に海賊の印の頭蓋骨と骨を組み合わせた絵を描いたり、頬に字を書いたりした。

11・6・3条

上 553

○ウイリイが癩癩を起こして、横浜へ行ってしまった。ヤスが仕出かした間違いに腹を立てて、ヤスが出るか自分が家を出るかだと宣言した。いろいろの理由で私たちはヤスにいてもらわなければやっていけない。ウイリイはかんかん怒って出て行ってしまっ

振りに彼といっしよの生活を楽しみ、また、いろいろなものを整理している。

12・8・1条 下 278

○午後は大勢の人が、饑別をもってお別れにこられたので、父は⁽²⁷⁶⁾大変喜んで、夕食の時はとても機嫌がよかった。勝氏、津田氏、杉田氏、小鹿さん、お逸もいたが、私たちは気が沈んであまり話もしなかった。

12・12・11条 下 379

○今日は、私の生涯でもっともつらい一日だった。父が発つたのだ。(中略) やつと駅に着くと、杉田 武、盛、村田、津田、小鹿、マッカーティ夫妻、矢野と西田など大勢の人が見送りに来ていた。生徒たちはグラント將軍にしたように、大きな紙をひろげて送別の辞を読んだ。父は⁽²⁷⁶⁾とても喜んで紳士的に、威厳をもって別れの挨拶を交わした。

12・12・12条 下 381

○大鳥、津田、林氏のお子さんや、ほかのいたずら小僧たちも目を輝やかせて、賞品のいっぱいのお盆の方を眺めた。(中略) アデイも「ちようどほしいと思つていたもの」をもらつて⁽²⁷⁹⁾大喜びだった。

13・1・14条 下 420

○本当に突然だった。とても大きな衝撃だったので、二週間たった今でも、取り返すことのできない母の死が本当だとは思えないのである。たった二週間前だけれど、ずいぶん前のことのように思われて、ほとんどすべての出来事は、遠い記憶の彼方に消えてしまった。時々、母の⁽²⁷⁷⁾美しい顔、美しい黒い眼、やさしいほほえみを思い出したり、母が「クララ」とか「娘よ」とか「わが子よ」と呼⁽²⁷⁷⁾び、⁽²⁷⁷⁾細い、白い、⁽²⁷⁷⁾すべすべした指を私の顔の上に置いたりしたことを思い出そうとするのだが、なかなか思い出せない。お⁽²⁷⁷⁾美しい母には、いまわしいお墓はふさわしくない。暗闇の中にとると、天国も同じように感じられる。誰でも天国は違うというが、私は以前はあまり天国のことを考えたことがなかった。母がいるところが私の天国であった。そして今はぼつかりと穴があいたようである。私にとつて、この世には何もないような気がする。(中略) 母は私が⁽²⁷⁷⁾美しい黒髪をとかしたり、こまかい櫛ですいてあげたりするの⁽²⁷⁷⁾が好きだった。よく体を洗つてあげたが母はそれを⁽²⁷⁷⁾喜んだ。私はしゃれた、小さな爪みがきの道具を一揃いもつていた。そして母は私がお湯とよい香りの石けんを使つて母の手を洗⁽²⁷⁷⁾い、⁽²⁷⁷⁾桃色の細い爪を、美しい象牙のブラシとばら色の粉で⁽²⁷⁷⁾みがいてあげると大⁽²⁷⁷⁾変喜

〇〇だ。(中略) 私は六時か六時半に起きて、あつい日本茶を持って行く。お茶を飲んでから、顔と手を洗ってあげ、朝食の用意のため階下におりる。後には、食物をとるたびに、ひどい吐き気が起きたので、あまり食べられなくなった。母はとても気丈で、恐ろしい吐き気があつても、一生懸命食べるよう努力するのを見て、私は感動した。母は「早くよくなるように、子供たちのために食べるのだ」と言った。しかし、「ああ、クララ、私はちつともよくなるらない。私は日に日に弱って来ているような気がするの。こうして寝ているのにあきてしまった」と悲しげに言った。(中略) 『よい時代、よいところ』の中の、私がはじめて書いた短篇を母に読んであげ、私のすべての計画を説明したところ、「この世でよい時代は私にとっては皆すんでしまったわ」と、母は悲しげに言った。(中略) トルー夫人は、絶望の時に私たちに優しくしてくださった友である。母はトルー夫人を本当の妹のように愛していた。(中略) 夫人はよく母に思いがけないおいしいご馳走を持って来てくださった。たとえば黒いちこのジャム、グレアムパン、小さなクッキー、コテージ・チーズなどで、みんな母がとても好きなものだ。実際、母は亡くなる前一週間ほどは、コテージ・チーズとグレアムパンのほかは何も食べなかった。それをとても喜んで食べている母、美しい眼を輝かせ、頬に赤味がさしている母を見るのはとてもうれしいことだった。情愛とやさしさの故にトルー夫人を私たちは祝福する。(中略) 日曜の朝、私は十時まで、母の息づかいを見つめ〇〇〇〇で、痛む足をこすりながら、ベッドの近くに坐っていた。そして天の助けを祈った。母は吐き気のために全然食物がとれなかった。(中略) 母は、ウィリイにささえてもらって、長いことベッドに坐り、ウィリイといろいろなことを、とても快活に話した。そして、とても具合がいいように見えた。(中略) 今つづじは満開である。私は母のお墓に、何本かつづじを植えた。おお、私の小さな望みは、母の腕をとって、つづじを見ながら庭で、母の大好きな散歩をすることである。ああ、どうして—どうして、よりかかれるあのやさしい腕なしに、長い一生をずっと生きて行けようか! 背格好がちょうどよかつたので、私が腕をとってあげるのが好きだった。私はいつもそうしてあげた。(中略) 月曜日の午後、トルー夫人がおいでになって一晩泊まってくださった。「トルーさん、

あなたをおつかわしくださった主に感謝します」と母は言った。ベルツ先生がその夕方来られ、診察してくださった。先生は明るい
調子で母と話し、また来ますよと約束された。しかし、ウィリイに言われたところによると、病気はずっと進行しており、望みはな
いそうだ。母は早口で、先生に徴候を説明した。その時の母の眼は、並々ならず大きく輝いていた。声はだみ声だった。先生は、そ
れは母が一日中だまっていた、急に話しはじめたためだとおっしゃった。(中略) ああ、母にとつての恐ろしい苦痛の時間、私にと
つての心の苦悩の時間をどのように記録することができようか。私はタオルを換え、血の塊を取り除いた。(中略) ああ、あの長い
時間！祈りと絶望の涙の時間がなんと長かったことか！母の呻き声を聞くと胸も張り裂けんばかりだった。夕方近くになって、苦しみ
がはじまった時、母は思わず大きな声で「主よ、慈悲をたれ給え」と叫んだ。何度も何度も繰り返し「助けて、ウィリイ」「おお、
クララ！私を助けられないの？」「おお、トルーさん、ひどく痛い、こんな痛い目に会ったことないわ」と言い、それからまた叫
び、目が恐怖で大きく見開いて「おお、トルーさん、ごめんなさい、こんなこと言うつもりなかったのに。でも言わずにはいられな
かったの」と言った。(中略) そして壁にかけてあった二枚の「沈黙の慰安者」に書いてある聖句を繰り返し読んだ。「なやみの日に
われをよべ、我なんじを援けん、而してなんじ我をあがむべし」(詩篇五〇・一五) それらの言葉を母は何度も繰り返し「『なんじを
援けん』ということとは本当でしょうね」と何度もつけ加えた。そのほか、「恐るるなかれ我なんじと共にあり、驚くなかれ我なんじ
の神なり、我なんじを強くせん、誠になんじを助けん、誠にわがただしき右手みぎのてなんじを支えん」(イザヤ書四一・一〇) などの聖句
を繰り返したが、これらは母に慰めを与えたようだった。それでも、「主よ、私にお恵みを！」と母は叫んだ。(中略) 激痛の発作が
続き、その間中、母の叫びは胸も張り裂けんばかりだった。(中略) 母は静かになつてつぶやいた。「イエスの御名を、イエスの御名
を、イエスの御名にまさるものなし」そして、口をつぐみ、トルー夫人がその続きを言い終えると、母はうつらうつらして言った。
「あの方はいつでもやさしくてよい方です」「どなたのこと？」私はたずねた。「ああ大山夫人のことよ」それからとりとめのない話

がつづいたが、その中にイエスの名がしばしば出てきた。(中略) 私が母の背をしずかにさすっているうちに、母は眠りにつき、おだやかにそして静かに呼吸いきをしていた。(中略) 呼吸が突然変化を起こしたので私たちは力の限りのことをしたが、しずかな息は止まってしまった。(一八八三年四月十七日死去) (中略) 翌日母にお茶をあげる。いつもの時刻に私はふとお茶のことを思いつき、部屋に入り、亡くなった母にはようを言い、キスをしたが、それは私の全身をちぢみながらさせた。それから私は泣き、祈った。母は安らかな顔をし、幸福な神秘とでもいうようなやさしい微笑を口元にうかべていた。そのやさしい眼は、この世で、永久に閉ざされてしまったのだ。そして私の眼は涙にかすみ、重く憂いに沈んでただこの悲しい世の中をながめるばかりであった。

16・4・30条

下 455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467

○母は真(277)の威厳をもち、あらゆる点で尊敬を勝ち得ていたが、私の威厳といったらまるでお話にならない。

16・5・16条

下 478

○ほんの一年前の今日、私はなんと豊かで幸福であったことか、そして今は貧しくとり残されて。私はスコットランドにいたのである。あの美しいスコットランドに。クライド川をのぼってアランへすてきな旅をしていた。私はあの雲一つない美しい日を、静かにゆく流れを、そして私たちのうきうきした気分を、絶対に忘れることはできない。母(277)のやさしいおだやかな顔、デイクソン(198)氏の快活な打ちとけた笑い、我が心の快樂への完全な没入。しかし、今は、私の、そして逝き給うた母の環境は、なんと変わってしまったことか。

16・8・8条

下 487

○今日で私たちが日本に着いてからちょうど一年になる。(中略)「私たちは旅を終えた。日本に着いた。さあ、これから奮闘だ!」でも私はどのような奮闘かはあまり考えなかったし、何が襲いかかるかなど夢にも考えなかったが、何か悲しみの影がその朝の陽をかげらせ、私の魂に重い影を投げかけていた。母(277)の顔を明るくしていたあの純粋な喜びとは異なるものであった。母は巡礼の旅の目的が達せられたと思っていた。しかし母にとってこれがすべての巡礼の終わりになるだろうとは思ってもみなかったことである。

16・11・19条 下 490

○ほとんど毎夜、母の幻影が私の眠りを慰めてくれる。しかし母がいなくては、なんといううとましい目覚めであろう。昨夜、私はまた母といっしょに船の甲板に立っていた。母はやさしい幸福そうな、そして半ば楽しそうな顔つきをして波を越えて私の方へ漂ってきた、そして私が驚くのを喜んでいるようであった。母はとても青ざめていた。ああ、何と真つ青なお顔！私は歓喜して母にしがみついた。「ママ」私は涙をうかべて叫んだ。「では、本当に行ってしまったのね」「神様が私を健康にしてくださいましたのですよ」と母は言った。「奇蹟ね。神様がママを治してくださいましたのは」と私は答えた。私が見るのはいつも母の病気がよくなる夢ばかりである。

16・11・19条 下 491

○私はもう一度すべてを思い返している。ここ三日三晩、私はただ母のことのみを考え夢を見た。私の大切な美しいお母様。母に会いたいと思う心は別離の時間が長くなればなるほど強くなって行く。おお神様、あなたの大きなお恵みで、私が母に会うにふさわしい人になるまで私を死なせないでください。神よ、私のあわれな魂をお救いください。アーメン。 17・4・17条 下 520

○朝は五時半に起きて、おたてさんの葬儀のための準備をしていた。(中略)六時半頃、勝夫人は私たちを迎えに人をよこされた。行ってみると大勢の人が忙しく右往左往していた。勝氏でさえ、引きこもっていらしたところから出て来られた。そして時々、普段着のまま現われ、哲人のように、これらすべての変化に堪えておられた。勝氏は特にアディの背が高くなったことに驚かれ、姉より背が高くなったと言われた。

17・7・18条 下 539

(280) ボズ (ホイットニー家車夫)

○セイキチの車の車夫が一人ついて来た。ボズという名前だったが、⁽²⁸⁰⁾太つていて、⁽²⁸⁰⁾髪⁽²⁸⁰⁾の⁽²⁸⁰⁾刈⁽²⁸⁰⁾り⁽²⁸⁰⁾方⁽²⁸⁰⁾が⁽²⁸⁰⁾シン⁽²⁸⁰⁾シン⁽²⁸⁰⁾刑⁽²⁸⁰⁾務⁽²⁸⁰⁾所⁽²⁸⁰⁾ (ニユーヨーク州)の囚人みたいだったので、私たちは彼を「コンヴィクト (囚人)」と呼んだ。しかし、⁽²⁸⁰⁾大⁽²⁸⁰⁾変⁽²⁸⁰⁾感⁽²⁸⁰⁾じ⁽²⁸⁰⁾よ⁽²⁸⁰⁾く⁽²⁸⁰⁾慰⁽²⁸⁰⁾懃⁽²⁸⁰⁾な⁽²⁸⁰⁾人⁽²⁸⁰⁾で、濃い青の木綿のび

つたりとしてきれいな別当の上下服を着ていた。

10・5・18条

上
355

(281) マイヤー (マイヤーズ)、フレドリック、A. (東京英語学校・商法講習所教師)

○東京府が私たちの家のひどくいたんだ畳を替えてくれるというので、家の中をすっかり片づけた。ところが、畳屋が来て寸法を取り、畳表をはがしてしまつたあとで、矢野 (二郎、講習所長) が来てもとのように畳表を縫いつけるようにと言いつけ、私たちに新しい畳は入れられないと言つた。その上マイヤーズという新しい外国人教師を連れて来るといふのだ。間抜けの通風病みの太つた水ぶくれしたような男で、およそ無愛想である。横浜幼稚園からも開成学校からも追い出された人物なのだ。それでも矢野の友人なのだ。

11・3・20条

上
515

(282) 牧山先生

○この上なくやさしい顔をしたご老人の牧山先生は、私たちのそばにお坐りになつた。どういふわけか、先生は私と話をなさりたいらしく、絶えず私に話しかけられる。先生が口を開かれると、ほかの人たちは、しゃべつたり笑つたりしているのをばつたりやめて、私の答えを聞こうと待ち構えるので、私は固くなつてしまふ。というのも、先生のお使いになることばは、丁重な格調高いむずかしいことばで、私はわかるにはわかるが、自分のお粗末な口語で答えるのが気がひけるのである。先生は私に酒をすすめられたが、家では禁酒なのでお断りしなければならなかつた。先生は水を注文してくださつた。

10・11・30条

上
437
438

(283) マクラレン、サミュエル、G. (一致神学校教師・宣教師) → (263) ブリンドリー、フランシス令息フレッド

(284) マッカーティ、デイビィ、B. (開成学校〈英語・ラテン語・博物学〉教師・宣教師) (285) 同夫人ジョアンナ、M.

○今日、母は富田夫人と横浜へ行つた。私たちの協会の会合日なので、私も出かけた。今回はユウメイの家で開かれたが、マッカーティ夫人は喜んでおられる様子だつた。少し遅れて行くと、スージー以外は皆来ていた。マッカーティ夫人が笑顔で私たちを迎え

てくださった。私が持ち物を取り出してみんなに挨拶するとすぐ、今日の議長ユウメイが開会を宣言した。

10・3・28条

上 337

○きのうメイ・ブラウンとアニー・ブラウンが来て、今日昼食をいっしょに食べてから永楽町の展覧会に行こうと誘ってくれたので、公使館の帰りにマッカーティ先生のお家に寄った。(中略) 昼食はとても愉快だった。先生は折あることに⁽²⁸⁴⁾しゃれをとばして絶えず皆を笑わせ、とつてもユーモラスだ。こんな人といっしょに暮らすのは楽しいことだろう。 12・3・1条 下 152

○マッカーティ夫妻は横浜まで来てくださり、いろいろな話をしたりして私たちの気を紛らしてくださったが⁽²⁸⁵⁾あまりひつきりなしにペラペラしゃべるのでうんざりしてしまった。だが良い人たちなのだから悪く言つてはいけない。おまけにニューアークのランキン一家の親戚でとても親しくしているのだから。 12・12・12条 下 381

(286) マックレー令嬢ネッテイ——↓(262) ブラウン、サムエル、R. (私立神学校ブラウン塾開設者・宣教師) 令嬢アニー

(287) 松平確堂 (元美作津山藩主) 夫人 (288) 松平確堂 (元美作津山藩主) 養女八百子 (やお) ——↓(69) 勝 安芳

(海舟・安房守) 長男小鹿 (71) 勝 安芳 (海舟・安房守) 三女逸子 (お逸) (105) 小泉 (松平確堂 (元美作津山藩主)

家来) (120) さかや(?) すみ (松平確堂 (元美作津山藩主) 家使用人) (213) 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 夫人縫

(279) ホイットニー、ウィリアム、C. 令嬢アデレイド (アデイ) (クララ令妹) (301) 三浦 徹夫人柳 (344) 渡辺ふで

(福岡県令渡辺 清令嬢・小鹿島夫人)

○食後オルガンの練習をしていると、大鳥(圭介)氏がおみえになり、お坐りになるかならないうちに、箕作(秋坪)氏が、ある殿様(旧津山藩主、松平確堂)の令嬢(確堂の養女、やお)と三人の従者を連れて来られた。お付きの者はサムライが一人と侍女が二人だった。(中略) 十一歳のその令嬢は、赤ん坊のように体を洗ってもらい、着物を着せてもらい、そして遊んでもらうのだ⁽²⁸⁸⁾厚くお化粧をし紅をさしておられるが、その丸顔には表情といったものが全くない。いろいろのものに目をやりながらも、人形のように

一言も口をおききにならない。

9・2・16条

上 128

○授業を終え、客間で令嬢たちに絵を見せていると、ビンガム夫人がおみえになった。大名令嬢は美しい装いをしていた⁽²⁸⁸⁾。髪は結び立てで、絹の花のほかに二本のかんざし—金の球のついた琥珀のと、オパールをあしらった銀と黒檀^(こくたん)のとを挿していた。羽織はお家の美しい紋がついた最上の縮緬^(ちりめん)で、帯は桃色と黄褐色の錦織りだった。

9・3・1条

上 138

○松平夫人はかなりお年を召しておられ、肺癌にかかっていらっしやるが⁽²⁸⁷⁾、色白の優しい丸顔と、しとやかで楽しそうな態度やご様子からは、とてもそうとは思えない。美しい錦のお召し物をまとい⁽²⁸⁷⁾、柔和で落ちていらっしやるが、優雅で大名夫人にふさわしい方だ。襟は純白の絹で⁽²⁸⁷⁾、髪は短く切り、うしろをきちんとかしてある。優しい慈愛に満ちた目と、きれいな白い歯の見えるお口は魅力的だった。

9・4・7条

上 155

○今日みんなで写真屋に行くのだと、令嬢たちにきのう話しておいたので、今朝、おやおさんとおすみ⁽²⁸⁸⁾が豪華な着物姿で現われた。おやおさんは濃淡のある青、紫、灰色の美しい縞の入った縮緬^(ちりめん)の羽織を着ていた。非常に幅の広い綾織りの錦の帯には黒と青と白の縞が入っていた。着物は紫と白で、半襟は絹糸と金糸で烏や鳶^(つた)を巧みに刺繍した灰緑色の縺子^(しゆす)でできており、金色の帯締め⁽²⁸⁸⁾の留め金は銀だった。きれいに結び上げた髪に混ぜ物のない鬘^(べっしやう)の櫛とかんざしをさしていたが、富田夫人は、それは亡くなったおやおさんの本当のお母様の形見で、とても高価なのだと⁽²⁸⁸⁾言った。

9・4・13条

上 159

○きのう例の写真が届いたが、あまりよく写っていないかった。ともかく皆そう言った。富田夫人はすつかり曲がつて坐っており、三浦夫人はまるで葉を飲みながらしかめつ面をしているかのようだ。おすみは富士山でも調べようとしているみだし、おやおさんは表情がなく、まるで写真屋には自分の写真を撮る権利などないと考えているかのよう⁽²⁸⁸⁾に、強情な顔つきをしている。アデイはおびえて死にそうに見えるし、私は——いえ、私のことはよそう。だが、私はいつものとおり、つまり、ちっとも美しくない。おやおさんとア

には、英語を全然知らなかったのに、私が教え始めてからどんどん上達して、今では何年も勉強してきた大勢の学生にひけを取らない手紙が書けるようになったのだ。その手紙によれば、松平（康倫^{やすとむ}）氏の病状が悪化して、お母様が非常に困っているのです、今夜の会には来られないということであった。かわいそうなおやおさん。きつと失望しているにちがいない。私も失望した。おやおさんはキャロルをとてもよく覚えたので、私はその柔らかい声をみんなに聞かせたかったのだ。

○おやおさんの七十日の忌が明けたので、以前のように人力車で乗りつけてきた⁽²⁸⁸⁾前にも増して美しく、控え目な身なりであった。前に習ったことは少しも忘れていないばかりでなく、前よりも知識が増したようにさえ思われる⁽²⁸⁸⁾美しい声でみんなといっしょに歌も歌った。あの方が仲間に戻ってくれて、ほんとうにうれしい。

○食後みんな客間に移って、女の人たちは上手に歌を歌ったり楽器を弾いたりした。おやおさんと、お逸が二重奏をして、それからおやおさんが「鐘」のソロを上手に歌った。小鹿さんはすっかり魅せられた様子で聞いていた。

11・2・22条 上 495

○午後、お逸が迎えに来たので、いっしょにおやおさんを訪ねた。（中略）おやおさんは在宅で、私たちを広い玄関まで出迎えてくださった。ほかに大勢の使用人がひざまずいていた。おやおさんのあとについてたくさんの曲がりくねった廊下を通って、やっと客間に到達した。（中略）そのうちに松平夫人が入って来られた。ヨーロッパの王女にも似つかわしいような上品な方である。とても

11・7・26条 下 15

○クリスマスのお祝いを二十八日まで延ばすと、おやおさんは来られない。去年亡くなった松平（婚約者康倫）氏の一周忌なのだ。でもウィリイは二十八日でないと着かない。それで月曜日の三十日まで延期することになるだろう。おやおさんは背が伸びて一段ときれいになった。

11・12・22条 下 112

○四時頃、予定より遅く、私たちの二台の人力車は（中略）延遠館（浜御殿）の入口に着いた。（中略）ここから、蠣殻町へおやお

さんに会いに行った。おやおさんはほとんど変わっていないが、病気がつたので少々顔色が悪く、悲しげな様子をしていた。自分の家に帰ってしまったおすみに会いたがっている。今ではどこにも出かけない、庭へさえも。私たちに会ってうれしそうだった。

12・8・29条

下 319

○今日は、おやおさんとおすみが、結婚式以来はじめて来た。おすみはおやおさんとはいつしよにいない。おやおさんが三河の殿様にお嫁入りして、奥方様になったので、肩あげや娘風の髪形といつしよに、娘時代の友達とも縁を切るのが当然とされているのだ。オクサマは初め来た時顔色が青く、疲れている風で、腰のおろし方も威厳に満ちていた。(中略) おやおさんは英語で少し話をし、レース編みをしたり、猫と遊んだりした。

12・10・10条

下 336

○今日のお昼は、松平おやおさんが、いつもお供のおすみと小泉氏を連れずにみえたので驚いた。(中略) おやおさんはとてもきれいで、いやな小泉氏がいないので、とても自然に振る舞った。(中略) おやおさんは今週、皇居に菊を見に行ったそうで、美しく手入れされた庭のようすや、そこにお住まいの皇后様に敬意を表するために、門番小屋で下駄を脱ぎ、草履で入っていったことなどを生き生きと話してくれた。

12・11・21条

下 358

(289) 松平定敬 (定次郎) (元伊勢桑名藩主) (290) 第一夫人 ↓ (120) さかや (?) すみ (松平確堂 (元美作津山藩主)

家使用人) (279) ホイットニー、ウィリアム、C. 令嬢アデレイド (アディ) (クララ令妹) (323) 矢野二郎 (商法講習

所長・理事)

○この前の日曜日、ある出来事があった。その出来事というのは、本当の生きた殿様 (旧桑名藩主、松平定敬) がおいでになって、午後と夕方をうちで過ごされたのである。(中略) 大名が部屋を見まわしている間、私は大名を (こっそりと) 観察した。ところで、前にも大名には会ったことがある。アメリカで三人の美少年がうちに来たことがあったが、そのうちの二

人は高貴な家柄の出だった。しかし、今日のお客様は、⁽²⁸⁹⁾威厳のある態度以外はちつとも大名らしくなかった。優美な手足や端整な顔立ちを期待しても無駄だった。お気の毒に、王者の印、つまり天然痘のあとが大きく濃く顔中についていて、私の夢は一瞬にして消えた。しかし、⁽²⁸⁹⁾手はとてもきれいで上品で、左手の薬指に指輪を三つはめておられたが、二つは純金だった。もう一つはずばらしいオパールにダイヤモンドをちりばめたもので、さまざまな色にきらきら輝いていた。⁽²⁸⁹⁾初めこの大名は尊大に構えていらつしやつたが、だんだんと打ちとけてこられた。⁽²⁸⁹⁾お願いして夕食を召し上がっていただいたが、献立は冷肉、冷たいワッフル、バターつきパン、⁽²⁸⁹⁾木苺のジャム、ゼリー、パイにケーキで、何も特別のものはなかった。こんな献立を大名ご夫妻にお出しするなんて！ところがお二人は大胆にも召し上がってくださり、⁽²⁸⁹⁾ご満足の様子だった。⁽²⁸⁹⁾食後客間に戻り、一時間ばかりお話をしてからお帰りになったが、⁽²⁸⁹⁾にこにここと丁寧で、お着きの時にお見せになった尊大な態度はすっかり消えていた。

8・10・26条 上 73 74

○東京府は、東京の人々に、髪を洋風に切るようおふれを出した。また同じく東京府は、立派な人を私たちの学校の理事に任命した。⁽³²³⁾⁽²⁸⁹⁾
○小野寺氏は上海へ行ってしまったので。その方は矢野（二郎）氏といって、ご自分も奥様もアメリカに行かれたことがある。松平氏のように美男子（⁽²⁸⁹⁾!!）だが、とても温厚で親切な方だ。 上 205
9・6・28条

○さて二年前に、私たちが冷えたワッフルをご馳走した松平（定敬）氏—⁽²⁸⁹⁾あのあばた面の貴族—のおうちに日曜日に行くよう高木氏に招待された。毎月の十五日たそがれ時に、この日本式お茶の会が始まるのである。そしてお茶やお酒が出て、夜半の十二時まで清国の楽器を演奏する。松平氏は音楽・美術の愛好家で、古典音楽や古美術品の鑑賞を普及させるためにこの音楽会を催されるのだ。そのような気高い行為のできる方のようには見えないが、なかなか感心なことだ。⁽²⁸⁹⁾（中略）定次郎氏—自身は平服で出て来られたが、その服装で見栄えがするということはなかった。 上 509 510
11・3・15条

○松平（定敬）氏と二人の夫人が、私たちを歓迎してくださった。（中略）夫人はとても親切で、私の横に来てはお話をなさり、何も話すことがない時はただにこにこしておられた。⁽²⁹⁰⁾
11・5・15条 上 541

○お招きしてあった松平氏も来られ、アデイとまり投げなどして陽気に振る舞っておられた。⁽²⁸⁹⁾以前には封建時代の大仰な態度が彼の特徴であつたが、今ではそういうものは影もなかった。すっかりアメリカ化されておられる。
12・1・25条 下 137

○近くの茶屋でおいしい魚を買い、日本式の昼食をした。（中略）松平氏もみえて、しばらく遊んでいかれた。すっかりアメリカ英語になじんで、⁽²⁸⁹⁾アデイを卵のエギーと呼ぶので、アデイ嬢はともいやがっている。おまけにアデイは卵が大嫌いなのだ。松平氏はオルガンを買われ、クローケーをしにいらつしやいと言つてくださった。
12・4・4条 下 168

○ディクソン氏、ライス夫人、アレグザンダー夫妻、フェノロサ夫人などにもお会いした。和服を着た松平氏にも会つたが、何だか赤い顔をしていた。
12・4・7条 下 173

○今夜は、大鳥氏のほか高木三郎氏、津田氏と一緒に、松平氏もいらつしやつた。松平氏は殿様で、時々ひどくいかめしくなるが、大変面白い方だ。
12・6・24条 下 242

○家に帰ると松平氏がおいでになつていた。⁽²⁸⁹⁾いつものようにはでななりで、碁盤縞の洋服に、変わり模様のワイシャツ、はでな靴下、大量の宝石をつけておられ、もしその気になれば暴君にもなれそうな様子をしておられた。
12・8・19条 下 297

○松平氏はばか話をしたりおかしな歌をうたつて皆を面白がらせた。彼は日本の「ポロ」用のバットも持つてきた。これは若い貴族が馬に乗つてする遊びで、彼は今日の午後、友達としてきたという。
13・1・9条 下 411

(291) 松平定教

○火曜日に松平家の若様（松平定教）がみえた。アメリカから帰つて来たばかりで、⁽²⁹¹⁾とてもすてきになつた。桑名の若様で、一年前に亡くなつたおやおさんの婚約者といつしよにアメリカへ行つたのだ。いつしよにアメリカへ出かけた三人の公子のうち一人だけが

生き残ったことになる。

12・1・24条

下 136

(292) 松平康倫

○三年ばかり前に松平康倫氏、松平S (定教) 氏、南部 (栄信) 氏の三人の若い殿方がアメリカへ渡った。南部氏は去年帰国して亡くなり、そして今康倫氏も同じ病氣―肺病で帰国された。ウィリイが言うには、たいへん痩せておいでだが、アメリカへ帰って勉強を終えたいと切に望んでいらつしやるそうだ。

10・7・17条

上 386

(293) 松野夫人 (久良良)

○滝村氏は牛込の音楽協会 (雅楽稽古所) の開会式に出席するようにとの岩田氏の招待状を持ってきてくださった。それで午後の一時に家の人力車に乗ってショーコーショに出かけていった。(中略) ドイツ人と思われる外国人女性が一人この中にいたが、あとできいたところ、松野氏という日本人の奥様であった。大変陽気な人でさかんに笑ったりしゃべったりしていた。この方が中村氏のお嬢様に私のことをミス・ワシントンかと聞いたそうだ。

11・12・9条

下 102

(294) マーフィー、マイケル

○今日は珍客があった。マイケル・マーフィーというアイルランド人の若い医者で、ウィリイに日本で職をさがして欲しいという。初め私のことをウィリイの奥さんと間違えて「ホイットニー夫人でいらつしやいませようか」と言った。ウィリイが横浜に行っていたのでマーフィー氏は昼食までいたが、こんな面白い人に会ったことはない。健康そうな感じのがつしりした青年で、口ひげをはやし顔色がよく、灰色の大きな目は落ち着いていた。その上大変陽気な人で、日本に来る時の模様を説明してくれた。(中略) マーフィー氏は私たちの容貌が大変イギリス風なので、私たちがイギリス系だと聞いても驚かないと言った。私のことを、たいへんほめてくれたが、いささか度が過ぎた。ここにくる男の人たちはこんなにお世辞たらたらではないので、私はまったく鼻白んでしまった。

アイルランド訛りがどんなものかはよくわからないが、⁽²⁹⁴⁾今日聞いたのがほんもののアイルランド訛りなのだろうと思う。

12・12・30条

下 398 399

(295) マレイ(モルレイ)、デイヴィット(文部省学監・教育博物館設立者) (296) 同夫人――(71) 勝 安芳(海舟・

安房守) 三女逸子(お逸)

(297) マンデイ、エドモンド、F. (工部大学校(図画・製図)教師) (298) 同夫人 (299) 同令息サニー (300) 同所

生子(赤子)――(117) コーリ(コウレー)、ジョージ (198) デイクソン、ウィリアム、G. (工部大学校(英語・英文

学)教師)

(301) 三浦 徹夫人柳 (302) 同令嬢アイ(赤子)――(153) 杉田玄端(玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 夫人

俊 (157) 同令息盛 (159) 同令息武夫人よし (161) 杉田玄端令母 (277) ホイツトニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、

L. (クララ令母(愛称ペテイ、ラヴィン) (288) 松平確堂(元美作津山藩主) 養女八百子(やお)

○ああ、日本人同士のお辞儀つたら！皆、床に頭がくつつくまでお辞儀をしておかしかった。三浦夫人を見ていて、もう少しで声を立てて笑いそうになった。最初見た時、彼女は隅で立派なサムライに対し、頭を飛び切り深く下げていた。まるで彼にあらゆる幸福と永遠の生と死後は天国に行けることを祈ったかのように、長い間お辞儀をしたあと、サムライが立ち上がって去ると、「さらに征服すべき世界」はないかと見まわした。富田夫人と頭を突き合わせんばかりにお辞儀をしていた別の日本人が三浦夫人を見つけると、両者はにじり寄り、二人とも手と膝をついて頭を床にくっつけ、ふたたびひれ伏した。だが、松平家の老婦人が入っていらっしやると、もっとひどくなった。三浦夫人は⁽³⁰¹⁾鉄板上のパンケーキ(私の例は、近ごろ皆家事に関係のあることになってしまっように、ぺしゅんこになった。

9・4・7条

上 155

○舞台はし字形で、基部は例のごとく観客の目の前にあり、花道が劇場の端から端まで続いて、脇の楽屋に通じていた。(中略) 給仕の女性が食べ物の盆を頭の上に積み上げて、この細い所をすいすいと歩いているのは不思議だった。この時、ゆるやかな着物に帯を締めた素足の案内人がやって来て、急いで私たちを席に連れて行ってくれた。そこには、杉田夫人、若夫人、盛とお祖母様ばあ、それから三浦夫人が膝を折り曲げて坐っていた。

9・4・22条

上 165

○午後いつものように出かけたが、今日は歩くことにした。ヤマト屋に行つてノートを買い、次に宝石屋で鎖を買い、額縁屋で絵を額縁に入れてもらった。(中略) そして三浦夫人のところへ、生まれたばかりの赤ちゃんを見に行つた。とてもかわいらしくて、目鼻立ちもそれは小さなものだった。帰る途中、芝に寄つて豆本と紙人形を買つた。

10・2・15条

上 321

○私たちはクリスマスのお祝いを今日した。お招きしたお客様は、松平氏と大山夫人以外皆さんご出席だった。松平氏のご病気で、大山夫人は暮の大掃除のためだった。(中略) 私は一人一人にお辞儀をして、よくいらしてくださいました、と言うのに大わらわだった。そのすぐあとに三浦夫人とかわいい赤ちゃんのおアイちゃんが付添いの女中と現われ、女中はにぎやかな会場に茫然としていた。

11・12・30条

下 115

○一時に、サイル夫人、ミス・ワシントン、マツカーティ夫人、ミス・ジョンソンがいらつしやつた。ミス・ワシントンをのぞいて、皆、私たちがお宅でもてなしをうけたことのある老婦人だった。シユウは万事うまく計らつてくれ、ほんとうに楽しい午餐会だった。母はこんなにくさんの良い方に来ていただいて喜んでいた。母はもつと大勢の方とおつきあひしたほうがいいのだ。お逸も来て、新しい方々とお近づきになった。三浦夫人もあとでみえたが、とてもきれいだつた。

12・4・2条

下 164

(303) 道

○きのうミス・ヤングマンの生徒たちが、お道さんみちのためにバザーを開いた。お道さんは美しい娘だが、編集者であるお父様が気の毒にも政府批判の記事を書いたかどで牢屋に入れられてしまったのだ。(このころから新聞記者の投獄が盛んになり、一カ月間に十余

名にも及んだ。

10・12・21条

上 442

(304) 箕作秋坪 (東京師範学校摂理)

○箕作氏のコザーク(引き玉)には、四インチぐらいの紙の髪飾りが入っていた。箕作氏と大鳥氏は、それが一体全体なんなのだろう、と真剣に考え込んだので、ウイリイが教えてあげると、すぐに箕作氏は、⁽³⁰⁴⁾灰白色の髪と顎ひげをはやした六フイートの体のでつべんに、そのピンクの紙の風変わりな帽子をのつけて、紐を鼻の下で結ぼうとしてみんなを笑わせた。長い飾りリボンが背中に垂れて、それは滑稽だった。

9・12・25条

上 295

○午後になつて落ち着きかけたところへサイル先生が幌付き人力車に乗つておいでになり、日本音楽についての私のエッセーを見たいとおっしゃった。(中略)箕作氏も来られて、いろいろお話になつたが、東伏見宮が私たちに会いたいとおっしゃっていることを知らせてくださった。箕作氏はひげを剃ってしまったので、はじめ誰かわからなかった。

12・1・2条

下 121

(305) 宮川経輝 (キリスト教伝道者) ↓ (12) 伊勢(横井)時雄 (キリスト教伝道者)

(306) 村田一郎 (307) 同夫人久子(ひき) ↓ (50) 大山 巖 (陸軍卿・陸軍中将) 夫人沢子(旧姓吉井) (82) 川路

利良(東京警視庁大警視)夫人 (192) 津田 仙(学農社農学校開設者) (238) 林(村田一郎令巖) 令息恒五郎 (318) 森

ひろ(森 有礼(清国駐在公使・英国駐在公使)義姉・有祐令母)

○今日村田(一郎)氏がみえた。村田氏は今度の船でアメリカから帰られたばかりだが、⁽³⁰⁶⁾風采がぐんとよくなり、立派な紳士になられた。前にこの国にいた時は間が抜けていて無器用な方だと思っていたが、今はすっかり変わつて、⁽³⁰⁶⁾なんとも言えない威厳と紳士の態度が身についている。外国旅行はある人々にとってはとてもためになるものだ。

10・4・27条

上 353

○父と母は種田夫妻のところへ食事に招かれたので、アデイと私だけで留守番をすることになった。母は二人だけ置いて行くのを心

配したが、都合よくそこへ村田氏が来られてその話を聞き、いっしょに留守番をすることを買って出てくださいました。おかげで賑やかではないが、楽しい夕べを過ごした。夕食をすませ、新聞を読み、おしゃべりをし、歌を歌い、チェッカー遊びをしているところへ両親が戻って来た。村田氏は立派な容貌の青年に育ったが、人物もなかなか立派である。

10・11・20条

上 425

○今日は特別の日―村田(一郎)氏の結婚式の日なので詳しく記録しておかなければならない。アメリカで会った時の、あのひよろつとした青年が、いつの日かこのように高貴な風貌の立派な人物に育つとは想像もできなかった。(中略)村田氏は背が高く、少し青ざめた緊張した面持ちであったが、新しい結婚衣装、羽織袴を付けてとても立派に見えた。やがて私たちはもう一軒の家に行くよ

うにと言われて、そちらに行き、客間で待った。そのうちに襖ふすまが開いて、凝った衣装を着た二人の女性を従えて川路氏が進んで来られた。(中略)一人は中年ながら立派な衣装も手伝って、美しい女性だった。いっしょにいたもう一人の丈の高いつんとすました女性が村

田(久子)夫人だったのである。この二人を従えて川路氏が一人一人のところに来られ、「これが家内です」と言って奥様を紹介した。奥

様は丁寧にお辞儀をした上で、こんどは村田夫人を紹介した。冷たい傲慢な感じで立っている村田夫人は、紹介されると

しとやかにお辞儀をした。それからもと来た方へ戻って行き、襖の向こうに消えた。日本人の女性にしては背が高く、すらりとして

非常に美しい顔立ちである。特に眼が美しく、時には高慢で見下すような感じを与えるが、微笑された時はおだやかな眼である。

鼻はすつきりと高く、口元はかわいらしい。丸い頬には白粉が塗ってあった。(中略)宴会の終わり頃に花婿はテーブルをまわって

一人一人のお客様と酒を酌み交わした。私のところへ来られた時に村田氏は「クララさん、これは日本の習慣で、あなたには好まし

くないことかもしれませんが、いっしょに飲んでいただけませんか」とおっしゃった。そしてお酒を少し飲んで私に盃を渡されたの

で私も飲んだ。私は彼の腕に手を置いて「私は生まれて初めてお酒を口にしたのですよ。でも今日だけはあなたのお祝いのために飲

みました」と言った。彼は深々と頭を下げ、ひどく感激した様子で「クララさん、心から感謝いたします」と言った。そのあとみん

なに彼はこの話をしていた。(中略)花嫁は私の隣に坐って、親し気に私の肩に身を寄せ、私の手をしっかりと握っていた。私はその

晩ずつと花嫁のお相手をするように選ばれていたようだ。花嫁は、内緒に年齢を教えてください。十六歳—私の年齢もお聞きになった。もとの名前は、なしま名島おひさで、家は虎ノ門にある。小学校を出ただけで、英語は全然わからない。⁽³⁰⁷⁾ともきれいなかわいいお嫁さんで、私は村田氏の選択に感心した。(中略)踊りを見ている間に、花嫁は私に時々村田さんの家に来られますか、⁽³⁰⁷⁾とやさしい声でお聞きになった。

11・3・12条 上 500
501
503
504
505

○村田氏ご夫婦の結婚生活の終焉をここに書き加えなければならぬのは悲しいことだ。十二年の結婚生活と五人の子供を残して、奥様は十日ほど前に、悪性のコレラで急逝された。一カ月ほど前にお会いしたのだが、昔と少しも変わらず若く美しかった。⁽³⁰⁷⁾いつも生き生きとして気魄に満ち、勇敢だった。そして私のよい友達であった。あの勇氣と美しさが消えてしまったとは、どうしても信じられない。私は葬儀に行けなかったが、梅太郎が行った。私は彼女の死を思つて涙を流した。

一八九〇年十一月追記 上 507

○村田氏も来てくださった。⁽³⁰⁶⁾いつものようにぶつきらぼうだが、⁽³⁰⁶⁾薩摩の人は概してぶつきらぼうだ、とても親切で、三田にある西洋館を貸してくださいさるとおっしゃった。

11・6・6条 上 558

○今日の午後村田夫人が私を上野に案内してくださいさるために着飾つてやつて来た(私がきのうお願いしたのだ)。今日はとりわけ愛情深く振る舞つた—何回もキスをし、手を握りしめた。村田夫人は私にはいささか難物なのだ。⁽³⁰⁷⁾ほかの人の前では傲慢そのもので、冷やかな尊大な態度を取るが、私といつしよの時はとても愛情深く、アメリカの女の子よりも一層愛情を示される。私にとってはそれが迷惑かもしれないなどは片時も思わない。私が外国人だから、そういうのが好きだと思ひこんでいて、外国人はみなキスするから私もキスが好きだと思つている。

11・8・20条 下 26

○村田夫人は愛情あふれんばかりで、いつしよに庭を散歩した。お逸の門を通りかかると、中に入ると言うのでいつしよに行くのと、

お逸は家の女の人に囲まれて先生に教えられながら花を活けていた。おひささん（村田夫人）は中に入るように勧められたが、縁側でおしゃべりをしたり、アカとコマが私の愛猫トラノスケとじゃれあっているのを見て笑ったりした。⁽³⁰⁷⁾〇〇〇〇〇〇〇〇

12・4・26条

下 195

(308) メアリー（ゴープル、ジョナサン令嬢メアリー）――→（16）ヴァーベック（フルベッキ）、ギドー、H. F.（開成学

校教養学科教師・宣教師）

(309) メイエ夫人

○加賀屋敷に着くと、リーランド夫人は出かけていたので、また戻ってくると約束して田中（不二鷹、湯島新花町）夫人に会いに行った。居間に通された。奥様が日本語で話しましょうといわれるので、とても楽しくおしゃべりをし、すぐに内輪の話になった。

（中略）奥様はメイエ夫人がきらいだという。訪ねていくと、あの尊大な人は客間に連れて行き、壁の絵を勿体ぶって指差し、「あれ

は私の初めの夫です」と、しかも現在のご主人の真ん前で言うという。田中夫人はこれはとてもおかしい振る舞いで、日本ではこんなことは大つぴらにせず、隠しておきたがるものだと言われた。

12・12・4条

下 370

(310) メイベル――→（266）ベイリー、チャールズ、W.（海軍兵学校教官）令嬢メイベル

(311) 目賀田嬢

○昼食後、人力車に乗って、富田家に行った。富田夫人は、三田四丁目二十六番地の小さな日本の家に住んでおられる。ご在宅で、とてもやさしく迎えてくださった。しばらくすると、松本氏が、ご自分が後見人になっていらっしゃる目賀田家（後に逸子の婚家）のお嬢様を連れて来られた。その方はアメリカにいたことがある。私はアデイと奥の部屋に駆け込んだが、松本氏は戸の真正面に坐ったので、〈どんなお顔か思い出そうとして〉一度のぞきに行ったら見られてしまった。実はすでに感じておられ、絶えず戸の方ばかり見続けて、あの外国人は誰かなと思っていらいらっしゃったのだ。やがて富田夫人が私を連れに来た。私は膝をついて懇願したに

もかわらず引きずり込まれ目賀田さんに紹介されたが、⁽³¹⁾松本氏が魅惑されているらしいその美しさを鑑賞し損なってしまった。

9・10・26条

上 263

(312) モクリツジ (ホイットニー、クララ祖父) → (253) ビンガム、ジョン、A. (日本駐在美国全権公使)

(313) 桃太郎 (芸者) → (213) 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 夫人縫

(314) 森 有祐 → (60) 小野 (報知新聞論説委員) (213) 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 夫人縫

○ 森氏の義姉のひろさんには、十四、五歳の息子がいる。森 有祐^{ありすけ} (長兄、喜藤太の長男) という名で、⁽³¹⁴⁾これ以上美しくて利口な子は日本にはいないだろう。傲慢さも見せかけの尊大さもなく、態度や歩きぶりは王子様のようなものである。若いのにこれほど洗練されて優雅な紳士は見たことがない。背が高く、手足は形よく小さくて釣合いがとれ、声は優しく柔らかで、茶色の目は澄み、髪の毛は漆黒である。真珠のような歯と鷲鼻と優美な黄色がかつた肌を持っていて、アメリカ流に言えば「まさに美の典型」である。しかし魅力的なのは⁽³¹⁴⁾その貴公子らしい態度で、何かをもらうと大変低くお辞儀をするが、卑屈さはなく、自分が高官の甥であるということを意識しているかのように振る舞う。最近、母と私はこの少年にすっかり興味を持って、いろいろ教え込もうともくろんでいる。有祐は英語を話すが、強いスペイン語風の訛りで、荒い音は皆柔らかく発音し、他の音はフランス語風の訛りにしてしまう。二、三日の間、私は有祐に歴史を教えた。彼はすばらしい早さで読むが、読んだことが全部わかっているのかどうか確かではない。たぶん主キリストは、⁽³¹⁴⁾この美少年のためにすばらしい前途を用意していらっしやることだろう。そして主がご自分の本当の弟子になさるために、この少年を私たちにお任せになって授業を受けさせておられるのではないだろうか (かわいそうに有祐は約十年後結核で死んだ (後に加筆。明治十五年八月二十一日没、二十二歳))。

○ 二時に、森夫妻の見送りに新橋へ行った。駅は夫妻の友人でいっぱい、その中にはとても偉い人たちが大勢いた。(中略) 森家

上 37

の近親者は部屋の中央に集まっていた。有祐さんは軽い旅行着を着ていた。叔父と同行するのだが、⁽³¹⁴⁾りんとした若紳士ぶりだった。

12・11・19条 下 356

(315) 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) (316) 同夫人阿常 (317) 同令敵 (有恕) (168) ダイアー (ダイ

エル)、ヘンリー (工部大学校教頭兼 (土木・機械工学) 教師) 夫人 (217) 中島信行 (前神奈川県令・元老院議員)

○先日、いつしよに劇場に行けるかどうか森夫人に聞きに行ったら、招待状をもらえたらどうぞとのことだった。それが今朝来たので、ごいっしょしましょうと言ってきた。それで今晚七時に永田町の森邸に行くと、森 (有礼) 氏は⁽³¹⁵⁾ワイシヤツ姿で煙草をふかしておられた。「あまり暑いので」と申し訳をなされた。午前中はずつとお浜御殿にいて、午後はグラント將軍につきつきりで、また今晚出かけなくてはならないとおっしゃったが、つらい定め (へい) をよく我慢しておられるようだった。

12・7・16条 下 267

○森氏のお父様 (有礼父、^{ありゆき}有恕) が午後に見えていて、私たちと歓談された。薩摩の武士で、⁽³¹⁷⁾本当の南国の方言で話されるので、わかりにくい。殊にしばらくの間、私がおもてなししなければならなかったので……⁽³¹⁷⁾彼は威敵のある族長を思わせるような方である。

12・8・7条 下 283

○二時に、森夫妻の見送りに新橋へ行った。(中略) 横山家の小さい男の子たちとそのお母様に、おひろさん、広瀬 (森 有礼夫人、常の父) 氏もいた。森夫人は子供を連れてあとから入ってきて、⁽³¹⁶⁾とてもきれいだっただが、青ざめた顔をしていた。初めは威敵を保っていたが、じきにこらえきれなくなって婦人専用の待合室に逃げこみ、親戚の女の人たちに囲まれて、⁽³¹⁶⁾ワツと泣きだした。そっとしておいてあげなくてはと思い、ただ二言、三言話しかけ、今朝の贈り物のお礼と、良い旅でありますようにと言うと、奥様は悲しみの中ですら礼儀を忘れず、「ありがとうございます。ほんのつまらないものでございます」と言われた。

12・11・19条 下 356

○今日初めて日本の天皇様にお目にかかった。天皇陛下が外交団と日本の華族の方々をお浜御殿へ観桜と昼食に招待された。(中略)
このようにして私は清国公使、オーストリア公使、ハワイ公使、鍋島(直大、元老院議員)公そのほかの方々にお会いした。徳川様と随員の方にもお会いしたし、イギリスから帰国されたばかりの森夫人とも楽しいおしゃべりをした。森夫人は昔とちつとも変わら(316)ず美しい。輝く目に涙を浮かべ、深い感情を込めた声で母のことを話された。そして私はあの華やかな場面の中でも母のことが忘れられなかった。

17・4・25条 下 522

(318) 森 ひろ (森 有礼《清国駐在公使・英国駐在公使》義姉・有祐令母) ↓ (238) 林 (村田一郎令厳) 令息恒五郎

(307) 村田 一郎夫人久子 (ひさ)

(319) 矢沢嬢 ↓ (71) 勝 安芳 (海舟・安房守) 三女逸子 (お逸) (213) 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 夫人縫 (301)

三浦 徹夫人柳

○にぎやかなゲームをいくつかしたが、ミス・矢沢は「よくわかりました」と言っでは必ず間違えた。それから歌になったが、ミス・矢沢はまた性懲りもなく大声でみんなをリードした。それがすむと、皆とても喜んで帰って行った。富田夫人、三浦夫人、お逸も女学生を見に来た。富田夫人は出しゃばりのミス・矢沢を「ほんとに師範学校出らしいわ」と言われた。私はこの三人と女学生たちとがあまり対照的なのに打たれていた。安い派手なものを着(319) 凶太い態度で大声にしゃべり、ギクシヤクしたマナーの人たちと優雅な装いに謙虚な態度、控え目なマナー、量産されたものとはちがうはつきりした目鼻立ちのほんとうにすばらしい顔をしたレディたち。だがこの人たちをこきおろしてはならない。私たちがここに居る目的はこういう人に善をなすべく努力することなのだ。

(320) ヤス(やす) (杉田家使用人(女性)) → (154) 杉田玄端(玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息武 (159)

同夫人よし

○杉田夫人が若い女中のヤスをよこしてくださいました。こぎれいなかわいい子である。自分では何もできないとしきりに謙遜するが私たちは大助かりだ。 10・11・23条 上 227

○今朝、杉田氏のお宅へ行った。杉田夫人の話では、うちで以前「ボーイ」をしていたテイが、杉田家の女中のおヤスに手紙をよこした。「あと三年は東京に行けません。私は熊本で勉強しています。私といっしょに勉強しに来ませんか」これは結婚の申し込みである。杉田夫人はおヤスは行くまいと思った。ところが、聞いてみたら、おヤスは頭をたれて、「参ります」と言った。夫人はとも残念がつておられる。おヤスは十一歳の時から奉公していた。今年二十で、⁽³²⁰⁾かわいい娘である。 12・9・18条 下 328

(321) 矢田部良吉(植物学者)

○昼食の直後に、矢田部(良吉、後に植物学者となる)氏という、ニューヨーク州のイサカで六、七年勉強をして、帰国したばかりの青年がみえた。当然のこととして、⁽³²¹⁾快活で垢抜けていて、外国風に洗練された自分の物腰を誇りとしている。ところがそれだけではなく、矢田部氏は無神論者でもあったのだ。洗練された屈託のなさ、⁽³²¹⁾紳士然として人を見下すような態度を身につけ、当たりさわりのない物柔らかな口調で話すだけに、かえって無作法な人たちよりも始末の悪い無神論者の一人だったのだ。お茶の時間から十時までおられたが、私は母が頭痛がするというので手助けになると思い、それに矢田部氏のアメリカ訛りを聞くのがうれしくて、お相手をつとめた。 9・9・21条 上 242

○数人の友達に会ったが、矢田部氏は自分の英語を見せびらかしたいらしく、私が話す人全部に話しかけていた。みんなが六年もア

メリカにいたにしては若く見えると言うと、矢田部氏は、自分が日本を発つたのはずいぶん若い時だったと答えた。開成学校（神田錦町にあつた）五番に住むことになっている。

9・10・1条

上 250

○また困ったことが起きた！今晚ウイリイがインブリー家へ行きたいと思つていたところに矢田部氏がみえた。母が早く寝なくてはならなかったので、ウイリイと私がお相手をする事になったが、ウイリイはいやでたまらず、機嫌が悪くて、無礼でひどい態度を取つた。私はそんなウイリイが恥ずかしくて、矢田部氏を楽しませるよう努力していたのだが、もつと悪いことが起きてしまった。九時半になると、ウイリイは怒つて客間から出て行きながら「クララ、明かりを消して出ておいで。おやすみなさい！」と言つたのだ。ああ、困つたのなんのつて！私は恥ずかしくて一言も言えず、道化役者のようにうつむいて坐つていた。矢田部氏はびつくりしたようだったが、非常に穏やかに「おやすみなさい」と言つてちよつと笑つた。それから二人で見ていた本をしまつと、時計を取り出して、悲しげに「九時半ですね。もう行かなくては」と言つた。なんとかですみません、と言つたのだが、私の頭はあまりにもくららしていたので、なんですみませんと言つたのかわからなかった。しかし、うわべは丁寧にしても、内心は怒つて、侮辱されたと感じていたのは明らかだった。

9・10・9条

上 253

○お逸は二時に帰り、私は母と人力車で出かけた。小さな店に寄つて値打ちものの絵本を一ドルで買ったが、セイキチによると、五ドルぐらいの価値はあるという。（中略）それから有名な上野公園に行つた。まだ桜は咲いていながつたが、草木はいつも青々としている。矢田部氏に会つたら笑つてお辞儀をなさつた。

10・3・22条

上 337

○矢田部氏はとても感じ悪く——何かにつけ不愉快な調子で私に逆らつた。最初はとても物柔らかで、私に恋愛をうたつた民謡を弾いたり歌つたりして欲しいと頼んだ。それから陽気になつたかと思つたと突然機嫌が悪くなり、とうとう喧嘩腰になつたのである。ピンガム夫人の言われるように「飲み過ぎて」いるのだと思う。矢田部氏は私の面前で、我がアメリカの習慣や礼儀作法や制度に関し

げた時、私は思わず、うわーきれい！と言った。ユウメイは、これは短過ぎる、いつも膝の下までくるのを着ていると言った。アメリカに二年いたユウメイは英語を私と同じくらい上手に話す。(中略) ユウメイはとても独立心が強く、将来先生になるつもりだと

言う。私はちよつとびつくりして、うっかり、「え、あなたが！」と言ってしまった。ユウメイは「あら、どうして先生になっちゃ

いけないの。ほかの人だつてなるでしょう」と、少し怒つたように言つたので、私ははつとして言い直しをした。ユウメイはヨーロッパに行つて教育を終え、十八歳までに自立したいと言う。こういう独立心に富んだ話し方は清国の女性にはまったく新しいことだ。

なんて面白いだろう！本当にいろいろの人がいるものだ。(中略) 私はこの清国の少女がとても気に入つた。アクセントまでアメリカ少女そっくりだつた。

○ジェニーから、ユウメイが無事に日本に帰つて来たから、午後遊びに来て欲しい、という手紙が来た。私は裁縫道具を持って出かけ、ユウメイに会つた。少し大きくなつて、本当の清国(中国)の帽子をかぶつてゐるが、とてもよく似合う。

○メイとアディと私は夏の夜の月明かりに照らされて帰つてきた。清国人のメイは自負心の強い女性で、とても傲慢に振る舞う。そして高官の妻になることを夢みている。

(327) ユージェニー (仏国王妃)

○昨日は一日中ベッドに寝ていたので別に何も書くことがない。ただ私がひどく不機嫌だつたことと、お逸がお見舞いに二階まで上がつて来たことだけである。今日は起き上がつて、せつせと刺繡をし、アディが美しいフランス王妃、ユージェニーの伝記を読むのを聞いた。その伝記はとても面白い。

(328) 横山 (美国聖公会宣教師)

—— (27) 上杉茂憲 (侍従・伯爵)

(184) 種田誠一

11・10・19条 下 65

11・9・12条 下 45

10・12・5条 上 439

9・11・25条 上 278
279

(329) 横山元千代 (330) 同令弟壮次郎

○毎朝十一時に来る小さい生徒が二人できた。有祐さんの従兄弟(横山姓)で、薩摩のサムライの子供である。上の子が十三歳で元千代、下の子が十歳ぐらいで壮次郎という。初めて勉強に来た時には、元千代が大きい声でABCを暗唱し、壮次郎は兄が相当進むまで待っていて、途中から違う音程でいつしよに暗唱したので、私は頭がこんがらかってしまった。でも今では扱いやすくなった。兄のほうはかわいい悲しげな声をしていて、壮次郎のほうは堂々と声を張り上げる。私はこの子たちを教えるのが楽しみだ。

11・7・23条

下12

(331) 吉沢郷党(開拓使役人)

○今朝、開拓使の役人、吉沢郷党氏がきらきら光る絹の羽織袴姿でうちに現われたのでとてもびっくりした。(中略)吉沢氏は愛想がよくてお世辞がうまい。幸運にもあの日母が行った時には、何日も前から見事な桃の腐ったのが地面にころころしており、どうしたらいいかわからなかったのだそうだが、「しかし今は(とにこにこしながら)こちらの奥様が保存法を教えてくださいましたおかげでとても助かっています」と言った。ずいぶん長くいるので、私たちは代わる代わる客間で応対した。(中略)吉沢氏によると、外国の商人は、日本に古いがらくたばかり送って来るという。たとえば古い汽船、古い汽車、古い馬車、古い服や上着や帽子や靴など、事実、時代遅れで売り物にならないものばかりが日本に来るのだそうだ。吉沢氏の乗った汽船が二度沈んだり爆発したりしたので、もう二度と汽船には乗らないと言われる。船客がびっくりした時の描写は生き生きとして面白かった。飛び上がり、目をくるくるまわし、唇を曲げ、引き裂かんばかりに羽織をつかみ、ただもうこわかった時の様子を見せて見せた。私はきちんと座っていられないほど笑い転げたので、吉沢氏は自分の無言劇のうまさにご満足のようだった。また、洋服に関しては、日本人は古い物をつかまされ、外国人はそれを見て笑うから、洋服は絶対着ないのだとも言われた。髪は洋風に刈つてあるが、前にしていた鬘のことを誇

△△△△△△△△△△
らしげに語られた。どうやらまさに棍棒のような形のものだったらしい。大きな鬚は地位と富の印なのだそうだ。また近いうちに来ます、と言つて帰つて行かれた。

10・8・6条

上 398
399

○午後開拓使へ行くと、吉沢郷党氏⁽³³¹⁾がにこにこ顔で迎えてくださった。バチエルダー氏もおられたが役人たちは母と私を特に丁寧に扱つてくれた。吉沢氏は贈り物として巨大な西瓜をくださり、私たちはとうもろこしと葡萄を買つた。吉沢氏が貯蔵していた桃は、缶に入れておいたもの以外は、皆だめになつたそうだ。すももの保存の仕方を習いに数日中にうちに来たいと言われた。

10・8・22条

上 405

○次に私は西瓜を頼んだ。しかし吉沢氏は首をふり、まだ畑に西瓜は一つも熟していない。うそでないことは保証しますと言う。ちようどその時用務員が、どきまぎしている主人の前に、ピンクの冷たい西瓜を大きなお盆にのせて持つて来て「へい、だんなさん、おいつけの西瓜です」と言つて下に置いた。吉沢氏は驚いて言つた。「ああ、そうそう思い出しました。西瓜を試食することになつていたので。お嬢さん一きれ如何ですか、コガタナがありますからお切りくださつて」「ありがとう、母が病気で開拓使のメロンを食べてみたいと申しますので、これ私、いただいて行きます。さあ、おハル、フロシキを持つておいで」と私は言つた。⁽³³¹⁾
○仰天している吉沢氏を前に私は落ち着きはらつて、フロシキをひろげた。ついに彼は⁽³³¹⁾大声で言つた「おやめください。そういう事情なら立派な西瓜を差しあげましょう。―おい、一番大きな西瓜を持つて来てくれ」目的物の他に三個のまくわ瓜まで獲得して、私は大得意で退出した。外交とはまさにこのことだ。

12・8・16条

下 294
295

(332) 吉原重俊 (租税局長) 令嬢静枝

○吉原 (重俊、租税局長) 夫人がお嬢様の数えで八歳のお祝いに、アデイと私を招いてくださった。午後一時にお逸さんをさそつて、いっしょに吉原夫人の家へ行つた。(中略) 待つている間、おいしいケーキやお茶がまわつてきて、吉原氏⁽³³²⁾のかわいいお嬢様は専門

家の弾く二つのギターの伴奏で歌をうたった。このお嬢様は静枝といつて、⁽³³²⁾ばら色の顔のかわいらしい少女で、黒い前髪が黒い細いまゆ毛のところまで下がっていた。立派な装いで、⁽³³²⁾髪型はまるでお姫様のようなであった。実際日本の本物の王女といえども、幼い吉原嬢がこの祝いの日に着ていたような美しい着物を持っている者はいないだろう。歌をうたってから彼女は引つ込んで、もつとすてきな着物に着替え、逃げてきた極楽鳥のような格好でふたたび戻ってきた。

16・11・24条

下 494

(333) ライト、ウィリアム、B. (東京三一神学校教師・宣教師) 夫人エマ

○今日ライト夫人のところへお使いに行つた。ハーヴィット家におられるが病気が重く、ドーニツツ先生によれば、もう長くないということだが、見たところはそれほど重病には見えない。赤ちゃんがそばの椅子に立っていたが、小さい手を握つたままお母さんのほうに差し出して何か言った。「どうしたの、ラミーちゃん？」とライト夫人は⁽³³³⁾なだめるようなやさしい声で言つて、開いた手を差しのべられた。すると「ラミー」はお母さんの手の上に、自分の服から引きちぎつたたくさんのボタンを落とした。お母さんは腹を立てて「なんてことするの。悪い子」と言つて子供を叱りつけた。

11・10・22条

下 68

(334) リート、レナ(リーナ)嬢(ヘップバン夫人姪・新栄学校教師・宣教師) ↓ (87) ギューリック、ジョン(生物学者・宣教師) 令嬢フアニー (242) ハリス、メリーマン、C. (東京英和学校教師・宣教師)

(335) リーランド、ジョージ、A. (体操伝習所・東京師範学校・東京女子師範学校(体育理論・体育実践)教師) 夫人 ↓ (71) 勝 安芳(海舟・安房守) 三女逸子(お逸)

○フィッツジェラルド夫人の欲しがっていた刺繍した品物をお逸と今朝本町に買いに行った。大山夫人は赤ちゃんが亡くなって以来ずっと加減が悪いので、先に見舞いに行つてからにしようかと思つたが、リーランド夫人と本町で十一時に会う約束をしていたので遅すぎた。リーランド夫人はもう待つていて、気に入つたのがじきに選べた。間もなく、ビードン夫人を先頭にイギリス人たちがド

ヤドヤと入ってき、店員に威張り散らしたが、ガウンやテーブルクロスを百ドル以上も買った。お逸はこんな粗野な外国人は見たことがないので、びっくりして見ていた。リーランド夫人は大きな青い眼をさらに大きくして、石のようにじっと見ていた。

12・12・9条

下 378

(336) リリー――(132) シェパード、エリー、T. (外務・司法両省万国公法顧問) 令嬢グレタ (グレットイ) (266) ベ

イリー、チャールス、W. (海軍兵学校教官) 夫人

(337) ロウ長官夫人――(275) ボアソナード、グスタブ、エミリ (太政官法制局御用掛) 令嬢 (341) ワシントン、ジョ

ージ元美国大統領夫人

(338) ワイズ夫人

○今日は一八七六年七月四日だということを知らせる鐘も、礼砲も、無害な小さな爆竹すらも鳴らなかった。去年太平洋を渡っていた時は、我が同胞がこの日を祝って沸き返り、四日はいつも晴れることになっているので、そのとおり好天に恵まれたというのに。私たちは浮かぬ顔をして向き合って坐り、独立記念日が来たということを日本に知らせるように、どこかでささやかな礼砲でもいいから鳴らないかと一生懸命祈った。しかし、私たちは、上野での祝賀式の招待状をもらっていたから、それがせめてもの慰めだった。朝が過ぎ去り、午後になると、着替えをして四時に出発した。(中略) ビンガム氏は出席しなかったが、新聞によれば、どうしても出られなかったわけではないらしい。ビンガム氏の令嬢と、ワツソン氏、それから神奈川の総領事ヴァン・ビューレン將軍、陽気で活発で美人の若いワイズ夫人、初代大統領の子孫であるミス・ワシントン、スミス夫妻、(中略) ジェシー・フェントン、そのほかにも大勢いたが、皆日本で最高のアメリカ人ばかりだ。

9・7・4条

上 213

(339) ワシントン、アニー嬢 (東京女学校教師・ユイニング、ジェームス、A. (東京大学〔機械工学・物理学〕教師・実測

地震学者)夫人) ———— (340) ワシントン、ジョージ元美国大統領

○加賀屋敷に着くと、マッカーティ氏の家を訪ねた。(中略) つぎに隣のサイル夫人を訪ねた。この方の前のご主人の名はワシントン、つまり我らがワシントン大統領の子孫でいらつしやる。お嬢様はとてすてきなきれいな方だが、ジョージ(339) (ワシントン)には似ていらつしやらない。(340)

9・3・11条

上 144

○ミス・ワシントンは、初代大統領の直系の子孫で、二十一歳(339)のきれいですてきな方だ。今夜はともうれしそうで、たくさんお話をなされた。(339) 見た目もなさることも十七歳くらいの感じで、皇后様の学校、シハンガッコウ(女子師範学校)で教えていらつしやる。

サイル氏はその継父である。

9・9・25条

上 246

○ミス・ワシントンはある女性のことについて、男という男がみんな彼女の足元にひれ伏しかねないという話をした。でもミス・ワシントンはご自分のお母様には、すべての男性がこの女性を蹴とばしかねない様子だと言っていたのだ。それにミス・ワシントンはド・ボワンヴィル夫人に、私のことをまだ子供で付き合う価値がないと言った。このことを詰問すると顔を赤らめていた。赤らめて当然だ。(339)

12・1・28条

下 139

(340) ワシントン、ジョージ元美国大統領 (341) 同夫人 ———— (337) ロウ長官夫人 (339) ワシントン、アニー嬢(東京

女学校教師・ユイニング、ジェームス、A. (東京大学(機械工学・物理学)教師・実測地震学者)夫人)

(342) 和田秀豊(?) (虎ノ門教会牧師・内村鑑三結婚式仲人)夫人 ———— (57) 尾崎三良(内務図書頭)夫人 (64) 笠原

夫人

(343) 渡辺

○夕食後、カローザーズ夫人のところへ出かけようとした時、ペシャイン・スミス夫妻が来られたので、母は私たちだけで行くよう

| | | | |
|----------------------------|-----------------------|----|---|
| 1 赤井 | | | |
| 2 アストン、ウィリアム、G. | (英国公使館書記官) | 六四 | 男 |
| 3 アストン、ウィリアム、G. | (英国公使館書記官) 夫人 | 一四 | 女 |
| 4 アーネスト (ベイリー、チャールズ、W. | (海軍兵学校教官) 令嬢アーネスト) | 四 | 女 |
| 5 アーママン (アメルマン)、ジエームス、L. | (東京一致神学校教師・宣教師) 令嬢ネリー | 一四 | 女 |
| 6 有栖川宮熾仁親王歡宮 | | 八 | 男 |
| 7 有栖川宮熾仁親王歡宮妃董子 | | 二四 | 女 |
| 8 アレグザンダー、トーマス、サロン | (明治学院〈神学〉教師) | 一五 | 男 |
| 9 アレグザンダー、トーマス | (工部大学校〈土木工程〉教師) | 六三 | 男 |
| 10 アンガス、ウィリアム、M. | (工部大学校〈土木工程・測量術〉教師) | 五 | 男 |
| 11 イズブキ (通訳) | | 二六 | 男 |
| 12 伊勢 (横井) 時雄 | (キリスト教伝道者) | 一六 | 男 |
| 13 イービー、チャールズ、S. | (中央会堂創設者・宣教師) | 一四 | 男 |
| 14 岩田通徳 | (日本音楽学校主) | 一八 | 男 |
| 15 インブリー、ウィリアム | (東京一致神学校教師・宣教師) | 四六 | 男 |
| 16 ヴァーベック (フルベッキ)、ギドーH. F. | (開成学校教養学科教師・宣教師) | 九 | 男 |

○印数 △印数 性別

- 17 ヴァーベック (フルベッキ)、ギドーH. F. (開成学校教養学科教師・宣教師) 令嬢エマ 四四 四九 女
- 18 ヴァーベック (フルベッキ)、ギドーH. F. (開成学校教養学科教師・宣教師) 令嬢アニー 五 女
- 19 ヴァーベック (フルベッキ)、ギドーH. F. (開成学校教養学科教師・宣教師) 令息チャニング 一四 男
- 20 ヴァーベック (フルベッキ)、ギドーH. F. (開成学校教養学科教師・宣教師) 令息ウィリイ 六七 男
- 21 ヴァン、ビューレン、トーマス、B. (神奈川総領事・将軍) 七三 八四 男
- 22 ヴィーダー、ピーター、V. (開成学校・東京大学 (物理学・数学) 教師) 夫人 (東京女学校教師) 二六 一五 女
- 23 ヴィーダー、ピーター、V. (開成学校・東京大学 (物理学・数学) 教師) 令嬢ガシー 五一 八 女
- 24 ヴィーダー、ピーター、V. (開成学校・東京大学 (物理学・数学) 教師) 令嬢ジェニー 一九 女
- 25 ウィニフレッド (ホイットニー、クララ姻戚) 八 男
- 26 上 真行 二三 四 男
- 27 上杉茂憲 (侍従・伯爵) 七 男
- 28 上杉茂憲 (侍従・伯爵) 令母於磐 七 女
- 29 上野栄三郎 (商法学校教師) 八 男
- 30 上野景範 (英国駐在特命全権公使・外務大輔) 二一 男
- 31 上野景範 (英国駐在特命全権公使・外務大輔) 夫人 五 女

| | | | | |
|----|---------------------------|-----|----|---|
| 32 | ウオデル、ヒュー（明治学院教師・宣教師） | | | |
| 33 | ウオトソン | 六 | | 男 |
| 34 | ウォルター（ホイットニー、クララ長男） | 四 | | 男 |
| 35 | 内田きの | 五四 | 七三 | 女 |
| 36 | 内田夫人（勝 安芳《海舟・安房守》長女夢《ゆめ》） | 六〇 | 二二 | 女 |
| 37 | 内村鑑三夫人（旧姓浅田タケ） | 五三 | | 女 |
| 38 | ウッド（英国公使館守衛） | | 一一 | 男 |
| 39 | ウメ令息 | 四 | | 男 |
| 40 | エドワード夫人 | 八 | | 女 |
| 41 | 榎本武揚（俄国駐在公使） | 一〇 | | 男 |
| 42 | エルドレッド、カロライン、E. 令嬢（宣教師） | | 一一 | 女 |
| 43 | 大久保三郎（一翁令息） | 一一五 | | 男 |
| 44 | 大久保三郎（一翁令息）夫人 | 六 | | 女 |
| 45 | 大鳥圭介（工部頭・工部大学校長） | | 三 | 男 |
| 46 | 大鳥圭介（工部頭・工部大学校長）令嬢ゆき | 六 | | 女 |
| 47 | 大鳥圭介（工部頭・工部大学校長）令嬢菊子（きく） | 四三 | 一〇 | 女 |
| 48 | 大原 | 二二 | 二二 | 男 |

| | | | | |
|----|--|-----|----|---|
| 49 | 大山 巖 (陸軍卿・陸軍中将) | 一〇五 | 一一 | 男 |
| 50 | 大山 巖 (陸軍卿・陸軍中将) 夫人沢子 (旧姓吉井) | 二八 | 六〇 | 女 |
| 51 | 大山 巖 (陸軍卿・陸軍中将) 令嬢信子 (のぶ) | 四 | 一三 | 女 |
| 52 | 大山 巖 (陸軍卿・陸軍中将) 令嬢みつ | 四 | | 女 |
| 53 | 大山 巖 (陸軍卿・陸軍中将) 夫人捨松 (旧姓山川) | 三 | 一五 | 女 |
| 54 | 岡田夫人つる | 三一 | | 女 |
| 55 | 岡田松生 | 五九 | 三 | 男 |
| 56 | 奥野昌綱 (東京一致神学校聴講生) | 三一 | 四七 | 男 |
| 57 | 尾崎三良 (内務図書頭) 夫人 | 一九 | | 女 |
| 58 | オシリア (ゴープル、ジョナサン令嬢オシリア) | 四 | | 女 |
| 59 | 奥地利公使 (シエツファ、イグナツツ、F. 弁理公使) | 八 | | 男 |
| 60 | 小野 (報知新聞論説委員) | 一四七 | 五四 | 男 |
| 61 | 小野寺常治 | | 八 | 男 |
| 62 | オーランド、ベントン (バラ、ジェームス、H. (バラ学校開設者・宣教師) 夫人マーガレット、T. K. 令息) | 四〇 | | 男 |
| 63 | 笠原 (富田家使用人) | 七九 | | 男 |
| 64 | 笠原夫人 | 一一 | 六 | 女 |

- 65 カサワラ、イヤコ 一八 一〇二 男
- 66 梶 くま (勝 安芳 (海舟・安房守) 妻妾・梅太郎令母) 八 女
- 67 勝 安芳 (海舟・安房守) 五二 男
- 68 勝 安芳 (海舟・安房守) 夫人たみ 九〇 二七 女
- 69 勝 安芳 (海舟・安房守) 長男小鹿 一四九 男
- 70 勝 安芳 (海舟・安房守) 長男小鹿夫人栄子 (えい・たて) 七五 一四 女
- 71 勝 安芳 (海舟・安房守) 三女逸子 (お逸) 四五〇 三五 女
- 72 勝 安芳 (海舟・安房守) 三男梅太郎 一三二 一九 男
- 73 勝 安芳 (海舟・安房守) 令母のぶ 四〇 女
- 74 カーティス (在横浜帽子屋女主人) 一〇 女
- 75 門屋セイゴ (ヘップパン (ヘボン)、ジエームス、C. 弟子) 五 男
- 76 金沢良斎 (医師) 夫人 三 女
- 77 金沢良斎 (医師) 令嬢録 (矢田部良吉 (植物学者) 夫人) 八 女
- 78 カネ (ホイットニー家使用人) 一八 男
- 79 カネ (ホイットニー家使用人) 夫人セキ 五 女
- 80 カローザーズ (カロゾルス)、クリストファ (慶應義塾 (英語・文学) 教師・築地大学校創立者・宣教師) 二三 男

- 81 カローザーズ (カロゾルス)、クリストファ (慶應義塾〔英語・文学〕教師・築地大学校創立者・宣教師) 夫人ジュリア (A六番女学校開設者) 二 一一 女
- 82 川路利良 (東京警視庁大警視) 夫人 三三 六六 女
- 83 河村 (笙演奏家) 一三 男
- 84 川村順次郎 (幕臣・成瀬隆蔵令殿) 二四 男
- 85 川村順次郎 (幕臣・成瀬隆蔵令殿) 夫人 一七 女
- 86 菊 (きく) (勝家使用人) 二三 女
- 87 ギューリック、ジョン (生物学者・宣教師) 令嬢ファニー 一二 二一 女
- 88 キン (疋田家男性使用人) 一一 男
- 89 金太郎 (ホイットニー家使用人) 三五 男
- 90 九鬼老大名 (隆周カ) 三一 男
- 91 楠本正隆 (東京府知事) 一〇七 四三 男
- 92 楠本正隆 (東京府知事) 令母フチ 九 女
- 93 クーパー (クーパー)、チャールズ、J. (東京大学〔哲学・歴史〕教師) 二〇 一六 男
- 94 グラント、ユリシーズ、S. (元美国大統領・北軍総司令官) 一一六 男
- 95 グラント、ユリシーズ、S. (元美国大統領・北軍総司令官) 夫人ジュリア 九九 五二 女
- 96 グラント、ユリシーズ、S. (元美国大統領・北軍総司令官) 令息フレッド (陸軍大佐) 一四 男

- 97 グリーン、ダニエル、C. (新約聖書翻訳委員・同志社大学教授・宣教師) 六 一五 男
- 98 グリグズビー、ウィリアム、E. (開成学校・東京大学〔法律〕教師) 一〇 男
- 99 グレーシー(ホイットニー、クララ姻戚) 四 女
- 100 クレツカー、フレデリック(宣教医) 夫人 一二 女
- 101 黒田清隆(参議兼開拓長官・陸軍中将) 六 男
- 102 黒田長溥(元福岡藩主・参議・侯爵) 一五 男
- 103 けい 一七 女
- 104 ケネディ夫人(東京図書館クラブ会長) 八 女
- 105 小泉(松平確堂〔元美作津山藩主〕家来) 一六 三一 男
- 106 皇后陛下(昭憲皇太后美子) 一七五 女
- 107 幸野楳嶺(日本画師匠) 二二 男
- 108 幸野楳嶺(日本画師匠) 夫人 五 女
- 109 小菊(芸者) 二五 女
- 110 コクラン(カックラン)、ジョージ、L. (旧約聖書翻訳委員・東洋英和学校設立者・宣教師) 五 男
- 111 コクラン(カックラン)、ジョージ、L. (旧約聖書翻訳委員・東洋英和学校設立者・宣教師) 夫人 一一 女
- 112 コクラン(カックラン)、ジョージ、L. (旧約聖書翻訳委員・東洋英和学校設立者・宣教師) 令嬢スージー 一三 女

- 113 ゴードン^{リカ}ミングズ嬢 四五 一一四 女
- 114 コニー〔ベイリー、チャールス、W. (海軍兵学校教官) 令嬢コニー〕 四 女
- 115 こまつ (勝家使用人) 三 女
- 116 コラス嬢 八 女
- 117 コーリー (コウレー)、ジョージ 一六 二二 男
- 118 西郷従道 (陸軍中将) 二〇 男
- 119 サイル、エドワード、W. (東京開成学校・東京大学〈哲学・歴史・心理学〉教師・アジア協会会長・宣教師) 四 一〇 男
- 120 さかや (?) すみ (松平確堂〈元美作津山藩主〉家使用人) 六一 五四 女
- 121 桜井昭恵夫人ちか 九 女
- 122 桜井忠興 (元摂津尼崎藩主〈勝 小鹿夫人栄子〈えい・たて〉令嬢〉) 三〇 男
- 123 桜井忠興 (元摂津尼崎藩主〈勝 小鹿夫人栄子〈えい・たて〉令嬢〉) 令嬢なつ (栄子〈えい・たて〉令妹) 一六 女
- 124 佐々木三郎 (陸軍省役人) 二三 一〇 男
- 125 サットン、フレデリック、W. (海軍兵学校教官・機関教授局管理者) 七 二三 男
- 126 サットン、フレデリック、W. (海軍兵学校教官・機関教授局管理者) 令嬢ネリー 五 女
- 127 サットン、フレデリック、W. (海軍兵学校教官・機関教授局管理者) 令嬢バーティ 五八 女

- 128 サットン、フレデリック、W. (海軍兵学校教官・機関教授局管理者) 令息フレディ 八 九〇 男
- 129 佐藤 (勝家寄寓者) 令息 一七 三九 男
- 130 ジェシー「フエントン、ジョン、W. (海軍軍楽隊指導者・初代「君が代」作曲者) 令嬢ジェシー」 一七 一五 女
- 131 ジェニングズ (オーシャニック号船長) 一三 四二 男
- 132 シエパード、エリー、T. (外務・司法両省万国公法顧問) 令嬢グレタ (グレッテイ) 二三 四二 女
- 133 シエパード、エリー、T. (外務・司法両省万国公法顧問) 令嬢アニー 一二 一五 女
- 134 シエパード、エリー、T. (外務・司法両省万国公法顧問) 令嬢ルイーズ (ルウ) 九 一五 女
- 135 ジェームズ、ジョン、M. (日本海軍指導者・船長) 夫人 一三 一三 女
- 136 しげの 一三 一三 女
- 137 シズ (ホイットニー家使用人) 一三 一三 女
- 138 七太郎 (勝家家扶) 一六 一三 男
- 139 柴田 (女子師範学校職員) 一三 一三 男
- 140 柴田 (女子師範学校職員) 令息キク 四三 一五 男
- 141 柴田 (一等伶人、芝葛鎮カ) 九 二四 男
- 142 清水嬢 一〇 一三 女
- 143 シモンズ、ドゥアーネ、B. (宣教師・在横浜開業医) 一二 一三 男

- 144 シュウ (ホイットニー家使用人) 三〇 男
- 145 シュウ (ホイットニー家使用人) 夫人タケ 三三 女
- 146 ジュエツト、フランク、F. (東京開成学校・東京大学〔化学〕教師) 一八 一三 男
- 147 ショー、アレグザンダー、C. (芝聖アンデレ教会創立者・軽井沢避暑地発見者・宣教師) 夫人メリーアン 一二 女
- 148 ショウテイ (シヨウハン) (人力車夫) 一一 男
- 149 シンプソン、ジェームス (内務・海軍両省・地理寮測量師付書記・語学教授) 夫人 一七 女
- 150 杉 一郎 (杉 孫七郎〔宮内大輔〕令息) 二三 男
- 151 杉岡ヨシ (勝家家扶) 一五 男
- 152 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 一一 男
- 153 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 夫人俊 八三 女
- 154 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息武 六七 三六 男
- 155 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息(?) イノコ 一四 男
- 156 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息雄 六四 男
- 157 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息盛 三三 男
- 158 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息六蔵 二九 二八 男
- 159 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息武夫人よし 七四 女

- 160 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息武令嬢かしく 六〇 女
- 161 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令母 二二 女
- 162 杉田 (元良) 勇次郎 (津田 仙 (学農社農学校開設者) 弟子) 一二 男
- 163 函師民嘉 (村田一郎従兄弟) 六 男
- 164 スペンサー、マチイルダ、A、嬢 (海岸女学校・東京英和女学校 (聖書・英語・音楽) 教師・宣教師) 三二 女
- 165 スミス、ロバート、ヘンリー (開成学校・東京大学 (機械工学) 教師) 一六 男
- 166 ソーパー、ユリアス (耕教学舎設立者・宣教師) 二八 男
- 167 ソーパー、ユリアス (耕教学舎設立者・宣教師) 夫人 一一 女
- 168 ダイアー (ダイエル)、ヘンリー (工部大学校教頭兼 (土木・機械工学) 教師) 夫人 六 女
- 169 ダイヴァーズ、エドワード (工部大学校・東京大学 (化学) 教師・アジア協会会長) 令息フレッド 九 男
- 170 高木三郎夫人 一一 八六 女
- 171 高木貞作 (商法講習所助教) 三一 二六 男
- 172 高木貞作 (商法講習所助教) 夫人 四一 女
- 173 高橋夫人 六 女
- 174 滝村鶴雄 二三 一〇 男
- 175 滝村鶴雄夫人 四八 女

| | | | | |
|-----|--------------------------------------|-----|----|---|
| 176 | 滝村鶴雄令嬢こまつ | 一四 | | 女 |
| 177 | 滝村鶴雄令息武夫 | 五 | | 男 |
| 178 | 滝村鶴雄令母 | 二二六 | 二一 | 女 |
| 179 | ダグラス夫人 | 二八 | 三五 | 女 |
| 180 | 竹下寅吉令妹 | 一二 | 九 | 女 |
| 181 | 竹村謹吾 | | 二三 | 男 |
| 182 | 田中（勝家家扶） | 四三 | | 男 |
| 183 | 田中不二麿（文部大輔）夫人スマ | 四四 | 六 | 女 |
| 184 | 種田誠一 | 二九 | | 男 |
| 185 | 種田誠一夫人 | | 一三 | 女 |
| 186 | タミ（富田家使用人） | 四 | 八 | 女 |
| 187 | ターリング、チャールズ、J.（東京大学〈英国法〉教師） | | 一五 | 男 |
| 188 | チャプリン、ウインフィールド、S.（開成学校・東京大学〈土木工学〉教師） | 七 | | 男 |
| 189 | チヨ（ホイットニー家使用人） | | 四 | 女 |
| 190 | 朝鮮公使（皇太子令息〈具名不詳〉） | 五二 | | 男 |
| 191 | 朝鮮副公使（宰相令息〈具名不詳〉） | 五二 | | 男 |
| 192 | 津田 仙（学農社農学校開設者） | 一一一 | 五九 | 男 |

- 193 津田 仙 (学農社農学校開設者) 夫人 四四 女
- 194 津田 仙 (学農社農学校開設者) 養女 一七 八 女
- 195 鶴 (ホイットニー家使用人) 二三 三 女
- 196 テイ (ホイットニー家使用人) 一四 一 男
- 197 デイヴィッドソン、ロバート、Y. (聖書翻訳事業従事者・宣教師) 一一 一 男
- 198 デイクソン、ウィリアム、G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師) 一八四 一二九 男
- 199 デイクソン、ウィリアム、G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師) 令弟デイクソン、ジェームス、M.、ジェイミー 三〇 七 男
- 200 デイクソン、ウィリアム、G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師) 令妹 一一 一 女
- 201 デイクソン、ウィリアム、G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師) 令母 三九 三 女
- 202 てる 九 九 女
- 203 伝吉 (大丸番頭) 三二 一四四 男
- 204 天皇陛下 (明治天皇) 二七五 四六 男
- 205 東儀季熙 一一 五 男
- 206 徳川家達 (徳川宗家一六代) 六〇 六 男
- 207 徳川達孝・田安公 (徳川宗家一六代家達令弟) 一九 一 男
- 208 徳川慶喜 (徳川一五代将軍) 五七 五 男

- 209 ド・ボワンヴェイル、アルフレッド、C. (工学寮教官・建築家) 一五 二 男
- 210 ド・ボワンヴェイル、アルフレッド、C. (工学寮教官・建築家) 夫人 五五 女
- 211 ド・ボワンヴェイル、アルフレッド、C. (工学寮教官・建築家) 令嬢マリイ 九 一四 女
- 212 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 九 男
- 213 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 夫人縫 一四三 五四 女
- 214 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 令息真男 七 男
- 215 ドーラ (ホイットニー、クララ姻戚) 一七 女
- 216 トルー、マリア、T. P. 夫人 (新栄・桜井両女学校教師・宣教師) 一五 女
- 217 中島信行 (前神奈川県令・元老院議官) 一一 男
- 218 中原国三郎 (銀行家) 三一九 一〇二 男
- 219 中原国三郎 (銀行家) 令妹すえ 七六 女
- 220 中原国三郎 (銀行家) 令母 一五 女
- 221 中村正直 (同人社女学校主) 七 一三 男
- 222 鍋島直大 (元佐賀藩主・元老院議官) 七 男
- 223 成瀬隆蔵 (講習所第一回卒業生) 四一 男
- 224 新島 襄 (同志社女学校設立者) 四〇 一〇 男
- 225 西 寛二郎夫人 一七 女

| | | | | |
|-----|---|----|----|---|
| 226 | 西 寛二郎令母 | 一七 | 九 | 女 |
| 227 | 西田伝助所生子 (赤子) | 一二 | | ? |
| 228 | 新田タキジロウ | | 一〇 | 男 |
| 229 | 乃木 | 六 | 一九 | 男 |
| 230 | パイパー、ジョン (日本聖公会祈禱書翻訳委員・宣教師) 夫人メアリー | | 二二 | 女 |
| 231 | ハコダテ屋 (銀座骨董店主) | 三五 | | 男 |
| 232 | パーソン、ウィリアム、エドウィン (東京開成学校・東京大学 (数学・理学) 教師) 夫人 | | 六 | 女 |
| 233 | 羽田 | 五 | 二一 | 男 |
| 234 | バチエルダー | | 一九 | 男 |
| 235 | バチエルダー夫人 | 七 | 一六 | 女 |
| 236 | バチエルダー令息ジョージ | 四七 | 一〇 | 男 |
| 237 | 服部嬢 | 三二 | | 女 |
| 238 | 林 (村田一郎令厳) 令息恒五郎 | 四二 | | 男 |
| 239 | 原 胤昭 (十字屋) | | 二 | 男 |
| 240 | バラ、ジェームス、H. (バラ学校開設者・宣教師) 夫人マーガレット、T. K. | 一六 | | 女 |
| 241 | バラ、ジョン、クライグ、B. (バラ、ジェームス、H. (バラ学校開設者・宣教師) 令弟・築地大学校長) 夫人 | 八 | | 女 |

| | | | | | |
|-----|-------------------------------|--|-----|----|---|
| 242 | ハリス、メリーマン、C. | (東京英和学校教師・宣教師) | 一一 | 二五 | 男 |
| 243 | ハリス、メリーマン、C. | (東京英和学校教師・宣教師) 夫人 | | 一一 | 女 |
| 244 | ハル(ホイットニー家使用人、金太郎夫人) | | 二九 | 七 | 女 |
| 245 | 東伏見宮依仁親王 | | 一二 | | 男 |
| 246 | 疋田正善 | | 六八 | 九 | 男 |
| 247 | 疋田正善夫人(勝 安芳(海舟・安房守)次女孝子(小太郎)) | | 二七 | 二七 | 女 |
| 248 | 疋田正善長女輝子 | | 二一 | 八 | 女 |
| 249 | 疋田正善長男玄龜 | | 一二九 | 四六 | 男 |
| 250 | 疋田正善次男保爾 | | 二七 | 二一 | 男 |
| 251 | 疋田正善三男静守 | | 一四 | | 男 |
| 252 | ヒル | | 二二 | 一三 | 男 |
| 253 | ビンガム、ジョン、A. | (日本駐在美国全権公使) | 一四八 | 二八 | 男 |
| 254 | ビンガム、ジョン、A. | (日本駐在美国全権公使) 夫人 | 五五 | 一四 | 女 |
| 255 | ビンガム、ジョン、A. | (日本駐在美国全権公使) 令嬢ルーシー(フレージャー、フレッド夫人) | 一四 | | 女 |
| 256 | フェノロサ、アーネスト、F. | (東京大学(哲学)教師・文部省美術取調委員) 夫人リジイ、グッドヒュー、M. | 一五 | 一九 | 女 |

- 257 福沢諭吉 (慶應義塾創設者) 七〇 一四九 男
- 258 福沢諭吉 (慶應義塾創設者) 夫人錦 二八 女
- 259 藤島常興 (測量器械製造家) 五一 一七 男
- 260 ふゆ 二一 女
- 261 ブラウアズ、トム 一〇 男
- 262 ブラウン、サムエル、R. (私立神学校ブラウン塾開設者・宣教師) 令嬢アニー 三三 四一 女
- 263 ブリンドリー、フランシス令息フレッド 一三 九 男
- 264 ペイトン (工部大学校関係者) 二六 男
- 265 平兵衛 (村田家使用人) 一二 男
- 266 ベイリー、チャールズ、W. (海軍兵学校教官) 夫人 一八 女
- 267 ベインブリッジ夫人 一〇 女
- 268 ヘップバン (ヘボン) ジェームス、C. (『和英語林集成』編纂者・「ヘボン式ローマ字綴り方」考案者・宣教師) 一五 三九 男
- 269 ヘップバン (ヘボン) ジェームス、C. (『和英語林集成』編纂者・「ヘボン式ローマ字綴り方」考案者・宣教師) 夫人クララ、メリー 二五 一四 女
- 270 ベトン夫人 六 女
- 271 ベネット、アルバート、A. (バプティスト教会牧師) 二五 男

- 272 ペール (横浜コーヒー店主) 一四 男
- 273 ベルツ、エルウィン (東京医学校・東京大学医学部教師) 一三 三一 男
- 274 ヘルム、アドルフ (開成学校・官立外国語学校〈ドイツ語〉教師) 八 一二 男
- 275 ボアソナード、グスタブ、エミリ (太政官法制局御用掛) 令嬢 五 女
- 276 ホイットニー、ウイリアム、C. (クララ令嚴) 二四 五 男
- 277 ホイットニー、ウイリアム、C. 夫人アンナ、L. (クララ令母〈愛称ペテイ、ラヴィ〉) 三六六 五二 女
- 278 ホイットニー、ウイリアム、C. 令息ウイリイ (クララ令兄) 二六 六六 男
- 279 ホイットニー、ウイリアム、C. 令嬢アデレイド (アデイ) (クララ令妹) 一二〇 一三 女
- 280 ボズ (ホイットニー家車夫) 三八 男
- 281 マイヤー (マイヤーズ)、フレドリック、A. (東京英語学校・商法講習所教師) 一四 男
- 282 牧山先生 一六 二九 男
- 283 マクラレン、サミュエル、G. (一致神学校教師・宣教師) 一二 七 男
- 284 マッカーティ、デイビィ、B. (開成学校〈英語・ラテン語・博物学〉教師・宣教師) 二八 男
- 285 マッカーティ、デイビィ、B. (開成学校〈英語・ラテン語・博物学〉教師・宣教師) 夫人ジョアンナ、M. 一五 二〇 女
- 286 マックレー令嬢ネツティ 三三 女
- 287 松平確堂 (元美作津山藩主) 夫人 一四六 女

| | | | | |
|-----|---|-----|-----|---|
| 288 | 松平確堂 (元美作津山藩主) 養女八百子 (やお) | 三四五 | 一七四 | 女 |
| 289 | 松平定敬 (定次郎) (元伊勢桑名藩主) | 二九四 | 三〇 | 男 |
| 290 | 松平定敬 (定次郎) (元伊勢桑名藩主) 第一夫人 | 五五 | | 女 |
| 291 | 松平定教 | 一〇 | | 男 |
| 292 | 松平康倫 | 一一 | | 男 |
| 293 | 松野夫人 (久良良) | 八 | 一〇 | 女 |
| 294 | マーフィー、マイケル | 四四 | 二五 | 男 |
| 295 | マレイ (モルレイ)、デイヴィット (文部省学監・教育博物館設立者) | 二一 | | 男 |
| 296 | マレイ (モルレイ)、デイヴィット (文部省学監・教育博物館設立者) 夫人 | 四 | | 女 |
| 297 | マンデイ、エドモンド、F. (工部大学校 (図画・製図) 教師) | 九 | 二七 | 男 |
| 298 | マンデイ、エドモンド、F. (工部大学校 (図画・製図) 教師) 夫人 | 三四 | 三五 | 女 |
| 299 | マンデイ、エドモンド、F. (工部大学校 (図画・製図) 教師) 令息サニー | | 八 | 男 |
| 300 | マンデイ、エドモンド、F. (工部大学校 (図画・製図) 教師) 所生子 (赤子) | | 八 | 男 |
| 301 | 三浦 徹夫人柳 | 一一六 | | 女 |
| 302 | 三浦 徹令嬢アイ (赤子) | 三四 | | 女 |
| 303 | 道 | 四 | | 女 |
| 304 | 箕作秋坪 (東京師範学校摂理) | 三三 | | 男 |

| | | | | |
|-----|---------------------------------------|-----|----|---|
| 305 | 宮川経輝 (キリスト教伝道者) | 三六 | 四六 | 男 |
| 306 | 村田一郎 | 一五二 | 一四 | 男 |
| 307 | 村田一郎夫人久子 (ひさ) | 二一九 | 五 | 女 |
| 308 | メアリー (ゴープル、ジョナサン令嬢メアリー) | 四 | | 女 |
| 309 | メイエ夫人 | 一二 | | 女 |
| 310 | メイベル (ベイリー、チャールズ、W. (海軍兵学校教官) 令嬢メイベル) | 四 | | 女 |
| 311 | 目賀田嬢 | 一九 | | 女 |
| 312 | モクリツジ (ホイットニー、クララ祖父) | 一一八 | | 男 |
| 313 | 桃太郎 (芸者) | 八 | 一〇 | 女 |
| 314 | 森 有祐 | 一七五 | 五八 | 男 |
| 315 | 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) | 二八 | | 男 |
| 316 | 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 夫人阿常 | 六七 | 一〇 | 女 |
| 317 | 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 令嬢有恕 | 一九 | 二一 | 男 |
| 318 | 森 ひろ (森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 義姉・有祐令母) | 八 | | 女 |
| 319 | 矢沢嬢 | 一八 | 一八 | 女 |
| 320 | ヤス (やす) (杉田家使用人 (女性)) | 二六 | | 女 |
| 321 | 矢田部良吉 (植物学者) | 一〇一 | 八五 | 男 |

- 322 柳谷謙太郎 (美国駐在領事) 夫人 二五 女
- 323 矢野二郎 (商法講習所所長・理事) 一一 男
- 324 ヤングマン、ケイト、M. (築地B六番女学校設立者・宣教師) 一二 二一 女
- 325 ユーイング、ジェームス、A. (東京大学〈機械工学・物理学〉教師・実測地震学者) 二七 男
- 326 ユウメイ (マツカーテイ、デイビィ、B. (開成学校〈英語・ラテン語・博物学〉教師・宣教師) 養女金韵梅〈女医〉) 四九 五六 女
- 327 ユージェニー (仏国王妃) 三 女
- 328 横山 (美国聖公会宣教師) 二六 男
- 329 横山元千代 二六 男
- 330 横山壮次郎 (元千代令弟) 二六 男
- 331 吉沢郷党 (開拓使役人) 一三九 二一 男
- 332 吉原重俊 (租税局長) 令嬢静枝 六二 女
- 333 ライト、ウィリアム、B. (東京三一神学校教師・宣教師) 夫人エマ 一五 女
- 334 リート、レナ (リーナ) 嬢 (ヘップバン夫人姪・新栄学校教師・宣教師) 一二 四一 女
- 335 リーランド、ジョージ、A. (体操伝習所・東京師範学校・東京女子師範学校〈体育理論・体育実践〉教師) 夫人 一五 女
- 336 リリー (ベイリー、チャールズ、W. (海軍兵学校教官) 令嬢リリー) 九 女

337 ロウ長官夫人 一一四 女

338 ワイズ夫人 八 女

339 ワシントン、アニー嬢（東京女学校教師・ユイイング、ジェームス、A. 《東京大学（機械工学・物理学教師・

実測地震学者）夫人）

七一 女

340 ワシントン、ジョージ元美国大統領 一〇 男

341 ワシントン、ジョージ元美国大統領夫人 二九 女

342 和田秀豊（？）（虎ノ門教会牧師・内村鑑三結婚式仲人）夫人 三 女

343 渡辺 五二 三〇 男

344 渡辺ふで（福岡県令渡辺 清令嬢・小鹿島夫人） 四 二二 女

以上の諸事例にみる○△両印部分の在り様をまとめて示した第一表より諸種の事柄を知りうるが、ここでは、次の諸点を指摘しておこう。

①、○△両印合計数（以下、Cと仮称する）に占める○△両印各数（以下、○印数はA、△印数はBと各々仮称する）の百分比について、その多寡をみるに、

A（七〇・五％）の方が、B（二九・五％）よりも遙かに優越していること。

②、A Bの性別毎に占める百分比をみるに、男性の場合は、Aが六八・七％、Bが三一・三％となり、女性の場合は、

Aが七二・六％、Bが二七・四％となつて、男性・女性、孰れの場合も、ともにAの占める百分比の方がBの占

めるそれよりも数等勝っていること。

③、①に関連して、性別毎のA Bが各々占める百分比について、（イ）AがBをより多く上廻るのは、男性の場合（六

第一表

| 性別 ○△ 両印各種 (AB) | 男性 | 女性 | 合計数 |
|--------------------------|-----------------|-----------------|------------------|
| ○印数(A) | 6218 (68.7%) | 5444 (72.6%) | 11662 (70.5%) |
| △印数(B) | 2833 (31.3%) | 2053 (27.4%) | 4886 (29.5%) |
| ○△両印 合計数(C) | 9051 | 7497 | 16548 |

[備考] ここには、性別不詳の事例227の○印数12は含まれていない。○△両印各数(A)(B)欄の()内百分比は○△両印合計数(C)に占めるものである。

八・七%)ではなく、女性の場合(七二・六%)であり、逆に(ロ)BがAをより多く凌駕するのは、女性の場合(二七・四%)ではなく、男性の場合(三一・三%)であること。そしてこの(イ)(ロ)両者については、例えば、AB各々において卓越する諸事例を、その卓越する上位二十位までを各々列挙し、これに検討を加えることによっても、容易にその妥当性を裏付けしえよう。すなわち、

Aの卓越順次 (順次・事例番号・事例人名・A・性別の順に随って記す。)

- | | | | |
|-----|---|-----|----|
| 1. | 71勝 安芳 (海舟・安房守) 三女逸子 (お逸) | 四五〇 | 女性 |
| 2. | 277ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L. (クララ令母 (愛称ペテイ、ラヴィ)) | 三六六 | 女性 |
| 3. | 288松平確堂 (元美作津山藩主) 養女八百子 (やお) | 三四五 | 女性 |
| 4. | 218中原国三郎 (銀行家) | 三一九 | 男性 |
| 5. | 289松平定敬 (定次郎) (元伊勢桑名藩主) | 二九四 | 男性 |
| 6. | 204天皇陛下 (明治天皇) | 二七五 | 男性 |
| 7. | 178滝村鶴雄令母 | 二二六 | 女性 |
| 8. | 307村田一郎夫人久子 (ひさ) | 二一九 | 女性 |
| 9. | 198デイクソン、ウィリアム、G. (工部大学校 (英語・英文学) 教師) | 一八四 | 男性 |
| 10. | 106皇后陛下 (昭憲皇太后美子) | 一七五 | 女性 |
| 10. | 314森 有祐 | 一七五 | 男性 |
| 11. | 306村田一郎 | 一五二 | 男性 |
| 12. | 69勝 安芳 (海舟・安房守) 長男小鹿 | 一四九 | 男性 |
| 13. | 253ビンガム、ジョン、A. (日本駐在美国全権公使) | 一四八 | 男性 |
| 14. | 60小野 (報知新聞論説委員) | 一四七 | 男性 |
| 15. | 287松平確堂 (元美作津山藩主) 夫人 | 一四六 | 女性 |

- | | | | | |
|-----|-----|---|-----|----|
| 16. | 213 | 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 夫人縫 | 一四三 | 女性 |
| 17. | 331 | 吉沢郷党 (開拓使役人) | 一三九 | 男性 |
| 18. | 72 | 勝 安芳 (海舟・安房守) 三男梅太郎 | 一三二 | 男性 |
| 19. | 249 | 疋田正善長男玄龜 | 一二九 | 男性 |
| 20. | 139 | 柴田 (女子師範学校職員) | 一二三 | 男性 |
| | | Bの卓越順次 (順次・事例番号・事例人名・ B・性別の順に随って記す。) | | |
| 1. | 288 | 松平確堂 (元美作津山藩主) 養女八百子 (やお) | 一七四 | 女性 |
| 2. | 257 | 福沢諭吉 (慶應義塾創設者) | 一四九 | 男性 |
| 3. | 203 | 伝吉 (大丸番頭) | 一四四 | 男性 |
| 4. | 198 | ディクソン、ウィリアム、G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師) | 一二九 | 男性 |
| 5. | 113 | ゴードン・カミングズ嬢 | 一一四 | 女性 |
| 6. | 65 | カサワラ、イヤコ | 一〇二 | 男性 |
| 6. | 218 | 中原国三郎 (銀行家) | 一〇二 | 男性 |
| 7. | 128 | サットン、フレデリック、W. (海軍兵学校教官・機関教授局管理者) 令息フレディ | 九〇 | 男性 |
| 8. | 170 | 高木三郎夫人 | 八六 | 女性 |
| 9. | 321 | 矢田部良吉 (植物学者) | 八五 | 男性 |
| 10. | 16 | ヴァーベック (フルベッキ)、ギドー、H. F. (開成学校教養学科教師・宣教師) | 八四 | 男性 |

10. 21 ヴァン、ビューレン、トーマス、B. (神奈川県総領事・将軍) 八四 男性
11. 35 内田きの 七三 女性
12. 339 ワシントン、アニー嬢 (東京女学校教師・ユイニング、ジェームス、A. (《東京大学〈機械工学・物理学〉
教師・実測地震学者》夫人) 七一 女性
13. 82 川路利良 (東京警視庁大警視) 夫人 六六 女性
13. 278 ホイットニー、ウイリアム、C. 令息ウイリイ (クララ令兄) 六六 男性
14. 50 大山 巖 (陸軍卿・陸軍中将) 夫人沢子 (旧姓吉井) 六〇 女性
15. 192 津田 仙 (学農社農学校開設者) 五九 男性
16. 127 サットン、フレデリック、W. (海軍兵学校教官・機関教授局管理者) 令嬢バーティ 五八 女性
16. 314 森 有祐 五八 男性
17. 326 ユウメイ(マッカーティ、デイビイ、B. (《開成学校〈英語・ラテン語・博物学〉教師・宣教師》養女金韵梅〈女医〉) 五六 女性
18. 210 ド・ボワンヴィル、アルフレッド、C. (工学寮教官・建築家) 夫人 五五 女性
19. 60 小野 (報知新聞論説委員) 五四 男性
19. 120 さかや (?) すみ (松平確堂〈元美作津山藩主〉家使用人) 五四 女性
19. 213 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 夫人縫 五四 女性
20. 95 グラント、ユリシーズ、S. (元美国大統領・北軍総司令官) 夫人ジュリア 五二 女性

20. 277 ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L. (クララ令母 (愛称ペティ、ラヴィ)) 五二 女性

これらA・Bの各々が卓越する諸事例のうち、Aの卓越する諸事例の場合についてみるに、上位二十位までの二十一例 (十位の事例が各々同数で) 中、より上位の順次たる首位より十位までは、男性が五事例存し、女性が六事例存するというように、たとえ僅少差とはいえ、女性事例の方が男性事例よりも優っているのは、注意されてよいことであろう。

というのは、それより下位順次たる十一位以下二十位にあつては、男性が八事例存し、女性が二事例存するというように、上件に相異して男性事例の方が女性事例よりも上廻っていることを認めうるからである。而してこうした事象は、Aの卓越順次において、Aが四五〇も存するのに対して、Bが三五しか存しない71勝 安芳 (海舟・安房守) 三女逸子 (お逸) の事例が首位にあり、Aが三六六も存するのに対して、Bが五二しか存しない277ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L. (クララ令母 (愛称ペティ、ラヴィ)) が、それに次いで二位にあることなどに最もよく象徴されていると観ることができよう。

次に、Bの卓越する諸事例の場合についてみるに、より上位たる首位以下二十位までの二十七例 (六位 (65, 218)、十位 (16, 21)、十三位 (82, 278)、十六位 (127, 314)、二十位 (95, 277) の事例が各々同数で各二例宛存し、十九位 (60, 120, 213, 271) の事例が各々同数で三例存するため) 中、より上位たる首位以下十位までは、男性が九事例存し、女性が三事例存するというように、男性事例の方が女性事例よりも勝り、これより下位順次たる十一位以下二十位にあつては、男性が四事例存し、女性が十一事例存するというように、女性事例の方が男性事例よりも上廻っていることを知りうるのである。こうして、ここに述べたBの卓越する諸事例と、既述したAの卓越する諸事例とにおいて、卓越順次のより上位たる首位以下十位までの諸事例と、それより下位たる十一位以下二十位までの諸事例との間に各々卓越性と性別との双方に係わる相反する相関関係の存在を識認しうるのである。

次は、左記のようなCの卓越順次についてである。すなわち、

Cの卓越順次（順次・事例番号・事例人名・
C・性別の順に随って記す。）

- | | | | | |
|-----|-----|--|-----|----|
| 1. | 288 | 松平確堂（元美作津山藩主）養女八百子（やお） | 五一九 | 女性 |
| 2. | 71 | 勝 安芳（海舟・安房守）三女逸子（お逸） | 四八五 | 女性 |
| 3. | 218 | 中原国三郎（銀行家） | 四二一 | 男性 |
| 4. | 277 | ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L.（クララ令母（愛称ペテイ、ラヴィ）） | 四一八 | 女性 |
| 5. | 289 | 松平定敬（定次郎）（元伊勢桑名藩主） | 三三四 | 男性 |
| 6. | 204 | 天皇陛下（明治天皇） | 三三一 | 男性 |
| 7. | 198 | デイクソン、ウィリアム、G.（工部大学校（英語・英文学）教師） | 三三三 | 男性 |
| 8. | 178 | 滝村鶴雄令母 | 二四七 | 女性 |
| 9. | 314 | 森 有祐 | 二二三 | 男性 |
| 10. | 307 | 村田一郎夫人久子（ひさ） | 二二四 | 女性 |
| 11. | 257 | 福沢諭吉（慶應義塾創設者） | 二一九 | 男性 |
| 12. | 60 | 小野（報知新聞論説委員） | 二〇一 | 男性 |
| 13. | 213 | 富田鉄之助（第二代日銀総裁）夫人縫 | 一九七 | 女性 |
| 14. | 321 | 矢田部良吉（植物学者） | 一八六 | 男性 |
| 15. | 203 | 伝吉（大丸番頭） | 一七六 | 男性 |

- | | | | | | |
|-----|-----|---------------------------|--------------|-----|----|
| 15. | 253 | ビンガム、ジョン、A. | (日本駐在美国全権公使) | 一七六 | 男性 |
| 16. | 106 | 皇后陛下 (昭憲皇太后美子) | | 一七五 | 女性 |
| 16. | 249 | 疋田正善長男玄龜 | | 一七五 | 男性 |
| 17. | 192 | 津田 仙 (学農社農学校開設者) | | 一七〇 | 男性 |
| 18. | 306 | 村田一郎 | | 一六六 | 男性 |
| 19. | 331 | 吉沢郷党 (開拓使役人) | | 一六〇 | 男性 |
| 20. | 113 | ゴードン ^{II} カミングズ嬢 | | 一五九 | 女性 |

この順次において、より上位を占めるのは、当然のこと乍ら、A・Bの孰れかが、あるいは、A・Bの各々がともに卓越している事例ということになろう。この卓越順次において最も高位、すなわち首位を占めるのは、288松平確堂(元美作津山藩主)養女八百子(やお)であるが、これは既述したように、Bの卓越順次においてもやはり首位を占める事例である。この事例は、件のBの卓越順次において、より上位たる首位以下十位までは、男性事例の方が女性事例よりも勝っているとした記載上に認められる一般的通則に相反する点で、確かに極めて特異な存在といえる。而してこうしたことは、やはり同じ女性事例の71勝 安芳(海舟・安房守)三女逸子(お逸)や、277ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L. (クララ令母(愛称ペティ、ラヴィ))が、ともにCの卓越順次において、前者が二位、後者が四位といふかなりの高位を占めているにもかかわらず、Bの卓越順次において、前者が二十位以下、後者がかつ二十位というように、さして上位を占めているとはいえない、というよりも寧ろ、かなり下位を占めているという記載事実に徴して、これら事例71勝 安芳(海舟・安房守)三女逸子(お逸)、277ホイットニー、ウィリアム、C.

夫人アンナ、L. (クララ令母〈愛称ペティ、ラヴィ〉) 両者と、上記事例288松平確堂(元美作津山藩主) 養女八百子(やお)との間に、際立った対照性を看取しうることによつて、より一層明瞭とならう。

因に、A・B・C各々の卓越順次において、上位二十位以上を占める先掲事例中の孰れにも共通して所見されるのは、①60小野(報知新聞論説委員)〔Aは十四位、Bは十九位、Cは十二位〔A・B・Cの各々に付されている〕〕、②198デイクソン、ウィリアム、G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師)〔Aは九位、Bは四位、Cは七位〕、③213富田鉄之助(第二代日銀総裁) 夫人縫〔Aは十六位、Bは十三位〕、④218中原国三郎(銀行家)〔Aは四位、Bは六位、Cは三位〕、⑤277ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L. (クララ令母〈愛称ペティ、ラヴィ〉)〔Aは二位、Bは二十位、Cは四位〕、⑥288松平確堂(元美作津山藩主) 養女八百子(やお)〔Aは三位、Bは首位、Cは首位〕、⑦森 有祐〔Aは十位、Bは十六位、Cは九位〕の七事例存し、これらの事例中、A・B・C三者のうち、孰れか両者、あるいは、それら三者のすべてが、より上位たる首位以下十位までを占めるのは、実に②198デイクソン、ウィリアム、G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師)、④218中原国三郎(銀行家)、⑤277ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L. (クララ令母〈愛称ペティ、ラヴィ〉)、⑥288松平確堂(元美作津山藩主) 養女八百子(やお)、⑦314森 有祐の五事例存し、さらにこれら五事例のうち、A・B・C三者各々の卓越順次のすべてが上位三位以上を占めるのは、独り⑥288松平確堂(元美作津山藩主) 養女八百子(やお)の一事例存するのみ、ということになる。これによつて、上述したようにBの卓越順次において一般的に認められる記載上の通則性にそぐわぬ、極めて特異な存在としての事例⑥288松平確堂(元美作津山藩主) 養女八百子(やお)をして、そうした当該事例に独有ともいふべき特異性こそが、結果的にCの卓越順次において首位の座を占めさせている、と理會しうるのである。

それでは、そうしたCの卓越順次において上位を占める事例中、ここでは、特に首位より四位までを占める四事例に限り、これらの事例人物の各々について、『日記』の記主たるクララとの関わり合いの上から若干述べておこう。

首位事例人物²⁸⁸松平確堂（元美作津山藩主）養女八百子（やお）……当該事例人物についての記述としては、

例えば、『お逸は美しい着物を着ていても、やぼったくけばけばしいが、おやおさんは完全な貴婦人に見え（動作も貴婦人のようで）、態度振る舞いに品位がある。私はこの生徒にますます惹きつけられていく。』（明治9・¹²25条）とあり、『お

やおさんは優雅な若い婦人に成長していくし、お逸は友人として、まったくすばらしい。』（明治10・¹1210条）とあり、あるい

は『お逸は一目見ただけでとてもきれいだと思うが、おやおさんは愛らしく、だんだん美しさが増してくる。』

（明治10・⁴1410条）などとあるように、やおは、後に触れるお逸とよく対比されて同『日記』に登場することが多い。また、こ

のやおは、『本当によい声』（明治9・¹¹11条）で『柔らか』（明治10・¹²2410条）くて『美しい声』（明治11・²1711条）の持主であるとともに『生

き生きと話』（明治12・¹¹2112条）すこともできた、ともある。

抑、このやおこと八百子は、出雲松江藩主松平定安を父にもち、婚約者たる松平康倫（徳川第十一代将軍家齊^{十四男}齊民（確堂）四男）逝去後

は、その実弟（齊民^{五男}）たる松平康民に嫁した女性である。こうした出自・家系を負う八百子は、多分にそれに由来する

貞淑恭謙・溫柔優雅・容姿端麗などといった女性としての美質を具備していた。これに加えて彼女には明聡英資の閃

きもあり、また旺盛な勉強意欲や向上心をも併せ持っていた。八百子が箕作秋坪に伴なわれて初めてクララの許を訪

れたのは、明治九（一八七六）年二月十六日のことであった。時に彼女は十三歳（『日記』に十一歳とあるのは十三歳の謬り）、これからの師

と仰ぐべきクララには三歳年少のあえかなあどけない少女であった。爾来、八百子は英語の学修を主目的としてクラ

ラの許へ通い、『最初に私たちのところへ来た時には、英語を全然知らなかったのに、私が教え始めてからどんどん上

達して』(明治12・2410条)、一年もするや『三浦夫人と優雅に応対し、落ち着きはらつて通訳し』(明治8・2210条)たり、『何年も勉強してきた大勢の学生にひけを取らない手紙が書ける』(明治12・2410条)程までに進歩したので、これを教えるクララも、クララの母までも大得意になったといい、八百子はクララを『親愛なる我が師』(同上)と呼ぶのに対し、クララは、この『親愛なる我が生徒』(同上)を誇りに思うと叙べている。教師としてのクララからみた八百子は、実に誇れる生徒であり、これに加えて上述したような多くの美質に恵まれた類稀な女性であつた。それ故に師のクララは、己が親愛する生徒八百子に殊のほか関心をもつて彼女の性格・性情・言説・挙措などといった、その人と為りを表わし示す事柄の多くを、しかも仔細に亘つて『日記』に書き留めるに至つた、と考えられるのである。

二位事例人物71勝 安芳(海舟・安房守) 三女逸子(お逸)・・・当該事例人物、すなわち逸子のこと『日記』に初見されるのは、明治九年二月九日条であるが、当日、クララは、その母アンナ、妹アデイ、富田夫人の三名とともに、赤坂氷川町の勝氏の邸宅を訪れ、そこで勝夫人たみ、長女(内田)夢(ゆめ)、次女(疋田)孝子、三女逸子らに会つた。この時の逸子の印象を記して『本当にきれいで十八歳(クララと同じ十六歳の謬り)』というが、とても若く見える。(同日)とあるのが逸子についての初出記事である。爾後、彼女については『日記』に頻見され、例えば、『勝夫人は、二人の「子猫」を連れて来られた。勝 逸(海舟の三女、クララと同年齢)嬢はとてもきれいで、美しい着物を着ていた。』(明治5・10条)とあり、『勝家のお逸が五時に来て九時までいたが、とても楽しかった。私と同じ年で、英語を習っている。二人で散歩に出て、蟹を取りに海軍操練場の構内に行った。家に帰ってから縁側に出て月を見たが、お逸は私に腕を回して、「あなた好きよ」と言った。美人で活発な人である。』(明治7・5条)とあり、『勝家のお逸が今日十二時に来た。すばらしい着物を着て、口紅をこつてりと塗り、顔にお化粧をしていた。昼食のあと二人でアイスクリームを作つたが、お逸は大きなエプロンを掛けて手伝つた。かわいい優しい少女で、私は同国人の友達のように大好きだ。

お逸が英語をしゃべれるか、私が日本語をしゃべれるかしたらいいのにとつくづく思う。でも二人は片言同士でなんとかうまくやっているのだ。丸顔で日本人にしては大きいはずらっぱい黒い目をした美少女で、十六歳だが日本では若い淑女なので、結婚の申し込みがたくさんある。でも結婚などしてはいけない！〈もしできたら〉アメリカへ連れて帰りたい。近いうちに泊まりに来ることになっているが、本当に大好きだ！』(明治9・8・24条)とあり、『お逸と、赤ちゃんと小さい坊ちゃんを連れとお姉様は一日中いらっしやった。私はお逸と着物を取り替えたりして楽しく過ごした。会うごとにお逸が好きになる。十六歳の少女としてはこの上なく感じがよく、またしとやかである。もしお父様が許してくださいれば、水曜日に泊まりに来ることになった。雄々しいサムライが誰も、お逸と結婚しに現われることのないよう望むのみである。』(明治9・9・28条)とあり、『八時半にお逸が来て、九時半に家を出た。(中略)横浜は活気にあふれ、人々で賑わっていた。まず二、三個所をまわってから、軽食をしにホテルへ行った。みんな私たち、とりわけお逸をじろじろ見た。お逸はとてもきれいなうえに美しい着物を着ていて、横浜乙女とは違っていたからである。』(明治9・11・22条)とあり、『またクリスマスがやって来た！(中略)二時に、富田夫人が手伝いに来てくださり、三時までにはすつかり準備が整った。勝家のお嬢さんが、とてもすてきな贈り物をたくさん持って最初に来たが晴着を着て唇を赤く塗り、顔にお化粧をしてきれいだった。お逸はお逸なりに美しい。』(明治9・12・25条)とあり、『お逸は朝からうちに来ていたが、天気が悪いので泊まって行った。(中略)二人で母の部屋の大きなベッドにいつしよに寝た。夕方はゲームをして過ごし、十時に二階に上がったが、お逸は寝巻きを持って来なかつたので、私の化粧着を着て寝た。日本の枕があつたが、お逸は使わなかつた。とてもいい人で大好きだが、大変悲しいことに異教徒で、狐の話だのお化けだのを信じ、雲の中に大きな竜がいて雨を降らせるのだなどと言う。』(明治9・3・21条)とあり、『お逸は一目見ただけでとてもきれいだと思うが

『(下略)』(明治10・4・14条)とあり、『メリークリスマス(中略)大久保氏はお客様の相手をしてくださったが、なんとなくお

逸に一番関心がおありのようだった。お逸はきれいだし、いい人だからそれも不思議はないが。』(明治10・12・2410条)とあり、

『私はお逸が大好きだから、母が日本を離れる話をする私は悲しくなる。』(明治11・3・25条)とあり、『ひどい風邪をどこか

でひいてしまって、一日中寝ていた。(中略)勝夫人が来られて、寝ているといってお叱言を頂戴した。お逸が長いこ

と話をして行つた。ほんとうに良い人で、私はこれほど親しい友達はかつて持ったことがない。彼女は少女でもあり

淑女でもあつて、勝安房守の令嬢にふさわしい人である。』(明治11・12・1611条)とあり、『十時にお逸とマレイ夫人を訪ねた。

(中略)マレイ夫人はお逸の来訪を大変喜び、専ら彼女に話しかけた。といつても私が全部ひきとつて彼女の代わりに

返事をしたのだが。(中略)お逸はきれいな着物を着てとてもかわいく見え、みんなからちやほやされた。』(明治12・1・2012条)

とあり、『お逸ともお別れをしたが、涙にむせてほとんど何も言えないので、彼女を抱くようにして、「さようなら、

最愛の友よ、神の祝福がありますように」とだけ言つた。お逸も目にいっぱい涙をうかべて私にキスをし「ああクラ

ラさん、これが最後なのかしら」というと、こたつに顔をうずめてしまった。私は悲しさのあまりお逸をそのままに

して飛び出してしまった。私たちはふたたび会うことがあるだろうか?』(明治13・1・2413条)とあり、そして『勝家では、私た

ちがもとの家に戻ることを望んでおり、今、その家に洋間を増築中だ。(中略)逸さんは結婚してからいろいろ気を遣

わなければならぬことがあるので、いかにも奥様らしく、しとやかになつたが、昔と同じ愉快な娘である。先日赤

ちゃんのりよ(長女)をつれて訪ねて来た。』(明治15・11・2515条)などであるのがそれである。

これら一連の記事から、逸子はクララと同年齢(両者はともに一八六〇年八月に出生し、両者の)で、とても可愛くて心優し

く、日本人にしては大きな悪戯っぽい黒い目をした美少女で、素晴らしく美しい着物を身に纏い、口紅をこつてりと

塗り、顔に厚化粧を施すこともままあつたこと。それに逸子は、その人柄が良く淑女であり、また活発で愉快的な女性

でもあったこと。逸子は、クララからみて本当に好感がもて、これほど親しみの持てる友達はいくらもなかつた程で、クララにとって逸子は、気が置けなく頼り甲斐があつて友誼に厚い最愛の友人であつたこと、などが充分に読み取れよう。そしてこうした逸子を含めた勝家の人々は、『とても親切で』(明治16・1・9条)、『皆思いやりがあつて、友情が厚く本当にありがたい』(同上 1・9条) ことだと、クララは、謝意を万腔に籠めて、その感懐を『日記』に書き綴っている。

ところで、こうした逸子とクララの肝胆相照らす間柄は、それら両者が、頻繁、且つ親密に交流を累ね、各々が各々の人と為りを充分に理解して、互に認め許し合えることが可能になつて始めて成しえられた、と考量されよう。それには彼女らが単に町中で出会つたり、ともに名所・旧蹟や行樂地に出かけたりすることにどまらず、互いに各々の家を訪うことも度々に亘り、当事者同士は固より、その背後に、当事者各々をも含めた真情の籠つた勝・ホイットニー両家の所謂家族ぐるみの付き合いがあり、時には逸子がクララの家へ、またはこれとは逆に、クララが逸子の家へ各々出かけて宿泊することもあつた。例えば、

昨日も今日も私はお逸のところへ遊びに行った。お逸を訪問する時には戸口に行つて、うやうやしく「ゴメンナサイマシ」あるいは「才頼ミ申シマス」と言つて、誰かが中からお入りくださいと言ふのを待つ。昨日行つた時は高木氏が居間におられたので、お逸について、コタツの切つてある部屋の一つに通された。家の中を縦断している廊下を笑つたりしゃべつたりしながら通つている時に、私たちは急に立ちすくんだ。角を曲がつた所で紺の着物をお召しになり、手には金粉をつけた漆塗りの文箱を持った勝氏ご自身にばつたり出会つたのである。私はこんな所で勝氏に会つてきまりが悪く、はつとして、深く頭を下げ、「失礼いたしました」と小声で言つて、道をあけた。勝氏はちよつと足を止め、につこりして、「すっかり日本人におなりですな」と言つて通り過ぎて行かれた。部屋に着いた時にはこの冒険に私は息を切らしていた。お逸でさえ、こんな時刻に父上がそこにおられたの

にびっくりしていた。(明治112・111条)

とあり、

勝氏のところに泊まりとても楽しい時を過ごした。お逸とこまつと私はトノサマが所要でいらっしやらなかった
ので、お部屋を使わせていただいた。ほかの人たちは風呂に行ったが、私はきれいになりすぎるのはこわい、と
勝夫人に言つて(彼女はおかしがった)、早く寝たが、高くて固い枕のため眠れない。ほかの人たちが寝たのを
見すまし、「煉瓦」を外してかわりに自分の服を枕にした。(中略)トノサマの洗面所を使わせていただき、勝氏
がご尊顔をお洗いになる真鍮の洗面器で顔を洗つた。ウィリイが教える時使つていた部屋に通され、そこには火
があかあかと燃えていた。(明治1813・111条)

とある条などは、そうしたことを示す一例である。これらはクララが逸子の家を訪れた場合で、特に前条には、訪問
に際しての訪問者クララの挨拶の仕方などの礼儀作法や、クララと逸子の談笑の他、全く思いがけずに廊下でクララ
がその屋の主人勝氏とぼったり出会つてしまつた時、息を切らす程に驚愕してしまつたこと、その折、クララが勝氏
から気さくに言葉を掛けられたこと、等々が記されている。また、後条には、クララが逸子の家に宿泊して楽しい時
を過ごしたこと、折しも勝氏が不在であつたので、同氏の部屋を使用させて貰つたこと、クララは、日本の枕ではな
かなか寝付かれずに、自分の服を枕にして就寝したこと、クララが勝氏の洗面所を使用させて貰い、同氏使用の真鍮
の洗面器で洗顔したこと、などが録されている。特にこの後条からは、物事に対する旺盛な好奇心と、童心のような
茶目気振りとが絢交ぜになつたクララの性情や心理状態やが窺い知られて興味深いものがある。

このように逸子は、クララにとって本当に信頼ができ、真に心を許すことのできた最良にして最愛の友人であつた。
そして明治十六年二月二日条に、

勝夫人は魚を母のために調理して届けてくださった。ヤシキの人たちはこの上なく親切だ。私たちは家族の一員のように扱っていただいて感激している。実際勝家には私のことを姉妹とみなし、母のことを母親のように思っている人が二人いる。すべてありがたいことだが、私たちはこの方たちが皆「我が父」の家族に加えられる日を待ちのぞんでいる。

云々とあるように、クララを始めその家族の人々も、逸子を含めた勝家の人々と確乎たる信頼と醇乎たる情誼に基拠した身内同様の付き合いをしていたのである。延いてはこれが、クララやその家族の人々に、より多くの名流人士の知遇を忝くせしめることとなった。さらにこれによつて『日記』に許多の著名人士の名が登場し、また、そうした人々との多様な交際の様子も記述されることとなつて、その記事内容をより豊富にして精彩あるものとする主要な一因を成しているのである。

三位事例人物²¹⁸ 中原国三郎（銀行家）・・・当該事例人物、すなわち中原国三郎が『日記』に所見されるのは、明治八年八月二十九日条から同十二年一月二日条までの約三年四ヶ月間程であり、そのうち初見記事たる同八年八月二十九日条から『中原氏がクゲ（公卿）のお嬢さんと結婚して今日横浜へ引越す』云々とある同十年一月十八日条の記事までの約一年五ヶ月間に、その名が頻見される（件の記事を境目にして、それ以前の一年五ヶ月間には五十六頁（一ヶ月当り平均約三・三頁分）、それ以後の一年十一ヶ月間には五頁（一ヶ月当り平均約〇・二頁分）に各々所見され、以前における方が、以後における）。つまり、『日記』にみられる中原国三郎についての記事は、彼の結婚を契機として、その前後では著しく所見頻度を異にしているのである。これは、『日記』の記主たるクララ自身が、その男性の結婚について、これを重く受けとめていたことを示しているよう。確かにクララは、中原国三郎なる人物と親しく交際を累ねるにつれ、彼に対して次第に強い関心をもち、或る種の特別な感情を抱いていくようになった。さらに言えば、彼を異性の対象として意識し、彼に憧憬の眼差しを以て接していくようになった。クララをしてそうせ

しめた彼の人と為りや、それについてのクララ自身の感懐を伝える幾ヶ条かの記事からみてみるに、先ず、上記の初出記事に『きのう、若い日本人の中原（国三郎）氏が訪ねて来たが、三年ぐらい前アメリカでうちに来たことのある方だ。お互いに、また会えてとてもうれしかった。とても感じのよい青年で、私の先生になって欲しいと思う。』とあり、爾後、例えば、『中原氏は四年以上もアメリカに行っていたので、とても上手に英語を話す。幾分小柄で、ほっそりしていて、私より頭の半分ぐらい背が高い。容貌も悪くなく、誰にでも優しく丁寧に振る舞う気持ちのよい方である。私たちがアメリカにいた時、訪ねて来たことがある。』（明治8・8・30条）とあり、『中原氏は実によくおいでになるが気持ちのよい方だ。手足はちょうど私と同じぐらいの大きさだが、その手足も、一見重荷に見えるほど、きゃしゃで小柄である。（中略）二十歳ぐらいのかわいい小さな人で、私は中原氏のことをとてもよく考える。（中略）五年間アメリカにいたクリスチャンでもある。私が中原氏を好きなのは、中原氏が私より二インチぐらいしか背が高くないからだ。』（明治8・9・30条）とあり、『アメリカの青年のような感じの方だ。』（明治8・12・14条）とあり、『中原氏は傘を持ってくださった、何かにつけ紳士らしく、本当に慇懃だった。天性の礼儀正しさが外国風のたしなみで強められ洗練されて、すっかり身につけている。外国に行ったことのある日本人の中でもずば抜けてすばらしい英語を話すし、また外国の習慣や作法を实によく知っているので、会話になんの不便も感じない。（中略）たくさんの礼儀作法の細かい点を心得ていて大変気持ちが良い。』（明治8・12・17条）とあり、『中原氏はこのかなりむずかしい遊び（羽根つき遊びのこと―引用者補）の達人で、ダンスをしている時と同様、とても優美に冷静に、少しもあわてたり興奮したりせずにする。』（明治8・12・25条）とあり、『中原氏は、銀座にいたる間中ずつと付き添って、私がみかんや革紐（へい）や石筆を買うのをまったく紳士らしく優雅な態度で手伝い、それから家まで送ってくださった。』（明治9・2・6条）とあり、『中原氏は、何度も何度も私の写真をくれと頼んだ。前に私があげると約束したと言って手を合わせ、一枚でいいからと懇願しながら私のあとを追いまわした。そんなことをしても

らいたくない日本人もいるが、中原氏はアメリカにも長くいたことのあるとても親切な方だから、これは冗談だとわかつていいる。』(明治9・26条)とあり、『中原氏はいつもここにこしていいる。決していら立ったり、癩癩を起したり、人をばかにしたりすることはなくて、いつも笑みを浮かべていいる。』(明治9・5・13条)とあり、『中原氏は、私が会った日本人の中で一番完璧な紳士である。』(同上)とあり、『中原氏といっしょにいいると、中原氏が日本人だということをいつも忘れてしまふ。いっしょにいて、そんなに気楽に感じる日本人はほかにいいない。気持ちよく、紳士的で、人をくつろいだ気分になさせてくれる。中原氏は一体どこでその外国式礼儀と洗練された紳士的態度を身につけたのかしらとよく思うが、アメリカ人に聞くより本人に聞いたほうが早いだろう。』(明治9・18・19条)などとある。これらに拠つてみるに、中原国三郎が日本へ帰還して初めてクララの家を訪問したのは、クララが訪日した明治八年八月三日から数えて二十五日目の同月二十八日のことである。実は、この年より三年程前に、中原は既にアメリカで上杉茂憲らと一緒にクララの家を訪ねたことがあったので、クララにしても、日本での中原との再会を非常に喜ぶとともに、その好感の持つる人と為りに接して『とても感じのよい青年で、私の先生になつて欲しいと思う。』(既掲条)と記していいるのである。

このように中原は、略々五年程アメリカに居住していたので、外国の習慣や礼儀作法の細かい点までをも能く体得していいるとともに、殊の外、英語に堪能で、その上、誰に対しても親切で優しく、しかも丁寧な振る舞う心根の良さを持ち、何かにつけて紳士らしく、その立ち居振る舞いは、優雅にして慇懃であつた。然るが故に、生得的ともみられる程の、そうした礼儀正しさが外国風の嗜みでより一層洗練されて、それがすっかり身に付いていいる。糺てて加えて彼は、常時微笑みを湛えていて、決して苛立ったり、癩癩を起したり、人を侮蔑したりするようなことがなかつたので、彼と一緒にいいると、彼が日本人であるということを何時も忘失してしまひ、一緒にいて彼程気楽さを感じさせる日本人はいない、とクララはいいう。これがアメリカ帰りの中原なる男性と交際して一年を閲した頃迄のクララの、

彼についての見方ないし評価なのである。

ところで、こうしてクララにその人と為りを高く評価させ、執心させてきた中原が、予てより幾人かの人々によって囁かれていた噂の通り、事の経緯や事情の一切を何らクララに伝えることなしに、或る「クゲ」（公卿）の令嬢と結婚して東京を離れ、横浜にその居住地を移すことになった。畢竟するに、クララは中原に欺かれた格好で、それまでのような二人の関係は、終局を迎えることになり、これで、クララの中原への希望と期待を籠めた胸躍らせる熱い思いは、雲散霧消して了うことになった。無論、これによってクララは、尠なからず氣落ちして、悔しき、淋しさの絢交ぜになった名状し難い遺瀨ない思いを嚙締めたことであろう。このことは、『昼食の直後に、中原氏が訪ねて来た。奥様と横浜に引越したところだ。前とほとんど変わらないが、ただ一段と落ち着きを増したようだ。もう私といっしよに桃の木の下を歩いたり、私のために肩掛けや傘を持ってくださることもないだろう。ああ残念！残念!!もういっしよに星空の夏の夜に、うちの踏み段に腰を掛けたり、絵のような茶屋の庭を散歩し、丸木橋を渡り、人工のアーチの下をくぐったりもしてくださらないだろう。そう、腕によりすがる人が別にできたのだもの。でも気にしない、気にしない。』(明治1410・2・1410条)云々とある記事からも充分に窺い得られよう。併し乍ら、それによってクララは、たとえ悵然として肩を落すというようなことはあつても、どうにもならぬ程の精神的外傷を蒙るようなことはなかつたであろう。というのは、それまで中原が、クララに対し親切で礼儀正しく紳士の振る舞いをして好感を持たせておいて、さらにクララを追い掛け廻すようなことまでして、その写真を幾度も所望した上、彼女に自分の母や妹(それが実の妹か否かは疑問、クララの令母アンナ、L.は流石に慧眼鋭く、夙に、中原の言う妹とは、彼の妻のことで、彼はアブラハムの役割を演じているのではないか、と疑っていた。)までを引き合わせて、自分に対する関心を弥増しさせておきながら、そうした矢先に、クララ周辺の人々の間から、中原は既に婚約をした、あるいは結婚をしたというような噂が流れるようになった。それを聞知したクララは、その真偽の程を中原に率直に聞き質した攸、

『中原氏は怒らず、それを面白い冗談として受け取め、「多くの青年が奥さんを探しまわっていますから、男がある年齢になると疑われるのですね。ただどあなたはそんなことを信じないでください。私は一生独身でいるつもりですから、そんなことはしませんよ!」と言った。私が考えていたのとは違って、驚きもせず、顔色も変えず、震えもしないで、私をまつすぐに見ながら、大胆に機嫌よく笑った。』(明治9・5・30条)云々とあるように、彼は、怒らず、驚きもせず、顔色も変えず、震えもしないで、クララを直視して、大胆にも機嫌よく笑っていたという。こうした経緯があつて、此度のような仕儀となつたことで、クララには或る程度の覚悟ができていて、「やはりそうであつたのか」との思いもあつて、これが、上述したようにクララに対する信義に悖るような中原の所為、すなわちその結婚をクララが知つた時の、その心の動揺を幾分なりとも鎮め和らげる作用をしたのではなかつたか、と思料されるからである。また、それに先立つて、クララが中原と精養軒に出かけ、そこに酒気を帯びた一人の異邦人がいて、この異邦人がクララの座る『椅子の背に手を置き、それから私の膝の上に手を滑らせて、私の手を握ろうとした』(明治9・5・13条) というような無礼な振る舞いに出た時に、傍らにいた中原は、『人をそらさぬ、口先だけのようない態度で』(同上) 、ただ拱手傍観するのみで、その無礼者に対し、『非難や怒りの言葉を一言も発することがなかつたという』(同上) 。而してこのことについてクララは、『中原氏はいつもここにこしている。(中略) しかし「何事にも潮時というものがある」のだから、ここにこもいい加減飽きが来る。』(同上) と言ひ、その酒気を帯びた無礼者が『がっしりとした体格の人だったから、中原氏はこわかつたのだ。』(同上) として、『中原氏は、私が合つた日本人の中で一番完璧な紳士』(同上) ではないが、『婦人に対する本当の騎士道精神(日本人にはあまりにも欠けているもの)を学んではいけないのだ。』(同上) とも述べている。こうした一件があつたことを併考してみるのも、強ち徒爾ではなからうと思う。

中原なる人物の品隲如何については別にして、件の人物は、確かにクララにとって、その夢多き多感な青春時代に

逢遇した日本人男性の中で最も完璧な紳士であり、しかもクララが異性を意識して真剣に交際を累ねた男性でもあって、クララの心に容易に忘れ難い多種多様の思い出を遺した人物であった。

四位事例人物²⁷⁷ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L. (クララ令母(愛称ペティ、ラヴィ))・・・当該事例人物、すなわちクララ令母のアンナ、L. は、明治十六(一八八三)年四月十七日に四十九歳を一期として、その波瀾に富んだ生涯を閉じた。それは正しくキリスト教の伝道布教活動に挺身した生涯であった。このアンナ、L. の最期を記す同年四月三十日条に『母は私たち二人は一体だとよく言っていた。私が自分の一部であると感じていた。どんなにか私は母を愛し、母は私を愛していたことか！いっしょにいる時はいつも楽しみを分かち合った。母に会うこともなく、何も話すこともなく、これから長い年月を過ごさなければならぬとは！何か楽しいことがあった時、誰かいい人が来た時、何か面白いことを聞いた時には、母にまつ先に話し、喜びを分かち合った。母は私たちのために計画をたて、実行した。現世のこと、宗教上のことについて、母は私たちの先達であり、天国への導き手であり、モーゼであり、私たちのすべてであった。私たち四人はいつもいっしょで、幸福であった。同じ精神と心を持ち、目的も考え方もみんな同じであった。円満で、とても幸せであった。私たちの家族はこの地上の小さな楽園にいるようであった。そして皆で、手に手を取り合って、天国に行こうとしていた。』とあり、その葬儀と塋域青山への埋葬とを済ませた後の、翌五月八日条に『私の生活に関係するあらゆること、家のこと、読書、書きもの、教えること、そして私の考えまでもがすべて、私の大切な母の考えとからみ合い、母は私の生活から絶対に消えることはありえないのだ。私は母を失ったようには感じない。というのは、母がまだそのままここにいるかのように母のおだやかな影響がつづいていて、私はただ、もう、母の望んでいることを注意深く行なっているからだ。ほかの皆もそうだ。アディはもちろん私ほどには感じてはいない、私より年も若いし、私ほど母と交渉をもたなかったから。しかしウィリイは――

——ああかわいそうに——、母を偶像視していたほどだし、母にとっては息子以上のものであったから、母の生涯のすばらしい影響を、はつきりと感じとっているように思われる。ウィリイは母の部屋の中のもの、何一つ変えることを許さないだろう。そこは私たちにとって今や一種の聖域なのだ。でもウィリイはそこにいと天国を一層近くに感ずるからそこで眠るのだと言っている。そして本当にそうなのだ。この神の国の入口は、母がそこで神に捧げた熱心な祈りによって聖め^{きよ}められた。私はそこで母と、二人だけで過ごした朝をよく記憶している。いっしょにお祈りをするほうが祈りがすぐになえられるようだと母はよく言っていた。』とあり、そして同月十六日条に『私は母の人生をうけつぎ、母が歩んだように進んでゆく。私の命は母のもの、母の命は神のもの。あらゆる状況のもとでいかに処すべきか決めるのはとてもむずかしいことであるが、母はいつも立派にやりとげていた。その点で私は母を慕わしく思うことがしばしばである。母は真の威厳をもち、あらゆる点で尊敬を勝ち得ていた』云々、などとある記述に拠ってみても、件のアンナ、L.と、その子息・子女たち、すなわち、クララ及びその兄ウィリイ、妹アデイたちとが各々如何に深い愛情と確かな信頼の絆で結ばれていたかを能く理會しえよう。取り分け、そうしたアンナ、L.の最期を叙述する上記四月三十日条は、『一生懸命に思い出して書き留めておこう』(同日)との熱い思い入れを以て物されているだけに、同『日記』の一日条の記述としては、記載分量の長さの点において、全く他条の追隨を許さぬものとなっていること、既述した通りである。また、当該条は、その記載内容の性格面において、アンナ、L.の最期の瞬間に至るまでの、推移変転の様相が傷悲悲愴の情感を筆端に籠めて微に入り細を穿って記述されているだけに、そこから、クララの兄妹たちは固よりのこと、勝家の人々を始めとする、故アンナ、L.とその生前交誼を厚くしていた諸多の人々が、或いは茫然自失して去就に迷い、或いは慟哭して惆悵する様相が惆々然とした色調を帯びて痛切に伝わってくるし、さらにまた、記主クララの卓絶した筆力も多分に与って悲痛惨嗟の叫びさえ聞こえてくるような、

実にリアリステイックで迫真性に富んだ出色の記事となっている。

ところで、アンナ、L.と、その子息・子女たち、中に就き、クララとの様々な面での親密な結びつきについて、これを具象的に述べるならば、例えば、娘の勉強面・教育面については、『また母と勉強を始めた。ラバートンの『歴史概要』を読むことにしたが、とても面白い。それから綴字法と文の書き方も習っている。いろいろの方面で私の教育に時間をさいてくれるなんて、本当に優しいいい母親だ。こんなに大事にしてもらい、あまり幸せ過ぎるとだめな人間になってしまわないかしら。』(明治9・6・13条)とあり、『私はまた勉強を始めた。哲学、綴字法、ラテン語、文法、文学、それからフランス語。母は私の勉強をとてよくみてくれる。本当にうれしい。母は元気だし、私には大好きな勉強があるし、訪ねて話し合うことのできるすばらしい少女たちはいるし、それから何よりも、神様と親しくして、それが私の喜びをますます強いものにしてくれる。』(明治10・1・25条)とあって、母子共々学ぶこともあって、母は娘の勉強面・教育面での進歩向上を冀願し、或いはそれを期待して、大いに理解を示し、助成している。また、こうしたことに関連して、クララは、生来勉強好きで、何事に対しても旺盛な好奇心を示し、興味や関心を抱くものには、殊のほか情熱を傾けて一途に打込む性格の持主でもあった。加えてクララは、卓絶した記憶力に恵まれていたこともあって、言語に対しても尋常ならざる興味と関心をもち、訪日後、幾許も経ぬうちに、日本語の会話に慣れ親しみ、かなりの程度の上達を遂げて屢々母アンナ、L.の通訳をして、その活動を助けていた。『今朝、朝食直後にダグラス夫人がみえたので驚いた。母にいっしょに開拓使に行つて欲しいというのだが、通訳役の私が午前には行けないので、お昼まで待つていただいて、そのあとすぐに出かけた。(中略)きのう吉沢氏がうちにみえたので、今日は行かないつもりだったが、役所に着くと、お世辞の多い役人たちにすぐ見つかつてしまった。花を買いに花畑へ行つたが、ダグラス夫人の態度はひどかった。何かいやな臭いでもするかのようになり、鼻を上に向けて歩きまわり、思いつけばどんな

不愉快なことでも私に通訳させようとした。訳すのは構わないが、たとえどんな相手にでも乱暴な言葉を使うのは、私は大嫌いだ。』(明治10・8・7条)とあり、『私たちは招魂祭のお祭を見に成瀬氏のお父様(旧幕臣、川村順次郎)のところ招かれていた。茶問屋であるそのご老人の家に行くには行ったが、日本に来て以来初めて見るような汚い家だった。誰も英語を話す人がいなくて、母の言うことを私が通訳する破目になり、訳が下手であったことは間違いない。母は、早くきり上げて帰る口実として、新しい使用人に留守番をさせて出て来たが、その男は悪い人間かもしれないから、長く家を空けておけないと言つてちようだいと言つた。私はちゃんと訳したつもりだったが、ご老人はすっかり腹を立てた様子で、「私は悪い人間ではない。こわがることはない」と言つた。彼が悪者で、私たちは彼といつしよに出かけるのがこわい、と私が言つたのかと思つたらしかつた。しかしこの誤解はすぐに解けて、私たちはいつしよに出かけた。』(明治10・11・1910条)とあり、『食後ド・ボワンヴィル夫人のおうちへ行きたかつたのだが、杉田夫人がみえたので、母の通訳をするために出かけるのをやめた。杉田夫人がお帰りになる時に、方向が同じだつたから私もいつしよに出かけた。ヤマト屋敷まで楽しくおしゃべりしながら行つた。』(明治11・1・28条)とあり、『今朝お祈りをしている時に三浦夫人がみえて、ゆつくりして行かれた。私は朝のお祈りを毎日きちんとするように努めているのだが、今日は中断してお客様の相手をしたり、通訳をしたりしなければならなかつた。』(明治11・2・7条)とあり、『高木(貞作)氏と疋田氏がみえた。それから玄亀がアデイと遊びに来た。みんなが引き上げたあと、母といつしよに東京知事の楠本氏を訪ねて、ご親切にしていたいただいたお礼を申し上げた。前からそうするようにと富田氏にたびたび言われていたのだ。それに私たちは楠本氏に招待されていた。そこで我々二人の勇猛果敢なアメリカ女性が、虎穴に入つていつたわけである。しかし名刺を渡して待つていている間に、私の勇敢な魂もいささか自信を失いかけた。ところが立派な身なりの知事のご自分で、戸のところまで迎えに出て来られたので、心配は一度に吹き飛んでしまった。(中略)おきまりの挨拶のあとで、父のこ

とや私たちの現状について、いろいろお尋ねになり、私が一つ一つはつきりお答えした。どんな家に住んでいるのかとお聞きになったのに対して、私が長屋と答えると、彼の顔色がさつと変わり、明らかに不快の様子だった。そのあと、近く食事にお招きしたい、いずれ手紙を差しあげます、と言われた。通訳がいなかったので、私が全部通訳をした。格式ばった漢語をたくさんお使いになった——これがお役人のことばであり、上流人のことばなのだ。私はそのむずかしいことばがわかるにはわかるが、自分ではほとんど使えない。私の使うことばはサムライのことばで、丁寧であり、平民というか町人というか、そういう人たちのことばよりも上等である。上流の女性は皆このことばを用いる。やがて雑談のあと、小さい贈り物を差しあげておいとまをした。知事は同じような丁重な身のこなしで、人力車のところまで送つて来てくださった。』(明治11・15条)⁷とあり、『午後は母のためにお使いにいくか、通訳するためにいっしよに出かけるかしなければならぬので、書きものをしたり勉強したりする時間がない。特に夜は明かりがよくないため早く床に就くので、勉強も読書もあまりできない。』(明治11・12条)¹⁰とあり、『午後柳谷夫人がみえて、日本語を話せないアメリカ人のところへ挨拶に行くのに、私について来てほしいということだったが、私は母について行って、通訳することになっていたのでお断わりした。』(明治11・22条)¹¹とあり、『今日は一日中大変忙しかった。朝食がすむとすぐ、母がシュウや田中に用事を言いつけるのを通訳するのに十時までかかった。それがすむと梅太郎の勉強をみたが、よくできていた。』(明治12・18条)⁴などとある記事が、そうしたことを具体的に語り示すものである。さらに、母アナン、L.は、親としてその娘クララに様々な助言や忠告をしたり、あるいは監督指導したり、あるいは説諭教訓したり、あるいは厳しく叱責したりするといった所謂規律面については、『今日、お逸のお姉様、疋田夫人(孝子)がおみえになるといので、準備を始めた。実は私は、もっと几帳面になりなさいと母に言われたので、あまり機嫌がよくなく、パイを作りながら少しふてくされてきた。お逸が最初にやって来て、二人で富田夫人のいた部屋に行ったら、

母がそこにいた。ケーキを見に行かなくてはと思い、台所に着いた途端に、郵便屋がうちの郵便がいつぱい入った白い袋を二つ持って来たので、私は狂喜して大分騒いでしまった。(中略) 二階へ駆け上がって、この獲物を母に見せると、母も驚くほどご機嫌がよくなった。』(明治9・28条) とあり、『ヴィンダー家のジェニーとガシーが、濃い青と茶のベールをかぶってやって来た。やがてエマとユウメイが現われ、それにスージーを加えて、我らのクラブ、いや協会の会員はそろった。ところで、私たちがしばらくおしゃべりをしていたら、母が、まず仕事を始めて、あとで遊んだほうがいいと言ってくれた。母はいつもの何気ない調子で優しく、私たちを仕事に取りかからせ、あとは自分たちで進めるようにして部屋を出ていった。』(明治10・31条) とあり、そして『最近ウィリイは勝家へ出向かないで、勝家の子供たちがここへ来ることになっている。庭で彼らと遊んでいたら、私宛ての手紙が来た。あけると、「R………」という署名が目に入った。内容は愛情の告白なので、たまげてしまった。私の愛情を求め、私が彼の最初でただ一人の恋人で、ニユーヨークで初めて会った時から好きだったと書いてあった。あまりにもばかげていて、これ以上書き続けることはできない。すぐに母のところを持って行くと、母は侮辱だと怒って手紙を引き裂いた。そして自分が後始末をするから、これ以上気にしなくてもよいと言ったので、私はほっとして、母に見せてよかったと思った。母は彼に出すつもり of 返事を見せてくれたが、次のように書いてあった。「両親の知らないうちに娘と文通を始めたことにより、あなたが尊敬に値しない方だとわかりましたので、今後二度と来訪なさらないでください」母の愛情に守られて、私は本当に安心感が持てる。そして監督し、指導してくれる人がいなかったら私はなんと危険なことだろう。母はウィリイに、私は自分の不注意から、いつかひどい窮地に陥ることがあるかもしれないと言っていた。』(明治10・3条) などあるのが、そうしたことを具象的に語り示す記事である。

このようにクララは、その母アンナ、L.こそが、己のすべてであり、母は威厳に満ち、あらゆる点で尊敬を贏ち

得ていて、こよなく慕わしい存在であり、正にその生き様を己が規範とせねばならぬと深く肝に銘じていたのである。然るが故に、己が母をグラント夫人と比較対照させて殊更に『こんなに容易に元大統領夫人とお話できたことに私は驚いた。だが考えてみればそれほどむずかしいことではないのだ。真のレディは誰とでも対等で、どんな高い身分の人の前でもまごつくことがないのだから。だがグラント將軍夫人が、外見もマナーももう少し洗練されていたらと思わずにはいられない。もつと低い身分の人でも、レディらしく、このような高い地位にぴったりの人はいるものだ（たとえば私のお母さん）。』（明治14・12・7条）と記しもし、また、その敬慕して已まぬ母の一周忌を迎えた日の『日記』に『（明治17・3・23）三晩、私はただ母のことのみを考え夢を見た。私の大切な美しいお母様。母に会いたいと思う心は別離の時間が長くなればなるほど強くなつて行く。おお神様、あなたの大きなお恵みで、私が母に会うにふさわしい人になるまで私を死なせないください。神よ、私のあわれな魂をお救いください。アーメン。』（明治17・4・4条）と、その母への切なる慕情と己が所願を書きつけ、さらにその三年後の四周忌を迎えた当日条に『私自身が母になったので、一層母の気持ちを感じる事ができる。そして母の言った多くのことを今思い出し、多少共感をもち、そしてそれは新しい意味をもって私に迫る。私の母性が私を一層母に近づける。どうぞ私も母と同じくらいよい母親になれるように。そして私の亡きあとと同じように惜しまれますように、神様のお助けを祈ります。』（明治20・4・17条）と、この頃おいに己が最も心に懸けていた憶念と願意を録して、同『日記』執筆の筆筒に蓋することとしたのであった。

こうしてCの卓越順次において上位を占める事例中、特に首位より四位までを占める四事例に限って、これら当該事例288松平確堂（元美作津山藩主）養女八百子（やお）、71勝 安芳（海舟・安房守）三女逸子（お逸）、218中原国三郎（銀行家）、277ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L.（クララ令母（愛称ペティ、ラヴィ））、の四者と

第二表

| | | | | | | | | | | | | | | 分類内訳・員数 | 諸事項目 | | |
|--|-----|-----|-----|-----|-----------------------------|-----|-------------------------|----|----|----|----|--|-----|---------|------|---------|----|
| その他 | | | | | 富田家 | | 勝家 | | | | | ホイットニー家 | | | | 事例番号 | 人名 |
| 五名 | | | | | 二名 | | 五名 | | | | | 四名 | | | | | |
| 288 | 218 | 204 | 198 | 192 | 213 | 212 | 72 | 71 | 69 | 68 | 67 | 279 | 278 | 277 | 276 | | |
| 松平確堂 (元美作津山藩主) 養女八百子 (やお) 《生徒》 | | | | | 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 《厚誼に与った支援者》 | | 勝 安芳 (海舟・安房守) 三男梅太郎 | | | | | ホイットニー、ウィリアム、C. 令嬢アデレイド (アディン) (クララ令妹) | | | | | |
| 中原国三郎 (銀行家) 《異性の友人》 | | | | | 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 《厚誼に与った支援者》 | | 勝 安芳 (海舟・安房守) 夫人たみ | | | | | ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L. (クララ令母 (愛称ペティ、ラヴィン) | | | | | |
| 天皇陛下 (明治天皇) 《天皇》 | | | | | 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 《厚誼に与った支援者》 | | 勝 安芳 (海舟・安房守) 長男小鹿 | | | | | ホイットニー、ウィリアム、C. 令息ウィリイ (クララ令兄) | | | | | |
| デイクソン、ウィリアム、G. (工部大学校 (英語・英文学) 教師) 《異性の友人》 | | | | | 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 《厚誼に与った支援者》 | | 勝 安芳 (海舟・安房守) 三女逸子 (お逸) | | | | | ホイットニー、ウィリアム、C. 令嬢アデレイド (アディン) (クララ令妹) | | | | | |
| 津田 仙 (学農社農学校開設者) 《厚誼に与った支援者》 | | | | | 富田鉄之助 (第二代日銀総裁) 《厚誼に与った支援者》 | | 勝 安芳 (海舟・安房守) | | | | | ホイットニー、ウィリアム、C. 令嬢アデレイド (アディン) (クララ令妹) | | | | | |
| 六八頁 | | | | | 六二頁 | | 七〇頁 | | | | | 二七三頁 | | | | | |
| 一三八頁 | | | | | 一五八頁 | | 二四〇頁 | | | | | 二二八頁 | | | | | |
| 五八頁 | | | | | 六一頁 | | 九九頁 | | | | | 二一〇頁 | | | | | |
| 六二頁 | | | | | 六二頁 | | 七〇頁 | | | | | 二七三頁 | | | | | |
| 八三頁 | | | | | 六二頁 | | 九九頁 | | | | | 二一〇頁 | | | | | |
| 9 | | | | | 13 | | 8 | | | | | 4 | | | | | |
| 15 | | | | | 5 | | 14 | | | | | 2 | | | | | |
| 6 | | | | | 13 | | 11 | | | | | 1 | | | | | |
| 12 | | | | | 13 | | 7 | | | | | 10 | | | | | |
| 所見頁数 | | | | | | | | | | | | | | | | 越数の卓見順次 | |

クララとの関わり合いについて各々瞥見してみるに、クララから観て、事例288は、女性としての多くの美質に恵まれ、最も魅力があつて心惹かれる親愛なる生徒であり、事例71は、本当に信頼でき、真に心を許せる最良にして最愛の女性友人であり、事例218は、デイクソン、ウィリアム、G.（工部大学校〈英語・英文学〉教師）〈事例198〉より前に巡り会つた異性で、夢多き多感な青春時代に逢遇した日本人男性の中で最も完璧な紳士で、異性を意識して真剣に交際を累ねて、忘れ難い幾多の思い出を遺して呉れた人物であり、そして最後の事例277は、威厳に満ち、あらゆる点で尊敬を贏ち得ていて、その生活態度や生き様を己の規範とした敬慕して已まぬ己が母である。第二表に示すように、これらCの卓越順次において上位四位までを占める四名の人物は、所見頁数においても、事例288が九位、事例71が三位、事例218が十三位、そして事例277が首位というように、事例277の首位、事例71の三位以外の、事例288や事例218でも各々かなりの上位を占めていることを認知しうるのである。

さらに同表に拠つて所見頁数の点から、その卓越順次をみてみるに、既に触れておいたように、首位は事例277ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L.（クララ令母〈愛称ペティ、ラヴィ〉）であるが、件の首位から十五位までの十六名（十三位が同数宛の二事）を分類整理してその内訳をみるに、『日記』の記主たるクララの家族合計四名と、勝家の合計五名とを加算すると、それだけで既に全合計数十六名の過半数に達しており、それにまた、これら両家の人々の中に、所見頁数の卓越順次において、首位から四位までの人物が含まれていることを以てみても、それら両家に所属する人々が各々如何に多くの頁数に所見されるかを能く理會しうるのである。さらにその他として、その中には、クララやその家族、すなわちホイットニー家の人々が、様々な形で支援を受け、厚誼に与つた人々として富田鉄之助（第二代日銀総裁）夫妻や、津田 仙（学農社農学校開設者）がおり、クララと交際した異性の友人に、デイク

ソン、ウィリアム、G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師) や中原国三郎(銀行家) がおり、教師クララにとつて最も心惹かれた親愛なる生徒の松平確堂(元美作津山藩主) 養女八百子(やお) がおり、そしてクララが崇敬の念を以てお側近くから仰視したことのある天子、すなわち明治天皇の御名がみられるのである。こうした某人物の、クララの『日記』に所見される頁数上での卓越順次において首位にあるホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L. (クララ令母〈愛称ペティ、ラヴィ〉) 以下、十五位にある明治天皇までの人々を以て同『日記』の主要登場人物と見做して宜しかろうと思う。

六

上来の考察により、クララの『日記』に所見される某人物についての○印数(A)、△印数(B)、○△両印数(C)の各々を精査して、これら(A)(B)(C)の各々における優越順次と性別との相関関係を明らかにするとともに、それら(A)、(B)、(C)の孰れか、若しくは、その総てを有する某人物についての所見頁数をも討究して、同『日記』の記主クララの令母ホイットニー、ウィリアム、C. 夫人アンナ、L. が、そうした所見頁数において最も卓越する人物であることを指摘した。そこで最後に件のクララの令母アンナ、L. と、クララ及びその『日記』との関わり合いを通して、記主クララが、件の『日記』をつけるに至った経緯や、『日記』をつける目途、さらには『日記』をつける効用、等々を闡明して本稿を閉じたく思う。

凡そ、クララが『日記』なるものに興味と関心をもち、それをつけ始めたのは、一体、何時頃のことであつたかというに、同『日記』に『新しい日記帳を始めるたびに、最初の日記帳のことを思い出す。母からそれをもたらした時の喜びと感謝——そしてその純白の頁に字を書くのがもつたいたいなくてしかたがなかつたこと。それ以来、日記をつけ

るのが私の第二の天性になつてしまい、日記をつけないと気持ちが落ち着かない。』(明治1910年) 云々とあり、『今夜日記

を数えて、私が日記をつけ始めてから七年間に、どれだけ紙を浪費したかを計算しようとした。しかし書くことが私の十字架なのだと思ひ直した。日記がなかったら堪えがたく淋しいであろう。』(明治11年) 云々とあり、そして『今日

十五歳になった！十五などと書くと、とても大きくなつたように思われる。本当にずいぶん年を取つたという感じがする。』(明治8年) 云々とあることから、クララがその母アンナから始めて日記帳を貰つた時、すなわち一八七一年(明治四)

年、彼女が十一歳の時ということになる。勿論、これは彼女の訪日以前のことであつた。それでは、この『日

記』をつけ始めた一八七一年から彼女ら一家が訪日した一八七五(明治八)年八月三日までの四ヶ年間における『日

記』の記載分量は如何程であつたかというに、これについては、必ずしも定かにしえないが、上記引用文中にみるように、始めて母から日記帳を貰つた一八七一年(明治四)年以来、「日記をつけるのが私の第二の天性になつてしまい、

日記をつけないと気持ちが悪く落ち着かない」し、『日記』を「書くことが私の十字架なのだと思ひ直した。日記がなかったら堪えがたく淋しいであろう。」と思ひもし、考えもしていたし、それにまた、『私は毎朝早く起きて六時半には勉

強する。苦心さんたんして書いたこの間のエッセーは大判洋紙で十六頁にもなつた。ほんとうにくたびれてしまった。でも書くのは楽しくもあつた。私は勉強するのが楽しいのだ。』(明治11年) とあるように、文章を書いたり、勉強をし

たりするのは「楽しい」ことでもあつた、と記していることなどからみて、明治八(一八七五)年八月三日の訪日以前にあつても、自らの日常生活における身近の諸種様々な出来事や、それらについての自らの所見・見解などを筆ま

めにかなり仔細に亘つて『日記』に書きつけていたであろうことが容易に推察せられるのである。このことは亦、『日記』の記主クララ自身が、自らの記す『日記』について、例えば、『長いことなおざりにしていた日記よ、おいで！忘

また、自らの気持ちを淋しくさせないためでもあり、さらにまた、『いつか将来、困ったことが起きた時に読み返して慰められるように、ここで神様のお慈悲の例を書き留めておこう。』(明治8・9・5条) 云々とあり、『今朝私は昨年の日記を見て、去年の六月のことを思い浮かべていた。何かとても昔のことのような気がする。』(明治16・6・1216条) 云々とあり、さらに、

階段を下りて行く時に、母が先に行き、私はまだ階段の途中にいたのだが、ディクソン氏は急いで私に手を貸そうとして、母を見過ごしてしまったことに気づき、階段の下か途中まで手をのばすような格好になってしまった。お別れに、私は彼に「今日はとても楽しゅうございましたわ」と言った。彼は、「あなたが来てくださったので、楽しい会になりました」と言われた。こんなことを日記に書いているのは、将来小説を書く時に役に立つかもしれないと思うからである。(明治11・6・11条)

云々とあるように、自らが記した過去の『日記』を読み返すことにより、自分自身が慰められるためであり、また、自分自身に過去を想い起こさせるためでもあり、あるいはまた、自分が将来小説を書く時に、自分のつけた『日記』の某かが、その素材資料として役立つことであろうかと思考してのことでもあった。

こうして十一歳の往時から書き綴ってきた『日記』について、『この日記を、まさに「ピーコック嬢の日記」に匹敵するものと思うかもしれない。』(明治9・10・23条) としながらも、『あまりうぬぼれてはいけけない。人間は自分について語るのとがとてたたくさんある』(同上) ので、ともすると、『自分を宇宙の中心と考えるようになってしまふ』(同上) こともある。それ故、『日記をつけていると、ついうぬぼれてしまいがち』(同上) になるので、これを極力自戒するとともに、『日記とはすばらしいものだ。だが、ハリエット・ニューウェルやアン・ジャドソンの日記を読むと、自分の日記に愛想が尽きてくる。大事な紙をずいぶん無駄にしたものだ。おそらく死ぬ時には、皆焼いてしまっているだろう。』

(明治10・7・21条) とも述べて、某かに尽力精進して向上発展を冀求せんとする者の、常に銘心しておかねばならぬ謙虚な姿勢を表明することを決して忘失してはいない。

ところでクララは、自らの趣味を殊のほか文学、中に就き、ロマンス文学に見出していたことは、『私は文学以外のものはすぐに退屈してしまうが、文学だけはますます魅力を感じる。文学は人生に対して高尚な目的を持たせてくれ、ほかのものはすべてつまらなく見えてくる。』(明治11・5・24条)とあり、『母とアディは会合に出かけたので、私は大好きなロマンス文学に読み耽ることができた。』(明治12・1・16条)とあることなどからも充分に窺い知られるところであるが、由来彼女が、例えば、『日記』にみる左掲諸記事などにも詮表されているように、感性豊かで、空想力に富み、文藻にも恵まれていたこともあって、将来、小説を書いてみたいとの熱い思いに駆り立てられていたようである。

●向島に着いた途端、雨がひどく降りだし、たちまち傘が一面に広がった。日に誘われて何の備えもせず集まった考えなしの蝶たちは、美しい着物の裾をからげ、赤い蹴出しと素足を見せて、木の下に建てられた無数の茶店へ逃げこんだ。だが、私たちが勝家の夏の別荘に着いた頃には、まるで、顔を洗った悪戯つ子が美しい花を見てまたほほえむように、青い空は美しく晴れ、日が照っていた。別荘は相変わらずすてきで、もみじ、忘れな草、すみれがこれほど美しいところはほかにない。(明治12・4・7条)

●午後、ひどい風ぼこりの中を私たちは上野まで出かけた。(中略) 將軍の墓(徳川墓地)や、勇敢な先祖が戦って血を流した日本版バンカー・ヒルのような永遠の安らぎの地を通った。偉大な死者の墓はひっそりとして、金縁の屋根が日にキラキラ光り、どっしりとした門の上の徳川家の紋も太陽の光を反射していた。だがこの自然と芸術の美しさの中で、かつては毎日磨かれ、明かりのいっぱいともっていた門も石灯籠も今は暗く苔むして、墓と同じく静まりかえっていた。その静けさを破るものは、この荘厳な悲しみの地にふさわしく声を低めたように思える蟬の鳴声だけだった。私たちは荘厳な森の中を歩いた。この木は物思いにふけてあたりの小径を歩きまわる紀州公方を見下ろしたことだろう。そして戦い！御殿の破壊、対立する両軍の雄叫び、殺りく、負傷者の断末魔の

悲鳴、そしてついに夜の死の静けさ。蒼い月がこれらの大木の茂みの間をのぞいて、半ば恐怖の中に流血の惨劇を見おろした時、うすもやのベールをおののく顔の上にひいて思ったことだろう。「神は人を完全にした。だが人は満ちたりず、さらに発明を重ねた」

黄昏時、家の方に帰ってくると、西の空に大変美しい現象が見えた。大勢の人がそこここに集まって、「キレイ」とか「珍シイ」と言いながらこの奇観に見とれていた。それで私たちも立ちどまって見た。空はいつものように美しい青で綿雲がうすくたなびいていた。だが西の方では巨大な黒雲が、まるで復讐の手のように夕陽をおおいかくしていた。その黒雲の縁は純金の輪になり、そのうしろからは真つ青な光が長い指のように空の果てから果てまで伸びていた。そしてこの恐ろしい雲の中央からは稲妻がピカピカと出て、積み重なった雲を、全部照らすのだった。シナイ山で十戒が下った時であったのではと思われるほどの荘大な光景だった。私たちは先に進んだが、西の方に曲がったので、前方の黒雲が刻々と変わるのを興味深くながめることができた。やがて「黄金の裏打ちをした雲」は色が薄くなりだし、溶けた金が横からさつと流れ出し、空を染めた。それは次第に血のように赤い真紅に変わり、暗雲に映えて実に美しかった。その変わりようはすばらしかったが、家の角を曲がり最後の一目をと振りかえると、もうすっかり色あせて、光線も消え、雲の王子様は古代のノルマンの砦の堀や落とし門のように堅固な城に閉じ籠もっていた。屋敷の門が私たちを入れるために開くのを見ながら「嵐の王様は戦の用意をしているわ」と私たちは言った。(明治12・7・1912条)

●今日、母と上野に行った、大木の下やメイコー（名公）の墓所の涼しい陰で遊んだ。上野は美しい所で、神々が住むにふさわしいところだ。（中略）近くにはほのかな色合いのピンクと白の蓮の花が、まるで美しい人魚が女王様の宮殿を見上げているように咲いていた。そしてこちらへ吹いて来るそよ風は、お寺から笙と笛とひちりきの音を運んで来た。その調べは、遠くから、蓮の息吹きに乗って銀色の池を越えて一段と甘美に聞こえた。それは美しい情景だった。向こうには無数の家と塔のある町があるが、池から立ちのぼる霞がかかって遠くかすかに見え、未来の夢の幻のように見えた。右側には、窓枠を通して薄暗く涼しい森が壮大な古い絵のように見えた。そよ風は老木を敬うように葉の一枚一枚にそつとふれて通り過ぎて行き、無数の虫が高く低くすだき、その荘厳な絵が

虫の生命で生きかえったように思われた。つややかな羽と、ぎらぎらした黒い眼をしたからすが一羽近くの枝にとまり、悲しい非音楽的な声で感情を吐露し、永遠に過ぎ去った過去を悔んでいるようだった。(明治1312条)

補註

○『海舟日記』明治三年三月二十三日条に『御母様〔海舟母堂、信子〕御不例、名倉来る。』とあり、その二日後の二十五日条に『御母様御病死、届け差し出す。』とある。霞会館華族家系大成編輯委員会編纂『平成旧華族家系大成(上)』にも「惟寅小吉、夢酔夫人信」が明治三年三月二十五日に逝去したことが記されている。尚、同書に依れば、海舟生母の信(のぶ)は文化元年正月七日生まれであるから、享年六十七歳を以て身罷ったことになる。これにより、クララがその『日記』の明治九年十一月二日条に記しているお逸の「お祖母様」、すなわち海舟令母のぶ(事例73)というのは誤りであり、正しくは、信(のぶ)以外の老婦人ということではなければならない。但し、本論攷においては、一応、『日記』に記してある通りにしておいた。

○ヘップバン夫人の勧めで、シモンズの替わりにベルツがホイットニー家へ往診に赴いた(事例273)のは、明治十二年四月二十二日のことで、これは、ベルツの名前が『クララの日記』に初見される日条である。当日の『ベルツの日記』には、『今日、天皇の親臨により医学部の開校式。』とあって、自らが職を奉ずる東京大学医学部の開校式が挙行されたこと、及びそれについての所見が記されているが、上記のホイットニー家へ赴いて、アンナ、L.を診察したことについては記されていない。爾後、ベルツが、同年六月二十三日にホイットニー家を訪れて、その家族全員に注射をしたとあること(事例273)や、明治十六年四月十六日夕方、ホイットニー家を訪れて、アンナ、L.を診察したこと(事例277)や、翌明治十七年五月八日に勝邸を訪れて、小鹿に加療したとみられることなどは、『ベルツの日記』には、それらに相当する記事を關いているので、『クララの日記』に拠って初めて能く知りうるのである。

『勝 海舟の嫁 クララの明治日記』（中公文庫本）所載人名索引

ア

- あい 下386
- アイス 下115
- 赤井 下497
- 赤井夫人 下497
- 赤井子息 下497
- アーガイル侯爵 下311,316
- アグネス（神父） 下135
- あさ 下23
- 浅田タケ——→○内村鑑三夫人
- 浅野順之助（？） 上171,186,187
- 浅野内匠頭 上229,下98
- アストン,ウィリアム,G.（英国公使館書記官） 下216,343
- アストン,ウィリアム,G.（英国公使館書記官）夫人 下343
- アダム 上388
- アトキンソン,ロバート（東京開成学校〈分析化学・応用化学〉教師・東京大学理学部
 〈化学〉教師） 下216
- アニー——→○シェパード,エリー,T.（外務・司法両省万国公法顧問）令嬢アニー
- アーネスト——→○ベイリー,チャールス,W.（海軍兵学校教官）令嬢アーネスト
- アブラハム 上151,下53
- 阿部 上103
- アベル 下93
- アマーマン（アメルマン）,ジェームス,L.（東京一致神学校教師・宣教師） 下130
- アマーマン（アメルマン）,ジェームス,L.（東京一致神学校教師・宣教師）夫人
 上480,582,下11,77
- アマーマン（アメルマン）,ジェームス,L.（東京一致神学校教師・宣教師）令嬢ネリ
 — 上480,582,下77,93,112,130
- 美国大統領（アーサー,チェスター） 下475

| | |
|------------------------------------|--|
| ○アリシア | 下184 |
| ○アリス | 上306 |
| ○有栖川宮威仁親王稠宮 | 下34,36,221 |
| ○有栖川宮熾仁親王歡宮 | 下315 |
| ○有栖川宮熾仁親王歡宮妃董子 | 下311,312,313,314,315,549 |
| ○アレク | 下280 |
| ○アレグザンダー,トーマス,サロン (明治学院〈神学〉教師) | 上481,552,下33,71,214 |
| ○アレグザンダー,トーマス (工部大学校〈土木工学〉教師) | 下173,200,201,321,389,428 |
| ○アレグザンダー,トーマス (工部大学校〈土木工学〉教師) 夫人 | 下173 |
| ○粟津高明夫人 | 下531 |
| ○アンガス,ウィリアム,M. (工部大学校〈土木工学・測量術〉教師) | 下88,97,122,123,135,241,329,330,353, 356,359,388,389,404,415,428,429,433 |
| ○アンサンク,アチールス,W. | 上300 |
| ○アンダーソン,ウィリアム,E. (海軍軍医学校教師) | 下33,236,314 |
| ○アンダーソン,ウィリアム,E. (海軍軍医学校教師) 夫人 | 下132,195,237,243,244,311,314 |

イ

| | |
|------------------|----------|
| 井伊掃部頭直弼 | 上590 |
| ○飯島 | 下71 |
| 飯島令母 | 下71 |
| 家衡——→清原家衡 | |
| 家光——→徳川家光 | |
| 家康——→徳川家康 | |
| ○イク (ホイットニー家使用人) | 上459 |
| 池田公 | 下167,194 |
| イサク | 上132 |

| | |
|------------------------------------|--|
| ○石上勝治 | 上557 |
| ○イズブキ (通訳) | 下257 |
| ○伊勢 (横井) 時雄 (キリスト教伝道者) | 下478,479 |
| 一条忠香 (明治天皇皇后 (昭憲皇太后) 美子令敵) | 下167 |
| ○いつ | 下159 |
| 一休禪師 | 下400 |
| ○イーディス | 上596 |
| ○いと | 下150,536 |
| ○伊藤 | 下63,65,116 |
| ○伊藤 | 下121 |
| ○伊藤子息 | 上516 |
| ○伊藤博文 (参議・内務卿) | 上432,下264 |
| 井上 | 下46 |
| ○井上 馨 (外務卿) | 下268,547 |
| ○井上 馨 (外務卿) 夫人 | 下260,410 |
| ○井上 馨 (外務卿) 令嬢 | 下260,311 |
| ○イービー,チャールズ,S. (中央会堂創設者・宣教師) | 上287,439,461,462,下225,478 |
| ○イービー,チャールズ,S. (中央会堂創設者・宣教師) 夫人エレン | 上287,435,462 |
| ○今井夫人 | 下426,528 |
| ○岩 | 下80 |
| ○岩倉具視 (右大臣) | 上368,下63,318,324 |
| ○岩田通徳 (日本音楽学校主) | 下84,85,102,104,136,137,209 |
| ○インブリー,ウィリアム (東京一致神学校教師・宣教師) | 上460,508,566,567,574, 下60,72,88,245,367,384,469 |
| ○インブリー,ウィリアム (東京一致神学校教師・宣教師) 夫人 | 上146,247,332,566,567, 574,下60,65,393,395 |

ウ

- ヴァーベック (フルベッキ) ,ギドー,H.F. (開成学校教養学科教師・宣教師)
上213,494,588,下18,395,396,478,516
- ヴァーベック (フルベッキ) ,ギドー,H.F. (開成学校教養学科教師・宣教師) 夫人
上213,459,558,564,下50
- ヴァーベック (フルベッキ) ,ギドー,H.F. (開成学校教養学科教師・宣教師) 令嬢エ
マ
上213,214,217,218,226,250,257,258,292,294,311,312,
314,315,316,317,337,338,339,380,447,448,449,494,
523,533,534,535,550,558,下12,49,50,379,500,535
- ヴァーベック (フルベッキ) ,ギドー,H.F. (開成学校教養学科教師・宣教師) 令嬢ア
ニー
上523
- ヴァーベック (フルベッキ) ,ギドー,H.F. (開成学校教養学科教師・宣教師) 令息ジ
ョージ
上523,533,534,588,下78
- ヴァーベック (フルベッキ) ,ギドー,H.F. (開成学校教養学科教師・宣教師) 令息チ
ャニング
上257,258
- ヴァーベック (フルベッキ) ,ギドー,H.F. (開成学校教養学科教師・宣教師) 令息ウ
ィリイ
上213,214,216,218,294,447,
459,523,533,534,535,569,下49
- ヴァン・ビューレン,トーマス,B. (神奈川総領事・将軍) 上213,214,下247,249,250
- ヴァン・ペッテン,カロライン,W.夫人 (海岸女学校教師・聖經女学校設立者・宣
教師)
下466,515,525
- ヴィクトリア英国女王
上374,下343,344
- ヴィーダー,ピーター,V. (開成学校・東京大学〈物理学・数学〉教師)
上213,221,300,338,480,544,546,
574,下20,59,63,71,72,78,333
- ヴィーダー,ピーター,V. (開成学校・東京大学〈物理学・数学〉教師) 夫人 (東京女
学校教師)
上312,316,435,480,546,下47
- ヴィーダー,ピーター,V. (開成学校・東京大学〈物理学・数学〉教師) 令嬢ガシー
上311,312,314,315,337,338,435,449,454,
481,515,516,524,533,534,535,550,564,

579,580,下44,45,47,49,57,62,72,78,82

- ヴィーダー,ピーター,V. (開成学校・東京大学〈物理学・数学〉教師) 令嬢ジェニー
上311,312,313,314,315,337,338,380,435,439,449,454,
507,516,517,523,533,546,550,下44,46,49,57,62,78,82
- ウィッテンマイヤー夫人 下145,498
- ウィニフレッド (ホイットニー,クララ姻戚) 下383
- ウィラン,L.P. 下105
- ウィラン,L.P.夫人 下105,243
- ウィリアムズ,チャーニング,M. (立教女学院設立者・宣教師) 上176,281,下392,393
- ウイル叔父 (在モリスタウン) 下525
- ウィルソン,ハレーズ,E. (開成学校・東京大学教師) 上213,300
- ウィロット,ジョン 上563
- ウイン,ハリエット,L.令嬢 上579
- ヴィンセント夫人 下188,221
- 上 真行 下137,178
- 上杉謙信 上236
- 上杉茂憲 (侍従・伯爵) 上339,373,379,389,391,450,480,487,
539,551,556,566,567,下145,232
- 上杉茂憲 (侍従・伯爵) 夫人ひな (旧姓大鳥)
上539,556,566,567,598,下132,145,232,419
- 上杉茂憲 (侍従・伯爵) 令嬢齊憲 上391
- 上杉茂憲 (侍従・伯爵) 令母於磐 上391
- ウェズリー,ジョン (メソヂィスト教会創始者) 下202
- 上田おかぜ 下126
- 上野栄三郎 (商法学校教師) 下152,197
- 上野栄三郎 (商法学校教師) 夫人琴 (旧姓津田) 下512
- 上野景範 (英国駐在特命全権公使・外務大輔) 下315,316
- 上野景範 (英国駐在特命全権公使・外務大輔) 夫人 下311,316
- ウォデル,ヒュー (明治学院教師・宣教師) 上259,260,282,467,468,481,
544,下65,66,174,197,280,366,

| | |
|-----------------------------|--|
| | 430,435,436,438,478,481,507 |
| ○ウォデル,ヒュー (明治学院教師・宣教師) 夫人 | 上481,558,下65,280 |
| ○ウォトソン | 下18 |
| ○ウォルター (ホイットニー,クララ長男) | 下553 |
| ○ウタ | 下492 |
| ○内田きの | 下390,415,416,417,418,419,430,503,504,507,510 |
| 内田九一 (浅草内田写真屋主人) | 上162 |
| ○内田夫人 (勝 安芳《海舟・安房守》長女夢《ゆめ》) | 上120,334,376,519,下23,100,115,116,120,133, 136,153,156,157,161,172,173,206,209,239,253, 285,287,337,340,341,380,390,422,432,436,443, 445,446,450,467,468,474,504,507,508,509,510, 519,520,524,526,529,532,533,536,539 |
| ○内村鑑三 | 下512,513,514,515,527 |
| ○内村鑑三夫人 (旧姓浅田タケ) | 下513,514,515 |
| ○内村鑑三令妹ヨシ | 下513 |
| ○内村鑑三令弟順也カ | 下513 |
| ○内村鑑三令嚴宜之 | 下513 |
| ○内村鑑三令母ヤソ | 下513 |
| ○ウッド (英国公使館守衛) | 下151,195,244,274 |
| ○ウメ (セイキチ夫人) | 上106,208,212,274,293,297,366,379,381 |
| ○ウメ令息 | 上208,211 |
| ○ウメ令嬢サク | 上224,225,226 |
| ○梅子 (ウタ令妹) | 下492 |
| 梅宮薫子内親王 | 上202 |
| 梅宮薫子内親王令兄 | 上202 |

工

| | |
|-------------|--------------|
| ○えい (勝家使用人) | 下113,116,168 |
|-------------|--------------|

| | |
|--------------------------------|---------------------------|
| ○エイアズ,アリス | 上172,306 |
| ○エヴァンズ,ホーンビー夫人 | 上297 |
| エサウ (旧約聖書〈創世記〉イサク長子) | 上132 |
| 越前侯 (松平茂昭カ) | 下282 |
| ○エッジ | 下223 |
| ○エド | 上534 |
| ○エドワード | 下327 |
| ○エドワード夫人 | 下327 |
| ○榎本武揚 (俄国駐在公使) | 下271 |
| ○榎本武揚 (俄国駐在公使) 夫人 | 下269,271 |
| ○エバンス (オーシャニック号事務長) | 下332 |
| 恵比須屋茂八 | 上235 |
| ○エラ | 上596,下67 |
| エリア | 上117 |
| ○エルドレッド,カロライン,E.令嬢 (宣教師) | 上564,565,下139,140,238,397 |
| ○遠藤りよ (チャールズ夫人著『キリスト教国の婦人』翻訳者) | 下541 |

オ

| | |
|--------------------|--|
| 大石内蔵助 | 上229,下99 |
| 大石主税 | 上229 |
| ○大久保一翁 (元老院議員) | 上326,418,419,543,下54,58,356 |
| ○大久保三郎 (一翁令息) | 上324,325,326,327,328,329,332,341,342,368, 369,370,371,373,374,375,377,378,386,389, 390,418,446,447,491,493,495,下51,52,53,54,58 |
| ○大久保三郎 (一翁令息) 夫人 | 下422 |
| ○大久保 業 (一翁令息・三郎令弟) | 上341,342,371,374,377 |
| ○大久保利通 (参議兼内務卿) | 上432,542,543,560,下79 |
| ○大隈重信 (参議・大蔵卿) 夫人 | 下260 |
| 応神天皇 | 上239,240 |

- 太田（商人・山田長政随伴者） 下131
- 大鳥圭介（工部頭・工部大学校校長） 上82,83,102,103,128,136,137,169,
173,198,204,272,291,294,295,
307,339,369,391,440,478,479,
488,506,532,550,551,558,593,
下32,50,102,108,115,116,131,
145,229,241,242,356,419,431
- 大鳥圭介（工部頭・工部大学校校長）夫人道 上169,273,470,477,478,480,487,
488,490,560,下32,131,145
- 大鳥圭介（工部頭・工部大学校校長）令息富士太郎 上478,下115,229
- 大鳥圭介（工部頭・工部大学校校長）令嬢ひな（上杉茂憲夫人）
上273,307,332,369,391,392,397,
449,450,470,479,481,487,488,522
- 大鳥圭介（工部頭・工部大学校校長）令嬢ゆき
上273,307,332,369,391,392,397,
449,479,487,488,551,593,下115,
131,145,146,229,359,467
- 大鳥圭介（工部頭・工部大学校校長）令息次郎 上487
- 大鳥圭介（工部頭・工部大学校校長）令息六三 上487,下115,229
- 大鳥圭介（工部頭・工部大学校校長）令嬢菊子（きく） 上486,487,488,下115,229
- 大原 上146,197
- 大村益次郎（兵部大輔） 上590
- 大山 巖（陸軍卿・陸軍中将） 下67,96,134,260,268,315,316,
327,331,427,428,439,498
- 大山 巖（陸軍卿・陸軍中将）夫人沢子（旧姓吉井）
上507,下67,96,98,100,106,107,115,134,260,
320,324,325,326,327,328,329,331,336,337,
341,351,378,384,427,466,467,498,507,544
- 大山 巖（陸軍卿・陸軍中将）令嬢信子（のぶ） 下320,439
- 大山 巖（陸軍卿・陸軍中将）令嬢みつ 下320,341,351,378

| | |
|--|--|
| ○大山 巖（陸軍卿・陸軍中將）夫人捨松（旧姓山川） | 下498,499,500 |
| ○小鹿島夫人ふで（旧姓渡辺） | 下500,519,529,530,532 |
| ○岡田夫人つる | 下22,116,133,185,186,415,416,417,419,430,536 |
| ○岡田松生 | 下346,348,349,350,351 |
| ○奥野昌綱（東京一致神学校聴講生） | 下238,469,479,515,516 |
| ○オコムラ（?） | 上161 |
| ○尾崎三良（内務図書頭）夫人 | 下526,527,528,529 |
| ○長田時行（牧師） | 下513,514,516,531 |
| ○長田時行（牧師）夫人 | 下531 |
| ○オシリア（ゴープル,ジョナサン令嬢オシリア） | 上449 |
| ○オスカー（クララ姻戚） | 上115,下383,384 |
| ○奥地利公使（シェッフアー,イグナッツ,F.弁理公使） | 上432,433 |
| ○奥地利公使（カール,グラフ,Z.特命全権公使） | 下522 |
| ○オッティ | 上248 |
| ○小野（報知新聞論説委員） | 上41,59,63,65,70,71,75,76,80,81,82,83,84,85, 86,87,88,89,90,91,92,93,94,95,96,97,98,99, 102,103,105,106,107,133,134,135,148,149, 150,170,171,220,222,244,246,262,294,295 |
| 小野（報知新聞論説委員）夫人 | 上246 |
| 小野（報知新聞論説委員）祖母 | 上95 |
| ○小野（在横浜教会関係者） | 下386 |
| ○小野寺常治 | 上161,182,205,408 |
| 小畑（歯科医） | 上598 |
| ○オーランド,ベントン（バラ,ジェームス,H.《バラ学校開設者・宣教師》夫人マーガレット,T.K.令息） | 上581,582 |
| オールコット | 上565 |

カ

| | |
|-----|-----|
| カイン | 下93 |
|-----|-----|

- 笠原（富田家使用人） 上443,459,466,467,489,518,
528,539,下24,140,143
- 笠原夫人 下528,529
- カサワラ、イヤコ 上384,385,391,392,394
- 梶 くま（勝 安芳《海舟・安房守》妻妾・梅太郎令母） 下228
- カズエ（神田孝平姪） 上330
- カター,ジョン,C.（札幌農学校〈解剖学・生理学〉教師・官立札幌病院医学顧問）
下512,514
- 勝 安芳（海舟・安房守） 上51,82,83,102,103,118,243,248,255,267,272,303,
334,335,336,339,346,347,368,369,376,377,401,419,
426,440,445,456,457,471,480,493,497,506,522,524,
537,538,543,568,下25,31,32,35,47,50,55,104,105,108,
110,111,112,119,121,124,127,128,135,136,138,143,
146,148,154,156,158,163,177,193,202,203,204,205,
210,221,222,228,231,242,253,254,256,257,266,282,
300,301,329,361,380,401,411,414,425,433,438,441,
444,445,450,481,482,483,486,526,536,538,540,541
- 勝 安芳（海舟・安房守）夫人たみ 上119,172,173,174,266,267,268,271,273,
302,316,317,347,349,352,366,376,408,456,
471,495,497,519,524,554,555,583,593,594,
下23,27,100,106,107,114,116,119,124,126,
127,128,129,133,136,143,145,146,147,153,
157,162,165,166,169,174,176,180,187,193,
252,253,254,255,256,257,380,383,403,404,
405,418,422,425,428,430,432,436,439,440,
441,445,446,447,450,466,468,473,483,505,
507,510,520,526,534,535,537,538,539,540
- 勝 安芳（海舟・安房守）長女夢（ゆめ）——→○内田夫人
- 勝 安芳（海舟・安房守）次女孝子（小太郎）——→○疋田正善夫人
- 勝 安芳（海舟・安房守）長男小鹿 上120,334,455,456,457,459,469,470,471,

479,480,487,495,497,508,517,518,524,525,
526,529,534,547,555,559,下24,36,46,51,55,
96,100,110,112,113,115,116,124,127,134,
143,165,169,171,176,178,221,222,231,242,
253,274,304,380,381,403,411,436,450,483,
507,524,525,526,535,537,538,539,540,541

○勝 安芳（海舟・安房守）長男小鹿夫人栄子（えい・たて）

下436,438,439,440,447,448,450,468,483,500,
526,532,533,534,535,536,537,538,540,541

勝 安芳（海舟・安房守）次男四郎 上334

○勝 安芳（海舟・安房守）三女逸子（お逸） 上120,174,176,216,219,231,241,243,
244,247,248,249,254,255,256,260,262,
265,266,267,268,269,270,271,273,274,
275,283,285,291,292,294,303,306,307,
310,311,316,318,319,320,330,333,335,
336,339,341,342,345,346,347,349,352,
354,367,370,371,372,376,377,395,396,
400,401,408,414,426,432,434,439,446,
455,456,459,468,469,470,471,472,478,
479,480,485,487,490,495,497,498,499,
508,517,518,519,520,522,524,525,526,
527,529,533,534,536,537,543,547,549,
551,554,556,558,559,560,561,583,585,
586,589,593,下14,15,16,23,25,26,27,33,
34,35,38,40,46,47,49,52,53,55,64,65,98,
100,104,106,107,108,109,111,113,116,
120,123,124,125,128,129,133,134,135,
140,143,146,148,149,150,153,156,157,
163,164,165,166,167,168,169,176,180,
193,194,195,196,206,209,215,222,225,

- 231,232,233,234,239,242,253,257,258,
274,282,298,317,318,319,321,326,327,
328,336,358,363,371,372,373,374,375,
376,378,380,384,404,411,412,417,418,
422,423,425,428,430,431,436,440,442,
443,444,468,492,493,497,500,510,525,532
- 勝 安芳（海舟・安房守）三男梅太郎 上260,268,271,302,320,341,342,347,366,
368,412,420,447,490,507,508,534,555,556,
下21,23,33,36,106,107,113,115,117,119,120,
124,129,132,149,161,166,170,172,187,191,
228,237,345,367,441,436,437,439,440,441,
442,444,445,448,449,479,483,520,536,539,553
- 勝 安芳（海舟・安房守）四男（岡田）七郎義徴
上260,268,270,271,490,534,555,下22,33,115,
119,161,228,231,417,449,483,536,539,540
- 勝 安芳（海舟・安房守）四女八重 上334
- 勝 安芳（海舟・安房守）令母のぶ 上270,271,下133,254
- 勝 安芳（海舟・安房守）三女逸子（お逸）叔母 上415
葛飾北斎 上491
- カーティス（在横浜帽子屋女主人） 下543
- カーティス,ウォルター 下414
- 加藤 下513
- 門屋 下513
- 門屋セイゴ（ヘップバン《ヘボン》,ジェームス,C.弟子) 上409,410,411,412,413
- 金沢良斎（医師） 上471,520,下286
- 金沢良斎（医師）夫人 下287
- 金沢良斎（医師）令嬢録（矢田部良吉《植物学者》夫人） 上471,472,下286,287
- カネ（ホイットニー家使用人） 上456,489,493,495,526,539,下20,30,72,108,109
- カネ（ホイットニー家使用人）夫人セキ 上493,495,496,497
- かね（勝家使用人） 下116,436,536

| | |
|--|-------------------------------|
| ○ガビンズ,ジョン,H. (駐日英国大使館書記官) | 下262,379 |
| ○カーペンター夫人 | 下379 |
| ○神山 (内田家家扶) | 下508,509,510,536 |
| カールトン,ウィル | 下230 |
| ○カローザーズ (カロゾルス),クリストファ (慶応義塾〈英語・文学〉教師・築地大学 校創立者・宣教師) | 上120,146,225 |
| ○カローザーズ (カロゾルス),クリストファ (慶応義塾〈英語・文学〉教師・築地大学 校創立者・宣教師) 夫人ジュリア (A六番女学校開設者) | 上114,115,207,208,216,225,465 |
| ○川路利良 (東京警視庁大警視) | 上500,501,504,506,507,下260,427 |
| ○川路利良 (東京警視庁大警視) 夫人 | 上501,504,506,520,下260 |
| ○ガワード | 下521,548 |
| ○河村 (笙演奏家) | 下137 |
| ○川村純義 (参議兼海軍卿・海軍中将) | 下104,134,298 |
| ○川村順次郎 (幕臣・成瀬隆蔵令厳) | 上218,420,421,423 |
| ○川村順次郎 (幕臣・成瀬隆蔵令厳) 夫人 | 上218 |
| カーン,アブダル | 下129 |
| ○神田孝平 (文部少輔・元兵庫県令) | 上330,381,395,下356 |
| ○神田孝平 (文部少輔・元兵庫県令) 令嬢 | 上394,397 |
| ○神田次郎 | 上449 |

キ

| | |
|-------------------------------------|----------------------|
| ○喜一郎 (林恒五郎従兄弟) | 下115 |
| ○菊〈きく〉 (勝家使用人) | 下113,168,363,536,540 |
| ○キサブロウ (三味線名手) | 上503 |
| 紀州公方――→徳川家茂 | |
| ○キスケ (ホイットニー家使用人) | 上354,357,362 |
| ○キダー (美国ドリュー神学校教師) | 下68 |
| ○キダー,アンナ,H.嬢 (フェリス・喜田英和両女学校設立者・宣教師) | |

上381,413,494,下152,174

- キティ 下149
ギデオン (イスラエル勇士) 上264,287
キーブル 下426
木村熊二 (明治女学校創設者) 下483
○ギャンブル,アンナ,M.嬢 下90
キャンベル 下183
○キャンベル嬢 (マーシャル,デイヴィッド,H. (工部大学校〈物理学〉教師) 夫人)
下357,401,429
清原家衡 下270
清原武衡 下270
○キューリック,ジョン (生物学者・宣教師) 令嬢ファニー
上244,287,307,335,467,479,564,下169,195,410
吉良上野之助 上229
キーリ (『歴史のあけぼの』著者) 下245
桐山純孝 (石川県令) 下125
○金〈キン〉 (勝家使用人〈男性〉) 上439,下320
○きん (勝家使用人〈女性〉) 下536
○キン (疋田家使用人〈男性〉) 上558,下150
○金三郎 (ホイットニー家使用人) 上420,429,430,431,474
金三郎 (ホイットニー家使用人) 夫人 上430
○金太郎 (ホイットニー家使用人) 下280,299,300
○金八 (ホイットニー家使用人) 下445,446,450,481

ク

- 九鬼隆一 (美国駐在特命全權公使) 下534,542,543,544
○九鬼隆一 (美国駐在特命全權公使) 夫人波津 下534,535,542,544,547
○九鬼隆一 (美国駐在特命全權公使) 令嬢 下542
○九鬼老大名 (隆周カ) 下542

- 楠本正隆（東京府知事） 上300,392,420,439,440,475,480,550,551,568,
596,597,下29,38,39,40,41,42,125,310,429
- 楠本正隆（東京府知事） 令母フヂ 下429
- 朽木綱鑑（元福知山藩主為綱養嗣子） 下68,69,70,71
朽木綱鑑義父（元福知山藩主朽木為綱） 下69
クック,ジョセフ 上580
- クーパー（クーパル）,チャールズ,J.（東京大学〈哲学・歴史〉教師）
上494,下345,350,363,387,388,389,392,
393,396,405,411,412,414,415,426
クーパー（クーパル）,チャールズ,J.（東京大学〈哲学・歴史〉教師）夫人 上494
- クマ（ホイットニー家車夫） 上354,359,382
熊倉（医師） 上539
- クメ（ホイットニー家使用人） 下481
クメイ（杉岡ヨシ夫人令嬢） 下545
クラーク,ウィリアム,S.（札幌農学校創設者） 上353
- クラーク,ルース嬢 上228,435,442,580
- クラーク,ロバート（工部大学校図学助手） 上570,571
クラノスケ——→大石内蔵助
- グラント,ミナ（バツサー大学出身・クララ級友） 下223
- グラント,ユリシーズ,S.（元美国大統領・北軍総司令官）
下243,246,247,248,249,250,257,258,260,261,263,264,
265,266,268,269,270,271,272,273,279,284,285,295,
296,297,298,304,308,309,311,312,313,314,315,318,381
- グラント,ユリシーズ,S.（元美国大統領・北軍総司令官）夫人ジュリア
下243,247,248,258,260,263,264,265,266,
267,269,309,311,312,314,315,317,318,319
- グラント,ユリシーズ,S.（元美国大統領・北軍総司令官）令息フレッド（陸軍大佐）
下250,258,260,298,318,319
- グリグズビー,ウィリアム,E.（開成学校・東京大学〈法律〉教師） 上427,547,548
- グリーン,ダニエル,C.（新約聖書翻訳委員・同志社大学教授・宣教師）

| | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| | 上481,590,下97,190,237,367 |
| グールディ嬢 | 上335 |
| ○グレイ,トーマス (工部大学校〈実験物理学・電信工学〉教師) | 下83,123,344,421,428 |
| ○グレイ,トーマス (工部大学校〈実験物理学・電信工学〉教師) 夫人 | 下241,243,344,361,364,420,421,427,428 |
| ○グレーシー (ホイットニー,クララ姻戚) | 下383 |
| ○クレッカー,フレデリック (宣教医) | 上494,下77,281,393,458,460 |
| ○クレッカー,フレデリック (宣教医) 夫人 | 下77,284,410,476,487,538 |
| ○クレッカー,フレデリック (宣教医) 令息プレストン | 下56 |
| ○クレッカー,フレデリック (宣教医) 令嬢マギー | 上598,下11,25,33,34,187 |
| 黒田清隆 (参議兼開拓長官・陸軍中將) | 上466,467,561,下316 |
| 黒田清隆 (参議兼開拓長官・陸軍中將) 夫人 | 上561 |
| ○黒田長溥 (元福岡藩主・参議・侯爵) | 下210,211,212 |
| ○黒田長溥 (元福岡藩主・参議・侯爵) 令孫長成 | 下210 |

ケ

| | |
|---------------------|--------------|
| ケアド博士 (『神徳の力』著者) | 下386 |
| ○けい | 下158 |
| ○ケネディ | 下262 |
| ○ケネディ夫人 (東京図書クラブ会長) | 下244,362,363 |

コ

| | |
|-------------------------|--|
| 小池 | 上469 |
| ○小泉 (松平確堂 (元美作津山藩主) 家来) | 上131,288,340,408,481,482,下49, 50,106,111,148,149,174,337,358 |
| ○皇后陛下 (昭憲皇太后美子) | 上182,197,198,202,246,249,345,353,363,394,402,425, 433,434,435,457,537,590,下28,30,37,43,46,70,102,104, |

167,179,194,197,198,199,202,358,500,523,524,549

- 皇太后（英照皇太后九条夙子） 上197,下198
孔子 上127,下181,203,215
孔子令母（顔氏子女） 下203
コウツケノスケ——→吉良上野之助
- 幸野椽嶺（日本画師匠） 下549,550,551
○幸野椽嶺（日本画師匠）夫人 下550,551
○小菊（芸者） 下407,408,409
- コ克蘭（カックラン）,ジョージ,L.（旧約聖書翻訳委員・東洋英和学校設立者・宣教師） 上217,226,287,428,570,下83
○コ克蘭（カックラン）,ジョージ,L.（旧約聖書翻訳委員・東洋英和学校設立者・宣教師）夫人 上176,218,287,317
○コ克蘭（カックラン）,ジョージ,L.（旧約聖書翻訳委員・東洋英和学校設立者・宣教師）令嬢スージー 上176,217,218,219,227,314,315,320,337,339,下216
○コ克蘭（カックラン）,ジョージ,L.（旧約聖書翻訳委員・東洋英和学校設立者・宣教師）令息ジョージ 上217,218
○コ克蘭（カックラン）,ジョージ,L.（旧約聖書翻訳委員・東洋英和学校設立者・宣教師）令嬢モード 上176,217,317,320
- 小崎弘道（キリスト教伝道者） 下486,513,515,516
○小太郎——→○疋田正善夫人（勝 安芳《海舟・安房守》次女孝子《小太郎》）
○ゴードン=カミングズ嬢 下73,74,75,76,77,78,80,81,82,83,311,316,370
○コニー——→○ベイリー,チャールズ,W.（海軍兵学校教官）令嬢コニー
小西かね（勝 安芳《海舟・安房守》妻妾・義徴令母） 下228
- ゴープル,ジョナサン——→○オシリア
○ゴープル,ジョナサン——→○メアリー
- こまつ（勝家使用人） 下23,116,321,417
こむらさき（遊女小紫） 上538
- コラス嬢 上563,564
○コーリー（コウレー）,ジョージ 上570,571,574
○コールズ夫人 上227,410,442

- コールズ夫人令妹 上410,411
 コルネリウス 上481
 ○コレル夫人 上317
 権八——→平井権八

サ

- 西郷隆盛（陸軍大将） 上397,418,543,589,下31,361
 ○西郷従道（陸軍中将） 上418,589,下260,264,268,298,315,316,407,427,544
 ○西郷従道（陸軍中将）夫人清子 下260,311,314,324,544
 ○サイル,エドワード,W.（東京開成学校・東京大学〈哲学・歴史・心理学〉教師・アジア協会会長・宣教師） 上245,246,下104,121,130,131,139,164,176,177,178,179,199,227,315
 ○サイル,エドワード,W.（東京開成学校・東京大学〈哲学・歴史・心理学〉教師・アジア協会会長・宣教師）夫人 上144,145,246,下139,141,163,164
 ○榊 下92
 ○榊（榊令巖・画家） 下92
 ○坂部夫人（古物蒐集家） 下531
 ○さかや（おすみ令巖カ） 上156,174
 ○さかや（？）すみ（松平確堂《元美作津山藩主》家使用人）
 上131,132,151,154,156,159,160,162,174,273,283,
 307,311,339,345,349,396,405,426,484,485,490,
 495,537,544,585,下15,36,106,111,148,319,336,358
 ○サク——→○ウメ令嬢
 ○桜井昭恵 下28
 ○桜井昭恵夫人ちか（桜井女学校所有者） 下28
 ○桜井忠興（元摂津尼崎藩主・勝 小鹿夫人栄子《えい・たて》令巖） 下536
 ○桜井忠興（元摂津尼崎藩主・勝 小鹿夫人栄子《えい・たて》令巖）夫人きん 下536
 ○桜井忠興（元摂津尼崎藩主・勝 小鹿夫人栄子《えい・たて》令巖）令嬢なつ（栄子《えい・たて》令妹） 下533,536

- 佐々木三郎（陸軍省役人） 上135,136,160,170,171,173,206,209,252,263,264,274,
277,286,300,301,319,330,335,540,586,下91,129,176
- サダ 上409,410,413
- サットン,フレデリック,W.（海軍兵学校教官・機関教授局管理者）
上468,515,516,521,533,536,下44,56,63,144,221
- サットン,フレデリック,W.（海軍兵学校教官・機関教授局管理者）夫人
上516,526,下45,144,198
- サットン,フレデリック,W.（海軍兵学校教官・機関教授局管理者）令嬢ネリー
上468,515,下144
- サットン,フレデリック,W.（海軍兵学校教官・機関教授局管理者）令嬢パーティ
上515,下45,144
- サットン,フレデリック,W.（海軍兵学校教官・機関教授局管理者）令嬢フロラ
上515,534,下45,144
- サットン,フレデリック,W.（海軍兵学校教官・機関教授局管理者）令息フレディ
上534,下45,221
- サトウ,アーネスト,M.（英国公使館付通訳官・書記官） 下130,131,245,314
- 佐藤（勝家寄寓者） 上335,340
- 佐藤（勝家寄寓者）令息 上334,335
- 佐藤 上560
- 佐藤 下160
- 佐藤夫人 下287
- 佐藤（同人社女学校主事） 下204,205,224
- 佐藤百太郎 下64,69
- 佐藤百太郎夫人 下69
- 佐野 下435
- 鮫島尚信（外務大輔・仏国駐在特命全権公使） 下327
- サラベル 上500
- サラベル夫人 上500,502
- 沢太郎左衛門（海軍兵学校教官） 下221
- サンキー（信仰復興運動家） 上202

| | |
|-----------------|------------------|
| ○三条実美 (太政大臣) | 上590,下30,268,318 |
| ○三条実美 (太政大臣) 夫人 | 下258,260,270 |
| サンズ | 上577 |

シ

| | |
|---|-------------------------------|
| シェークスピア (詩人・戯作家) | 下48,126 |
| ○ジェシー——→○フェントン,ジョン,W. (海軍軍楽隊指導者・初代「君が代」作曲者) | |
| 令嬢ジェシー | |
| ○ジェシー——→○フレイジャー,フレッド (日本駐在美国全権公使ビンガム令嬢婿) 令嬢ジェシー | |
| ○ジェニングズ (オーシャニック号船長) | 下332,333 |
| ジェノア公爵 | 下377,410 |
| ○シェパード,エリー,T. (外務・司法両省万国公法顧問) | 上457,下55,98,258 |
| ○シェパード,エリー,T. (外務・司法両省万国公法顧問) 夫人 | 下55,56,87,91,93,96,98,269,311 |
| ○シェパード,エリー,T. (外務・司法両省万国公法顧問) 令嬢グレタ (グレッティ) | 下58,91,213 |
| ○シェパード,エリー,T. (外務・司法両省万国公法顧問) 令嬢アニー | 下58,63,91,170,213 |
| ○シェパード,エリー,T. (外務・司法両省万国公法顧問) 令嬢ルイーズ (ルウ) | 下58,213 |
| シェパード (上海副領事) | 上259 |
| ○ジェームズ,ジョン,M. (日本海軍指導者・船長) | 下131,178 |
| ○ジェームズ,ジョン,M. (日本海軍指導者・船長) 夫人 | 下243,331 |
| ○シェン (清国公使館員) | 下545,546 |
| ジェーン嬢 | 下491 |
| ジェーンズ,リーロイ,L. (熊本洋学校教師) | 下486 |
| ○しげの | 下120,213 |
| ○シズ (ホイットニー家使用人) | 上34,40,43,51,63 |

| | |
|--|--|
| ○しず（森家奉公人） | 上161,下33,50 |
| ○七太郎（勝家家扶） | 下113,153,155,163,536 |
| ○七郎 | 下119 |
| ○しな | 下500 |
| ○柴田（女子師範学校職員） | 下43,44,51,52,53,54,202,204 |
| ○柴田（女子師範学校職員） 令息キク | 下43 |
| ○柴田（一等伶人、芝葛鎮カ） | 下137,138,246 |
| ○シーボルト,アレグザンダー,G. | 上433 |
| 島津三郎（斉興五男） | 上199 |
| 清水嬢 | 下243 |
| 清水東谷 | 下86 |
| ○シモンズ,ドゥアーネ,B.（宣教師・在横浜開業医） | 上414,441,442,457,474,480,481,579,580,586,下70,123, 180,188,189,190,192,247,367,381,419,420,432,434 |
| ○シモンズ,ドゥアーネ,B.（宣教師・在横浜開業医） 夫人 | 上481,576,下171,172,382,433 |
| ○シモンズ,ドゥアーネ,B.（宣教師・在横浜開業医） 令母 | 下189 |
| ○シモンズ,ドゥアーネ,B.（宣教師・在横浜開業医） 祖父 | 下189 |
| ジャドソン,アン | 上388 |
| ○シャンド,アレグザンダー,A.（日本政府財政顧問・銀行業務専門家） | 上153,169,170 |
| ○シュウ（ホイットニー家使用人） | 下160,163,166,172,173,175,176, 184,187,196,226,231,278,280 |
| ○シュウ（ホイットニー家使用人） 夫人タケ | 下96,120,140,226,278,280 |
| ○十字屋——→○原 胤昭 | |
| ○十字屋（洋書店） 番頭 | 下139,140 |
| ○ジュエット,フランク,F.（東京開成学校・東京大学〈化学〉教師） | 上540,562,563,564,588,下94,95,132,393,429 |
| ジュリエット | 下126 |
| ○ショー,アレグザンダー,C.（芝聖アンデレ教会創立者・軽井沢避暑地発見者・宣教師） | 上287,424,431,472,527,下89,90,105,122,123,158, |

181,263,387,396,397,406,414,415,425,426,442,444

- ショー,アレグザンダー,C. (芝聖アンデレ教会創立者・軽井沢避暑地発見者・宣教師)
夫人メリーアン 上430,431,下105,158,161,240,263,280,
367,387,396,397,404,414,415,426
- ショウゴロウ (歌手) 上503
- ショウテイ (ショウハン) (人力車夫) 上354,357,362
- ジョージ (ホイットニー,クララ叔父) 下68
- ジョードン,ペイトン (学習院・開成学校 (英語) 教師) 上215,300,下87,98,268
- ジョニー 上52
ジョーンズ 下42
- ジョーンズ 下333
- ジョンソン嬢 下130,132,163,262
- 次郎 下159
神功皇后 上240
- 清国公使 (何如璋) 上440,下259
- 清国公使 (徐承祖) 下522
清国皇帝 (徳宗・光緒帝) 上69
- 新左衛門 (勝家人力車夫) 上352,395,下149,165,191,284
- シンプソン,ジェームス (内務・海軍両省・地理寮測量師付書記・語学教授)
上153,169,287
- シンプソン,ジェームス (内務・海軍両省・地理寮測量師付書記・語学教授) 夫人
上153,169,192,228,244,252,263,273,287,297,331
神武天皇 上121

ス

- スウィフト,ジョナサン (『ガリバー旅行記』著者) 下174
- すえ 上183
- スカーレット艦長 下497
- 杉 一郎 (杉 孫七郎令息) 下148

- 杉 孫七郎 (宮内大輔) 下148
- 杉岡ヨシ (勝家家扶) 下440,445,446,448,450,473,483,544,545
- 杉岡ヨシ (勝家家扶) 夫人 下545
- 杉岡ヨシ (勝家家扶) 夫人令巖クメイ 下545
- 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取)
- 上66,67,68,82,83,103,119,123,124,166,184,
185,194,195,196,246,272,292,303,304,346,
387,404,416,424,425,440,458,465,474,519,
520,526,527,543,556,557,下17,25,92,108,
109,115,198,217,241,323,328,380,406,411,438
- 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 夫人俊
- 上66,67,123,125,126,147,148,163,165,184,185,195,
200,205,252,291,303,330,368,370,378,402,416,424,
427,458,459,468,490,497,516,527,529,557,下25,115,
116,197,217,241,242,285,286,328,415,417,419,429,484
- 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息武
- 上66,67,68,124,125,126,127,168,195,199,246,
303,336,339,401,402,403,404,414,416,424,
425,427,431,465,467,474,488,527,下115,
197,217,220,241,285,286,287,371,381,407
- 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息 (?) イノコ
- 上414,427,445,468,516,下115,217
- 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息雄
- 上404,下24,217,218,286,407
- 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息盛
- 上63,65,70,83,86,88,96,106,107,120,124,125,
148,165,174,181,184,205,252,291,366,375,387,
388,416,424,425,445,447,458,459,465,475,516,
537,585,下24,25,38,115,217,218,286,381,406
- 杉田玄端 (玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取) 令息六蔵

上123,125,366,375,387,388,416,446,
516,527,下115,217,439,449,476,484

○杉田玄端（玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取）令息武夫人よし

上67,123,125,126,149,165,184,195,294,330,
368,370,375,387,404,424,445,446,466,497,
527,下46,115,116,217,241,285,286,287,
361,364,371,372,373,374,375,376,429,484

○杉田玄端（玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取）令息武令嬢かしく

下115,116,217,241,285,286,287,323

○杉田玄端（玄白猶子・元外国奉行支配翻訳御用頭取）令母

上67,124,165,304,368,370,下217,286,406,429

杉田玄白

下406

○杉田（元良）勇次郎（津田 仙《学農社農学校開設者》弟子） 下224,346,350,351

○スクーンメーカー,ドーラ,E.嬢（女子小学校設立者・宣教師） 上34,190,下392

○スコット,マリオン,M.（東京師範学校教頭・教科書編集事業従事）

上213,300,435,下87

○スコット,マリオン,M.（東京師範学校教頭・教科書編集事業従事）夫人 上435,下87

○スコット（宣教師） 下516

○函師民嘉（村田一郎従兄弟） 下48,58

○鈴木（同人社） 下27

○鈴木夫人 下222

○須田 上341,342

スチュアート,アレグザンダー,T.

上201,202

○スティーヴンズ,ダーラム,W.（美国公使館書記官） 上276,279,432

○スティーヴンズ,メアリー 下196

ストウ夫人

上391

ストルーヴェ（日本駐在露国公使）夫人

下410

○スペンサー,マチルダ,A.嬢（海岸女学校・東京英和女学校〈聖書・英語・音楽〉教
師・宣教師） 下195,392,393,394

○すみ——→○さかや（？）すみ

- スミウラ,E. 上102,103
- スミス,エラスムス・ペシャイン (外務省万国公法顧問) 上207,208,213,214,517
- スミス,エラスムス・ペシャイン (外務省万国公法顧問) 夫人 上152,207,208,213
- スミス,ロバート,ヘンリー (開成学校・東京大学〈機械工学〉教師) 上545,553
- スミス 下339

セ

- セアラ (ホイットニー,クララ叔母) → ○モクリッチ,セアラ
- セイ → ○疋田正善三男静守
- 静寛院宮 (和宮親子内親王) 上414,415,417,486,下146,371
- セイキチ (ホイットニー家使用人) 上63,106,141,151,170,208,211,212,222,226,
233,255,274,336,354,355,362,378,379,381
- セイキチ (ホイットニー家使用人) 夫人 → ○ウメ
- せき (勝家使用人) 上301,490,524,533,555,589,下23,27
100,106,113,116,119,120,153,156
- セキ → ○カネ (ホイットニー家使用人) 夫人セキ
- 千田嘉吉 上300
- 千田嘉吉令胤 (千田貞暁) 上300
- 千田嘉吉令母 上300

ソ

- 壮次郎 → ○横山壮次郎
- 相馬永胤 下411
- ソクラテス 上427,547,548
- ソーパー,ユリアス (耕教学舎設立者・宣教師) 上34,52,109,281,下111,
238,284,375,392,412
- ソーパー,ユリアス (耕教学舎設立者・宣教師) 夫人 上34,52,281,292,下373,393,394

ソロモン

上53,下127,201,325

タ

- ダイアー (ダイエル) ,ヘンリー (工部大学校教頭兼〈土木・機械工学〉教師)
下74,88
- ダイアー (ダイエル) ,ヘンリー (工部大学校教頭兼〈土木・機械工学〉教師) 夫人
上531,下78,88,181,243,343,344
- ダイヴァーズ,エドワード (工部大学校・東京大学〈化学〉教師・アジア協会会長)
上570,596,下243
- ダイヴァーズ,エドワード (工部大学校・東京大学〈化学〉教師・アジア協会会長) 夫
人 上494,531,570,下58,61,67,211,243
- ダイヴァーズ,エドワード (工部大学校・東京大学〈化学〉教師・アジア協会会長) 令
嬢イーディス 上471,534,596,下58
- ダイヴァーズ,エドワード (工部大学校・東京大学〈化学〉教師・アジア協会会長) 令
嬢エラ 上534,下58
- ダイヴァーズ,エドワード (工部大学校・東京大学〈化学〉教師・アジア協会会長) 令
息フレッド 上534,535,596
- タイコウ (豊臣秀吉) 上391
- タイラー,セアラ (朽木綱鑑夫人) 下69,70
- ダーウィン 下184
- たか (勝家使用人) 下23
- たか——→○中村正直 (同人社女学校主) 養女たか子 (洗礼名バーサ)
- 高木 (軍人) 夫人 下354
- 高木三郎 下125,128,135,233,234,242,435
- 高木三郎夫人 下125,135,233,234,282,435
- 高木貞作 (商法講習所助教) 上43,47,59,75,101,102,104,107,137,150,172,
181,191,192,225,288,289,290,300,301,348,
385,389,396,397,500,503,504,509,510,511,
514,524,528,531,537,541,596,下120,123,419

| | |
|----------------------------|--|
| ○高木貞作（商法講習所助教）夫人 | 上290,300,301 |
| ○高木貞作（商法講習所助教）令母 | 上225 |
| ○高橋夫人 | 下386 |
| 瀧（商人・山田長政随伴者） | 下131 |
| ○滝村鶴雄 | 上260,274,294,295,307,308,320,323,326,329, 341,346,366,368,369,375,377,378,389,390, 427,445,498,499,下17,35,51,52,84,85,86, 100,102,121,136,167,176,179,180,206,380 |
| ○滝村鶴雄夫人 | 上308,498 |
| ○滝村鶴雄令嬢こまつ | 上260,266,269,271,308,309,347,369,370,489, 490,498,下23,116,129,321,406,417,425,539 |
| ○滝村鶴雄令息武夫 | 上309,369,490,498,下23,116,391,438,448,449 |
| ○滝村鶴雄令嬢すみ | 上309,499 |
| ○滝村鶴雄令嬢はた | 上309,499 |
| ○滝村鶴雄令嬢しげ | 上499 |
| ○滝村鶴雄令弟小松 | 上260,下420 |
| ○滝村鶴雄令母 | 上308,498,下415,416,417,419 |
| ○ダグラス夫人 | 上399,400,469,472,586,下18 |
| ○ダグラス,ショルト（牧師） | 上55,56 |
| ○タケ——→○シュウ（ホイットニー家使用人）夫人タケ | |
| ○竹下寅吉 | 上449,470,532 |
| ○竹下寅吉令妹 | 上449,451 |
| ○竹次郎（タケ）（ホイットニー家車夫） | 下240,284,345,367,370 |
| 建宮敬仁親王 | 下47,221,372 |
| 武衡——→清原武衡 | |
| ○竹村謹吾 | 上323,324,325,328,329,332,341,342,374,376,377 |
| ○田中（勝家家扶） | 下129,141,142,160,161,162,163,165,170,180,187, 193,214,215,222,247,283,285,345,350,376,383,387 |
| ○田中不二麿（文部大輔） | 下46,121,144,233,234, 260,268,323,324,356 |

- 田中不二麿（文部大輔）夫人スマ 下233,234,260,311,323,324,370
- 田辺 上135
- 種田誠一 上371,425,450,451,下135
- 種田誠一夫人 上425,449,450,451
- ダビデ 上53,下325,378
- タミ（富田家使用人） 下405
- 田宮アイソウ 上366,368,375
- タムソン,ダヴィッド（東京一致神学校教師・宣教師） 上34,432,460,532,下123,238
- タムソン,ダヴィッド（東京一致神学校教師・宣教師）夫人メアリー（B六番女学校教師） 上34,下28
- 田安公——→○徳川達孝（徳川家達令弟）
- ターリング,チャールス, J.（東京大学〈英国法〉教師）
下89,90,105,122,213,229,345,346,379
- ダン（音楽家） 上335
- 團 琢磨 下213
- チ**
- チェディスター,メアリー 下68,196
- チェンバレン（医療宣教師） 下37
- チェンバレン,バジル,H.（東京大学〈言語学・日本語〉教師） 下174,216
- チカラ——→大石主税
- チャプリン,ウィンフィールド,S.（開成学校・東京大学〈土木工学〉教師）
上380,433,434,435,436
- チャプリン,ウィンフィールド,S.（開成学校・東京大学〈土木工学〉教師）夫人
上380
- チャールズ夫人（『キリスト教国の婦人』著者） 下541,542
- チャン,ウィン 下334
- チュー,リン公使 上419
- チヨ（ホイットニー家使用人） 上518,539,551

| | |
|--------------------|----------|
| ちょう | 下352 |
| ○長次 | 下536 |
| ○朝鮮公使（皇太子令息〈具名不詳〉） | 下488,489 |
| ○朝鮮副公使（宰相令息〈具名不詳〉） | 下488 |
| 朝鮮皇太子 | 下488 |
| ○朝鮮代理公使 | 下492 |

ツ

| | |
|------------------------------|---|
| ○津田（月琴師匠） | 上541 |
| ○津田（月琴師匠）長女お春 | 上541 |
| ○津田（月琴師匠）次女おしげ | 上541 |
| ○津田 仙（学農社農学校開設者） | 上177,187,188,189,190,191,193,200,246,272,314, 566,568,下17,30,31,51,108,110,151,160,161,162, 170,171,181,182,183,191,192,202,203,204,214, 224,229,230,231,232,234,235,242,274,277,286, 288,302,304,311,345,346,348,349,350,356,361, 362,380,381,419,420,474,481,512,513,514,515,516 |
| ○津田 仙（学農社農学校開設者）夫人 | 上188,380,529,下170,191,429 |
| ○津田 仙（学農社農学校開設者）長女琴（上野栄三郎夫人） | 上449,下116,500,512 |
| ○津田 仙（学農社農学校開設者）次女梅子 | 上191,下499,500,534 |
| ○津田 仙（学農社農学校開設者）三女ふき子 | 下170,361 |
| ○津田 仙（学農社農学校開設者）養女 | 上188 |
| ○津田 仙（学農社農学校開設者）子息〈赤子〉 | 上188 |
| ○津田 仙（学農社農学校開設者）子女メアリー〈赤子〉 | 下17 |
| ○ツネ（富田家使用人） | 上469,下405 |
| ○鶴（ホイットニー家使用人） | 上430,431 |
| 鶴（ホイットニー家使用人）令厳 | 上430 |

テ

- テイ (ホイットニー家使用人) 上212,224,273,274,293,366,
378,381,382,385,394,395,下328
- ディアポーン,キャリー 上312
- デイヴィッドソン,ロバート,Y. (聖書翻訳事業従事者・宣教師)
上263,282,598,下93,262,345,397
- ディクソン,ウィリアム,G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師)
上463,468,478,481,529,531,535,536,541,544,545,
546,547,548,549,552,553,562,563,564,565,566,567,
570,571,572,573,574,575,583,584,585,594,596,下17,
37,41,44,46,48,51,52,53,54,55,56,57,59,60,61,62,65,
72,77,83,89,90,94,95,105,106,108,109,117,121,122,
123,129,130,135,137,138,146,160,173,176,181,191,
200,201,206,214,224,230,231,234,235,236,240,241,
244,246,257,263,304,320,321,325,329,337,338,342,
344,345,350,351,353,354,356,357,359,376,379,385,
386,387,388,389,390,393,396,397,400,401,402,405,
406,409,411,412,413,414,415,421,428,429,433,487
- ディクソン,ウィリアム,G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師) 令弟ディクソン,ジェームス,M.ジェイミー (工部大学校〈英語・英文学〉教師)
下337,338,342,345,351,352,353,357,359,
360,376,377,379,385,387,388,389,390,
391,392,402,405,406,409,410,414,433
- ディクソン,ウィリアム,G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師) 令姉 下385
- ディクソン,ウィリアム,G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師) 令妹 上545,下469
- ディクソン,ウィリアム,G. (工部大学校〈英語・英文学〉教師) 令母
上545,下342,385,397
- ティクナー 下144
- ティクナー令嬢 下184,197,245,378
- ティクナー,ベル 上248

| | |
|---------------------------|---|
| ディケンズ | 上563 |
| ○デイモン,サムエル,C. | 下541,542 |
| ○デイモン,サムエル,C.夫人 | 下541 |
| ○ディヤリング | 下274,282 |
| ティルデン知事 | 上277 |
| テニソン | 下213 |
| ○デニソン,ヘンリー,W. (神奈川領事・弁護士) | 下247 |
| ○デニング領事夫人 | 下269 |
| デュルンドルフ伯爵夫人 | 下549 |
| 寺島宗則 | 上368,下29,83,296 |
| ○テリー夫人 | 下500 |
| ○テル (富田家使用人) | 下405 |
| テル (富田家使用人) 令巖 | 下405 |
| ○てる | 下158 |
| ○伝吉 (大丸番頭) | 上476,477 |
| ○天皇陛下 (明治天皇) | 上52,74,75,77,79,80,137,182,189,194,195,196, 197,198,199,202,265,362,363,394,402,415,432, 433,434,435,436,457,590,下30,32,34,35,36,37, 63,96,102,147,198,209,221,228,264,303,304,305, 306,308,316,361,370,395,500,521,523,524,549 |

ト

| | |
|------------------------------|---|
| 德国公使 (カール,フォン・アイゼンデッシャー弁理公使) | 上432 |
| トウェイン,マーク (『イノセンツ・アブロード』著者) | 上204,下210 |
| ○東儀季熙 | 下137,138,179 |
| トウノウザワ | 上382 |
| トキエモン | 下216 |
| ○とく | 下159 |
| ○徳川家達 (徳川宗家一六代) | 上274,292,293,294,296,322,323,325,327,328, |

- 329,341,342,368,369,370,371,373,374,375,
376,377,378,414,417,418,下115,355,522
- 徳川家光（徳川三代将軍） 下412
- 徳川家茂（徳川一四代将軍） 上415,457,下146,275,301
- 徳川家康（徳川初代将軍） 上240,下326
- 徳川達孝（徳川家達令弟田安公） 上418,446,493,下115,380,390,391,422
- 徳川慶喜（徳川一五代将軍） 上325,457,下32,291,292
- 徳川慶喜（徳川一五代将軍）夫人 下16
- トシ（ホイットニー家使用人） 上467,474
- ドーニッツ,ウィルヘルム 下68,233
- ド・ボワンヴィル,アルフレッド,C.（工学寮教官・建築家）
上192,424,426,下16,101,105,167,188,236,237,258,332
- ド・ボワンヴィル,アルフレッド,C.（工学寮教官・建築家）夫人
上144,192,252,287,331,424,444,460,468,491,497,
516,529,543,下16,34,45,48,49,56,57,58,86,88,89,
92,94,96,101,105,108,110,132,139,141,167,168,
169,172,173,176,180,181,188,189,190,191,194,
199,200,236,237,243,244,261,262,274,332,333
- ド・ボワンヴィル,アルフレッド,C.（工学寮教官・建築家）令嬢マリー
上444,534,下87,101,173,180,188,189,191,330,331
- ド・ボワンヴィル,アルフレッド,C.（工学寮教官・建築家）令息チャーリー
下49,110,330
- 富田鉄之助（第二代日銀総裁） 上34,41,63,83,92,133,172,241,247,250,253,259,264,
272,285,286,287,296,307,311,340,345,366,368,440,
446,447,451,453,457,458,491,502,524,536,537,538,
550,556,561,566,588,594,596,下24,26,30,46,47,48,
50,55,64,100,108,109,121,134,140,146,342,406
- 富田鉄之助（第二代日銀総裁）夫人縫 上34,52,61,63,64,65,66,68,70,71,72,76,78,83,
85,88,89,92,96,97,103,107,110,114,115,116,
118,119,120,123,125,130,131,138,141,143,

144,148,149,151,154,155,156,158,159,160,
162,163,164,166,170,174,175,176,177,178,
180,181,183,185,187,188,191,192,194,199,
204,205,207,208,211,220,224,225,226,228,
230,233,234,239,241,243,246,247,249,250,
251,253,255,262,263,272,280,285,286,288,
292,307,311,330,332,333,337,348,366,367,
368,375,380,401,407,408,415,419,426,443,
445,458,469,491,529,537,570,582,下25,32,55,
66,87,89,109,115,116,125,141,146,152,187,
217,225,234,242,282,358,360,364,371,372,
373,396,403,405,407,408,411,415,417,437

- 富田鉄之助（第二代日銀総裁）令息真男 下109,146,152,217,282,405,437
○富田鉄之助（第二代日銀総裁）令姉 下443
○富田鉄之助（第二代日銀総裁）夫人叔母 上66,163
○富田鉄之助（第二代日銀総裁）夫人従姉妹 上163
○とよ（勝家使用人） 下536
○ドーラ（ホイットニー,クララ姻戚） 上115,151,248,下383
○トルー,マリア,T.P.夫人（新栄・桜井両女学校教師・宣教師）
上224,228,307,367,371,473,564,下65,101,
123,239,459,462,463,464,465,466,467,487
○トルー,マリア,T.P.夫人（新栄・桜井両女学校教師・宣教師）令嬢アニー
上224,317,531
土耳其皇帝（ミトハト=パシャ,ムラート五世） 上202

ナ

- 中浦先生 上541
中川 上561
○中島信行（前神奈川県令・元老院議員） 上170,198,下161,170,214

- 中原国三郎（銀行家） 上41,43,45,46,47,48,49,59,68,93,96,97,98,99,100,102,
103,104,105,106,110,113,114,116,118,134,137,138,
147,148,151,152,159,170,177,178,179,180,182,183,
184,186,187,191,193,194,205,206,228,230,231,
232,252,262,277,280,307,320,340,下18,25,122
- 中原国三郎（銀行家） 令妹すえ 上151,182,183,186
- 中原国三郎（銀行家） 令母 上151,182,183,186
- 中村カズトモ 下27,28
- 中村太郎（参議兼内務卿大久保利通乗用馬車馭者） 上560
- 中村博愛（意大利国公使館秘書） 上562,下11
- 中村正直（同人社女学校主） 上346,598,下25,27,28,108,170,201,
202,203,204,205,215,231,310,311
- 中村正直（同人社女学校主） 夫人鉄子 上598,下102,108,109,197,232
- 中村正直（同人社女学校主） 養子一吉（？） 上598,下25,27,28
- 中村正直（同人社女学校主） 養女たか子（洗礼名バーサ）
下102,108,109,110,215,216,232
- 中村正直（同人社女学校主） 若夫人 下224,225
- 中山忠能（准大臣・明治天皇令母中山慶子令厳） 上590
- 鍋島直大（元佐賀藩主・元老院議官） 下268,315,522
- 鍋島直大（元佐賀藩主・元老院議官） 夫人 下260
- ナポレオン,ボナパルト 1 世 下202
- ナポレオン,チャールス・ルイス 3 世 下242
- ナポレオン公（ナポレオン,チャールス・ルイス 3 世令息） 下242
- 成瀬隆蔵（講習所第一回卒業生） 上160,218,219,319,335,420,423,552
- 成瀬隆蔵令厳——→○川村順次郎（幕臣）
- 南部栄信（陸奥八戸藩主南部信順令息） 上353,386

二

- 新島 襄（同志社女学校設立者） 下368,383,474,475

| | |
|---------------|--------------------------|
| ○ニコルズ夫人 | 上307 |
| 西 寛二郎 | 下546,547 |
| ○西 寛二郎夫人 | 下502,505,506,507,546,547 |
| ○西 寛二郎夫人令母 | 下505,506 |
| ○西田伝助 | 上389,487,下381 |
| ○西田伝助夫人 | 上488 |
| ○西田伝助所生子 (赤子) | 上488 |
| 西村 | 下352 |
| ○新田タキジロウ | 上263,264,335,540 |
| ニューウェル,ハリエット | 上388 |

ノ

| | |
|-------------------------|----------|
| ノイツ,ピーター | 下131 |
| ○乃木 | 下302 |
| ○ノックス,ジョージ,W. (神学者・宣教師) | 下237,238 |
| ノルデンシエルド,ニリス,A.E. | 下326 |

ハ

| | |
|---|-----------------------------------|
| バー,ウィリアム | 下123 |
| バアル | 上117 |
| ○パイパー,ジョン (日本聖公会祈禱書翻訳委員・宣教師) | 上123,170,250 |
| ○パイパー,ジョン (日本聖公会祈禱書翻訳委員・宣教師) 夫人メアリー | 上123,188,480,563,564,下108,365,366 |
| ハウ (『英文法七時間学習法』 著者) | 上90 |
| ハーヴィット | 下68 |
| パウエル,メアリ | 上431 |
| ハウス,エドワード,H. (開成学校・東京大学〈英語〉教師・英字新聞 Tokyo Times 発刊者) | 下392,394 |

| | |
|---|---|
| ○ハウディ | 上337 |
| パウロ | 上460 |
| ハガル (アブラハム妻妾) | 下169 |
| ○パークス,ハリー,S. (日本駐在英國全權公使) | 上424,432,下131,274,296,316,364,469 |
| ○パークス,ハリー,S. (日本駐在英國全權公使) 夫人 | 上264,292,345,424,550,下57,59,61,179,363,364 |
| ○パークス,ハリー,S. (日本駐在英國全權公使) 令嬢ミニー | 上152,508,下442,447,469 |
| ○ハコダテ屋 (銀座骨董店主) | 上512 |
| ○バーサ (たか) ——→○中村正直 (同人社女学校主) 養女たか子 (洗礼名バーサ) | |
| ハースバーガー嬢 | 上247 |
| ○パーソン,ウィリアム,エドウィン (東京開成学校・東京大学〈数学・理学〉教師) | 上109,145,213,529,574,584 |
| ○パーソン,ウィリアム,エドウィン (東京開成学校・東京大学〈数学・理学〉教師) 夫人 | 上145,213 |
| ○羽田 | 下80,81 |
| パターソン——→ボナパルト夫人 (パターソン) | |
| ○バachelダー | 上213,405 |
| ○バachelダー夫人 | 上136,下377,395 |
| ○バachelダー令息ジョージ | 上213,214,216,544,下49,65,78,97,144,153,170,221 |
| ハチマン——→応神天皇 | |
| ○ハツ | 上227,409,410,411,413 |
| はつ | 下251 |
| バックル,アラベル (『科学の世界』著者) | 下245 |
| パットナム将軍 | 上98 |
| 服部潜蔵 (?) | 下198 |
| ○服部嬢 | 下225 |
| ハート (『作文法』著者) | 上277 |
| ○バード (在横浜薬店主) | 下544 |
| ○バード,イサベラ,L. (女性旅行家・邦訳『日本奥地紀行』著者) | 上553,下57,59 |

| | |
|---|--|
| ○ハドソン | 上473 |
| はな | 下255 |
| ○ハパー,アンドリュー,P. | 下541,545,546 |
| ○ハパー,アンドリュー,P.夫人 | 下545 |
| ハパー,アンドリュー,P.令嬢メアリ | 下541 |
| ○ハバード夫人 | 上442,480 |
| ○ハバード夫人令嬢 | 上442 |
| バビット,メアリ | 下233 |
| ○ハフェンデン | 上564,570 |
| 浜田弥兵衛 | 下131 |
| ○ハミルトン,ケイツ | 上225 |
| ○ハミルトン,ジョン (福祉事業指導者・宣教師) | 上259,322 |
| ○林 (村田一郎令嬢) | 上386,387,下234 |
| ○林 (村田一郎令嬢) 夫人 | 上387 |
| ○林 (村田一郎令嬢) 令息恒五郎 | 上446,468,500,537, 下12,13,46,115,149,419 |
| ○林 広守 (作曲家) | 下176 |
| ○原 宗作 | 上454 |
| ○原 胤昭 (十字屋) | 上340 |
| ○バラ,ジェームス,H. (バラ学校開設者・宣教師) | 上57,259,下479 |
| ○バラ,ジェームス,H. (バラ学校開設者・宣教師) 夫人マーガレット,T.K. | 上57,581,582,下386 |
| ○バラ,ジェームス,H. (バラ学校開設者・宣教師) 令息オーランド,ベントン——→○オーランド,ベントン (バラ,ジェームス,H. (バラ学校開設者・宣教師) 夫人マーガレット,T.K.令息) | |
| ○バラ,ジョン,クライグ,B. (バラ,ジェームス,H. (バラ学校開設者・宣教師) 令弟・築地 大学校校長) 夫人 | 上344,345 |
| ○ハラカワ | 上408 |
| ○原田虎三 | 上227 |
| バラム | 下224 |

| | |
|---|----------------------------------|
| バランタイン | 上246 |
| ○ハリス,メリーマン,C.(東京英和学校教師・宣教師) | 下238,282,375,512,513,514 |
| ハリス,メリーマン,C.(東京英和学校教師・宣教師)夫人 | 下373,375 |
| ○はる(給仕女) | 上301 |
| ○ハル(ホイットニー家使用人,金太郎夫人) | 下278,280,294,300,398,443,444,445 |
| ○パーレー(『万国史』著者) | 下449 |
| ○夏威夷公使(カーティス,ピイエィニュー,ラウケアー(日本駐在特命全権公使)) | 下522 |
| ○ハワード | 上316,515,516 |

ヒ

| | |
|-----------------------------------|---|
| 東伏見宮依仁親王 | 上368,下51,121 |
| 東伏見宮依仁親王妃周子 | 下51 |
| ○疋田正善 | 上219,347,391,446,559,587,588,589,596, 下24,46,91,100,120,129,141,142,165 |
| ○疋田正善夫人(勝安芳《海舟・安房守》次女孝子《小太郎》) | 上120,247,248,249,270,316,317,334,347,376,519,下116, 145,177,240,253,277,287,288,298,337,358,375,380,432, 436,440,445,466,468,472,482,484,510,532,536,537 |
| ○疋田正善長女輝子 | 上330,369,370,446,556,下116,120,213,406,436,446 |
| ○疋田正善長男玄龜 | 上249,317,349,369,370,556,558,596,下107, 120,352,380,401,422,423,439,440,476,501 |
| ○疋田正善次男保爾 | 上248,249,317,下116,150,352,422,446,508,509 |
| ○疋田正善三男静守 | 下145,352,439,440 |
| ○疋田正善四男彰爾 | 下449 |
| ○ひさ | 下164 |
| ピーター | 上566 |
| 左甚五郎 | 下154 |
| ビーチズ嬢 | 下211 |
| ○ピットマン,フローレンス,R.(立教女学院教師・同校長・宣教師) | |

| | |
|---|---|
| | 下45,57,89,90,199,200,216 |
| 一橋公 (慶頼) | 上357 |
| ヒーマンズ,フェリシア | 上563 |
| ヒューイット | 上519 |
| 平井権八 | 上538 |
| ○ヒル | 上500,501,505 |
| ヒル (『修辞法の原理』 著者) | 下245 |
| ○ピールズ夫人 | 下183,245 |
| ○ヒロ (ホイットニー一家使用人) | 上34,52,60,63,72,161,224 |
| ○広瀬秀雄 (森 有礼夫人阿常令殿) | 上110,下356 |
| ○ヒロセイ (広瀬カ) ,フク嬢 | 下314 |
| ○ビンガム,ジョン,A. (日本駐在美国全権公使) | 上77,139,153,154,169,187,210,213,259,276,423,429, 432,433,448,465,519,532,539,548,下11,58,59,70,71, 221,232,233,240,243,247,248,249,259,260,269,284, 296,314,319,364,447,476,521,522,523,524,547,548 |
| ○ビンガム,ジョン,A. (日本駐在美国全権公使) 夫人 | 上77,136,138,153,169,177,187,241,243,264,276, 277,292,297,320,339,380,429,443,447,448,452, 453,465,489,518,549,592,下11,46,58,59,60,70, 71,221,233,240,241,248,256,258,295,296,298, 319,363,364,447,476,498,521,523,524,544,548 |
| ○ビンガム,ジョン,A. (日本駐在美国全権公使) 令嬢ルーシー——→○フレイジャー,フレッド夫人 (ビンガム,ジョン,A. (日本駐在美国全権公使) 令嬢ルーシー) | |
| ○ビンガム,ジョン,A. (日本駐在美国全権公使) 令嬢メアリ | 上187,227,297 |
| ○ビンガム,ジョン,A. (日本駐在美国全権公使) 令嬢エマ | 上213,297,429,465,下46,59,221,233,247, 258,259,269,311,314,379,521,525,548 |

フ

- フィッツジェラルド夫人 下68,183,369,378,382
 フィンガル 下201
 フェ伯爵 下410
- フェノロサ,アーネスト,F. (東京大学〈哲学〉教師・文部省美術取調委員) 下304,485,486
- フェノロサ,アーネスト,F. (東京大学〈哲学〉教師・文部省美術取調委員) 夫人リジ
 イ,グッドヒュー,M. 下61,87,173,187,237,304,
 368,385,436,485,500
- フェントン,ジョン,W. (海軍軍楽隊指導者・初代「君が代」作曲者) 上258,下259
- フェントン,ジョン,W. (海軍軍楽隊指導者・初代「君が代」作曲者) 夫人 上258,312
- フェントン,ジョン,W. (海軍軍楽隊指導者・初代「君が代」作曲者) 令嬢ジェシー
 上213,214,250,257,258,315,337,339
- フォールズ,ヘンリー (築地訓盲院創設者・医療宣教師) 下257
- フォンタネージ,アントニオ (工部大学校〈美術〉教師) 下131
- 深沢勝興 (?) 上225,551,下356
- ふき——→○津田 仙 (学農社農学校開設者) 三女ふき子
- 福沢諭吉 (慶應義塾創設者) 上52,59,60,78,103,128,272,332,402,431,488,
 491,522,530,592,593,下25,125,310,311,396
- 福沢諭吉 (慶應義塾創設者) 夫人錦 上78,488,490,530,592,下25
- 福沢諭吉 (慶應義塾創設者) 長女サン 上490
- 福沢諭吉 (慶應義塾創設者) 次女ふさ 上78
- 福地桜痴 (東京府議会議長) 下305
- 福与 下121
- フーケ (『アンディーン』著者) 上454
- フジ (ホイットニー家使用人) 下72,83
- 藤沢 上338
- 藤島常興 (測量器械製造家) 下166,224,240,277,345,346,347,
 348,349,350,354,366,415,436,442
- 二見朝隈 (二見写真館主) 下17

| | |
|--|--|
| ○フッカー (『自然の本』著者) | 上557 |
| ○ブッケマ (陸軍軍医療病院医師) 夫人 | 下243,244,311,312 |
| ○ふゆ | 下158 |
| ブライトン,バーティ | 上312 |
| ○プライン,メリー,P.夫人 (アメリカン,ミッション,スクール開設者・宣教師) | 上54,57 |
| ○ブラウア夫人 | 下190 |
| ○ブラウアズ,トム | 上580 |
| ○ブラウン | 上552 |
| ○ブラウン,サムエル,R. (私立神学校ブラウン塾開設者・宣教師) | 上539,550,577,下365 |
| ○ブラウン,サムエル,R. (私立神学校ブラウン塾開設者・宣教師) 令嬢ハティー | 上579 |
| ○ブラウン,サムエル,R. (私立神学校ブラウン塾開設者・宣教師) 令嬢メイ | 下151 |
| ○ブラウン,サムエル,R. (私立神学校ブラウン塾開設者・宣教師) 令嬢アニー | 上57,228,304,531,576,578,579,580,下151,152,281 |
| フランクリン,ベンジャミン (独立宣言起草委員・避雷針発明者) | 下202 |
| ○ブランシェ,クレメント,T. (立教女学院教師・宣教師) | 上176,281,282,下393 |
| ○ブランシェ,クレメント,T. (立教女学院教師・宣教師) 夫人 | 下87,93,139,300 |
| ○仏国公使 (ロウイス,ジェオフロイ特命全権公使) | 上432 |
| ブリス | 上335 |
| ○ブリーズ,ジェームズ | 上385 |
| ブリテン嬢 | 下515 |
| ○ブリンドリー,フランシス | 上500,505 |
| ○ブリンドリー,フランシス夫人 | 上500,502,下72 |
| ○ブリンドリー,フランシス令息フレッド | 下170 |
| ○ブルース | 下70 |
| ブルース (在フィラデルフィア新聞編集・発行者) | 上380,下183 |
| ○ブルック,マーベル嬢 | 上228,580 |
| ○ブレイディ (オーシャニック号船医) | 下332 |
| ○フレイジャー,フレッド (ピンガム,ジョン,A. (日本駐在美国全権公使) 娘婿) | 下221,240,241,256,257,258,298 |

- フレイジャー,フレッド夫人 (ピンガム,ジョン,A.《日本駐在美国全権公使》令嬢ルーシー) 下58,59,60,241,247,295
- フレイジャー,フレッド (ピンガム,ジョン,A.《日本駐在美国全権公使》娘婿) 令嬢ジェシー 下221,298,364,383
- フレイジャー,フレッド (ピンガム,ジョン,A.《日本駐在美国全権公使》娘婿) 令息ハリリー 下221
- フレッド——→○ダイヴァーズ,エドワード (工部大学校・東京大学〈化学〉教師・アジア協会会長) 令息フレッド
- フレッド大佐——→○グラント,ユリシーズ,S. (元美国大統領・北軍総司令官) 令息フレッド

へ

- ヘイズ,ラザーフォンド (元美国大統領) 下296
- ヘイズ,ラザーフォンド (元美国大統領) 夫人 下248
- ペイトン (工部大学校関係者) 下200,201,321,322,325,401,428
- 平兵衛 (村田家使用人) 上429,440,448,456,502
- ベイリー,チャールス,W. (海軍兵学校教官) 下198,199,221
- ベイリー,チャールス,W. (海軍兵学校教官) 夫人 下105,144,157,198,213,221
- ベイリー,チャールス,W. (海軍兵学校教官) 令嬢リリー 下144,169,213
- ベイリー,チャールス,W. (海軍兵学校教官) 令嬢コニー 下144
- ベイリー,チャールス,W. (海軍兵学校教官) 令嬢メイベル 下144
- ベイリー,チャールス,W. (海軍兵学校教官) 令嬢アーネスト 下144
- ベイリー,バックワース (横浜英国領事館付牧師) 下387
- ヘイワード 下274,282
- ベインブリッジ 下160,175
- ベインブリッジ夫人 下174,175
- ベッシー (ホイットニー,クララ姻戚) 上151,248,下383
- ヘップバン (ヘボン),ジェームス,C. (『和英語林集成』編纂者・「ヘボン式ローマ字綴り方」考案者・宣教師) 上55,56,57,227,251,409,410,411,412,441,

454,480,576,579,580,下17,18,158,173,190,

223,237,238,247,249,281,365,366,381,385,386,409

○ヘップバン (ヘボン) ,ジェームス,C. (『和英語林集成』編纂者・「ヘボン式ローマ字綴り方」考案者・宣教師) 夫人クララ,メリー

上55,56,57,120,152,227,228,251,304,305,368,

409,410,412,413,414,441,442,541,576,579,580,

583,下14,18,64,65,91,158,169,171,172,173,190,

192,222,236,237,238,247,259,281,364,365,

366,381,385,386,387,409,410,480,492,531

○ヘップバン (ヘボン) ,ジェームス,C. (『和英語林集成』編纂者・「ヘボン式ローマ字綴り方」考案者・宣教師) 令息サム (エル) ,デビッド,ヘップバン夫人

上279,368,下18

ヘップバン (ヘボン) ,ジェームス,C. (『和英語林集成』編纂者・「ヘボン式ローマ字綴り方」考案者・宣教師) 夫人クララ,メリー令母

上251

○ペティ——→○ホイットニー,アンナ,L. (クララ令母愛称)

下456

ペテロ

上403,481

○ベトン

下105

○ベトン夫人

下105

○ベネット,アルバート,A. (バプティスト教会牧師)

下433

○ペリー嬢

上345

ヘリヤ

下14,394

○ペール (横浜コーヒー店主)

上528

○ベルツ,エルウィン (東京医学校・東京大学医学部教師)

下192,193,241,460,462,526

○ヘルム,アドルフ (開成学校・官立外国語学校〈ドイツ語〉教師)

下329,330,339

○ベンジャミン (ベルジック号船員)

下382

○ヘンダーソン

上57

ヘンリー,パトリック (初代バージニア州知事・弁護士)

上115

ホ

○ホア,アリス,E.嬢

上430,431,下123,215,245,

246,263,279,387,392,414,421

○ボアソナード,グスタブ,エミリ (太政官法制局御用掛) 夫人 下442

○ボアソナード,グスタブ,エミリ (太政官法制局御用掛) 令嬢 下442,547

○ホイットニー,ウィリアム,C. (クララ令厳)

上32,51,63,64,75,80,104,106,174,181,193,200,201,204,
212,220,221,225,226,228,230,248,259,291,300,317,
319,333,341,366,390,392,412,414,420,425,445,446,
470,475,496,500,501,508,549,551,552,553,562,567,
568,596,597,下19,27,33,39,41,43,63,67,68,70,176,206,
247,263,279,280,378,379,380,381,382,396,453,480,484

○ホイットニー,ウィリアム,C.夫人アンナ,L. (クララ令母 〈愛称ペティ,ラヴィ〉)

上32,34,35,36,37,39,41,43,45,48,51,54,57,58,60,63,65,
71,77,80,82,83,85,92,93,96,97,101,103,106,109,110,
111,114,115,116,118,119,121,123,125,127,130,134,
137,140,141,144,145,146,148,149,150,151,152,153,
154,156,158,160,161,164,170,172,173,174,176,181,
183,184,185,186,188,191,192,200,201,202,204,205,
207,210,211,212,213,218,220,222,224,226,228,230,
233,234,235,241,242,243,244,246,247,248,249,250,
251,252,253,254,257,258,259,260,263,265,266,272,
278,279,280,283,285,286,288,291,292,297,302,303,
304,305,307,308,309,310,311,314,315,316,317,319,
320,321,322,323,324,327,329,331,332,333,335,336,
337,341,342,343,344,345,346,347,349,353,354,356,
361,363,364,369,371,375,376,379,380,381,382,383,
385,386,390,392,393,394,395,397,398,399,401,405,
408,409,411,412,413,414,415,416,419,420,421,425,
426,427,429,430,431,432,434,438,439,440,441,445,
446,448,455,456,457,458,459,460,461,462,463,464,
465,466,467,468,469,470,471,472,473,474,475,478,

479,480,487,489,491,493,494,497,500,504,508,511,
514,516,517,518,520,524,526,527,528,529,530,531,
532,533,534,536,539,545,547,548,550,551,552,553,
554,556,557,558,561,562,565,566,567,568,569,571,
576,582,584,586,587,591,592,593,596,597,下12,17,
18,20,21,24,27,28,29,33,34,35,37,38,39,41,43,46,48,
56,57,58,62,63,64,65,68,69,70,72,73,74,77,82,83,86,
89,90,91,92,93,94,96,99,101,107,108,110,111,112,
114,116,117,121,122,123,126,130,132,135,136,139,
147,149,150,151,152,153,157,158,159,164,165,167,
168,169,170,172,174,175,176,180,181,182,184,186,
187,188,189,191,192,193,194,197,200,202,203,204,
215,220,221,223,224,227,229,232,233,234,236,237,
240,245,246,247,252,257,258,260,264,267,273,274,
279,285,286,288,293,294,297,300,309,311,312,318,
319,320,323,326,328,329,331,336,337,338,342,345,
349,353,354,356,358,359,361,362,363,364,367,378,
379,382,383,384,387,388,393,403,404,408,409,410,
412,417,419,421,427,430,435,437,438,439,441,442,
443,444,447,451,452,453,454,455,456,457,458,459,
460,461,462,463,464,465,466,467,468,469,470,471,
472,473,475,476,477,478,480,481,482,483,484,
485,486,487,488,489,490,491,493,498,501,502,
503,505,511,520,522,539,540,541,552,553

○ホイットニー,ウィリアム,C.令息ウィリイ (クララ令兄)

上34,43,52,54,57,59,63,65,66,74,75,88,101,102,103,
107,114,115,120,134,141,148,151,161,179,181,186,
194,201,204,205,210,218,222,224,226,228,231,233,
244,245,246,248,250,252,253,254,256,257,259,260,
267,271,283,285,287,290,291,292,295,300,301,317,

319,322,324,327,331,332,333,335,341,342,344,354,
355,356,361,364,375,377,383,386,394,398,407,408,
414,419,420,430,432,434,437,438,440,441,442,445,
446,448,452,454,460,468,469,470,475,485,500,508,
509,511,512,520,523,526,527,528,530,531,536,539,
540,541,545,547,548,550,551,552,553,562,567,568,
571,572,574,576,580,581,584,585,586,591,594,596,
下16,21,23,24,25,38,39,40,42,46,63,64,67,82,94,96,108,
111,112,113,114,116,117,121,122,123,124,125,126,
127,132,136,139,140,146,147,149,150,152,165,169,
190,233,263,273,278,279,280,281,282,284,285,297,
298,309,310,322,325,326,329,332,335,337,338,340,
342,357,361,364,367,373,378,382,389,397,398,401,
402,404,406,413,425,427,431,433,438,444,445,447,
451,452,453,454,460,461,462,463,464,465,466,468,
471,475,476,485,489,492,493,500,504,505,512,515,
517,521,526,536,537,538,542,544,546,547,548,550,551

○ホイットニー,ウィリアム,C.令嬢アデレイド〈アディ〉(クララ令妹)

上32,43,52,54,63,64,77,83,96,105,107,114,115,116,
118,119,120,123,125,130,148,149,151,154,159,162,
173,174,183,185,188,192,200,204,217,218,220,222,
224,233,243,248,249,253,257,258,260,263,265,283,
290,291,296,297,303,317,319,331,332,342,348,349,
354,355,356,357,358,362,363,365,366,375,378,390,
395,396,408,412,413,414,420,423,425,441,445,446,
450,455,459,460,466,467,468,469,471,478,480,486,
489,492,508,515,516,517,524,526,527,531,534,537,
543,553,554,556,558,559,567,571,582,591,593,594,
596,598,下11,17,21,23,25,33,35,44,45,52,56,64,65,72,
82,88,89,93,96,97,99,101,106,107,110,112,120,122,

126,130,132,137,150,157,162,164,167,168,169,172,
177,187,191,194,211,223,234,236,241,245,257,278,
279,286,343,345,355,361,367,378,380,382,383,384,
404,406,420,433,438,440,445,448,453,461,464,
465,466,468,471,476,485,487,492,493,502,
507,512,515,520,531,537,538,539,540

- ホイットニー,リチャード (クララ祖先,メイフラワー号渡航者) 上388
- ホイットニー (クララ祖父) 下19,68
- ホイットニー (クララ祖母) 上391
- ボズ (ホイットニー家車夫) 上355,359,下114,435
- ポート,トーマス,P. (東京英語学校・東京大学予備門〈歴史・哲学〉教師・宣教師)
上576,下94,122
- ホートン,ウィリアム,A. (開成学校・東京大学〈英文学〉教師) 下70,247
- ホートン,ウィリアム,A. (開成学校・東京大学〈英文学〉教師) 夫人
上430,526,546,下70,130,247,262,312,389
- ボナパルト夫人 (パターソン) 下242
- ボナパルト,ジョーゼフ 下242
- ホール,ジョン (肉屋) 上406
- ホルブルック,マリー,J.嬢 (海岸女学校教師・校長) 下93,97,230,394
- ホワイティング,オリーブ嬢 上282,下221,394
- ホワイト,ウィリアム,J. (宣教師) 下97
- ホワイト,ウィリアム,J. (宣教師) 夫人 下111
- 本荘宗秀——→○朽木綱鑑 (元福知山藩主為綱養嗣子)
- ボンステル 下333
- 本田公 (疋田正善令殿) 下120

マ

- マイヤー (マイヤーズ),フレドリック,A. (東京英語学校教師・商法講習所教師)
上515,552,553

- マイヤー,ホイッテン夫人 (『クリスチャン,ウーマン』紙編集・発行者) 上80
- 前島 密 (駅逦総管・勸業局長・元老院議官) 上589,下29
- 前田献吉 (朝鮮《在釜山浦》総領事) 下487,511
- 前田献吉 (朝鮮《在釜山浦》総領事) 夫人 下511
- 前田献吉 (朝鮮《在釜山浦》総領事) 令嬢 下487,500,511
- マギー嬢 上141,248
- 牧山先生 上437,438,440,474
- マクニール,S.B.嬢 (ミッション,ホーム教師・宣教師) 上279,480,563,下133,331
- マクラウド (『古代日本史概要』著者) 上132
- マクラレン,サミュエル,G. (一致神学校教師・宣教師) 上160,460,481,569,570,
584,590,下97,111,133,
150,153,169,170,256,395
- マクラレン,サミュエル,G. (一致神学校教師・宣教師) 夫人 上570,下150
- マクラレン,サミュエル,G. (一致神学校教師・宣教師) 令嬢ブルーシー 上569,下150
- マシソン (在ロンドン) 下541
- マーシャル,ディヴィド,H. (工部大学校《物理学》教師) 上532,545,546,548,566,567,570,571,572,575,582,
596,下149,211,246,304,320,357,360,404,428
- マーシャル,ディヴィド,H. (工部大学校《物理学》教師) 夫人——→○キャンベル嬢
- マツ (ホイットニー家使用人) 上559
- 松方正義 上368
- マッカーティ,ディビィ,B. (開成学校《英語・ラテン語・博物学》教師・宣教師) 上144,244,245,287,339,343,440,441,454,
457,460,469,473,474,537,下45,134,151,
152,164,247,249,279,304,381,394
- マッカーティ,ディビィ,B. (開成学校《英語・ラテン語・博物学》教師・宣教師) 夫人
人ジョアンナ,M. 上144,145,245,277,278,279,311,337,338,440,
452,454,457,465,469,508,523,下14,93,134,
152,163,164,247,304,311,312,369,381,394
- マッカーティ,ディビィ,B. (開成学校《英語・ラテン語・博物学》教師・宣教師) 養

| | |
|--|---|
| 女ユウメイ (メイ) → ○ユウメイ (マッカーティ, ディビィ, B. (開成学校 (英語・ラテン語・博物学) 教師・宣教師) 養女金韻梅 (女医)) | |
| マックブライド, ジョン, A. (東京医科大学教師) | 下340 |
| マックレー | 下282 |
| マックレー夫人 | 下282 |
| ○マックレー令嬢ネッティ | 上57 |
| ○松平確堂 (元美作津山藩主) | 上128,414,417,484,485,下35 |
| ○松平確堂 (元美作津山藩主) 夫人 | 上152,155,156,158,173,175,281,348, 349,445,484,下15,16,107,110,319,402 |
| ○松平確堂 (元美作津山藩主) 令息康倫 → ○松平康倫 | |
| ○松平確堂 (元美作津山藩主) 令息康民 → ○松平康民 | |
| ○松平確堂 (元美作津山藩主) 養女八百子 (やお) | 上128,130,131,132,138,151,152,154,156,159,160, 162,163,170,173,174,194,196,243,262,264,273,280, 283,293,294,306,307,311,330,339,345,348,349,353, 367,370,384,386,396,397,405,414,417,426,444,445, 447,453,475,479,484,485,490,495,508,517,518,520, 537,544,585,589,下14,15,16,25,35,36,49,50,106, 111,112,136,148,174,181,317,319,336,358,402 |
| 松平確堂 (元美作津山藩主) 養女八百子 (やお) 令母 | 上160 |
| ○松平定敬 (定次郎) (元伊勢桑名藩主) | 上72,73,74,132,205,397,408,493,509,510, 511,512,513,514,540,541,542,下115,137, 168,173,182,210,212,231,242,297,411,413 |
| ○松平定敬 (定次郎) (元伊勢桑名藩主) 令室 (第一夫人) | 上74,509,541 |
| ○松平定敬 (定次郎) (元伊勢桑名藩主) 令室 (第二夫人) | 上510,541 |
| ○松平定敬 (定次郎) (元伊勢桑名藩主) 令嬢れい | 上510 |
| ○松平定教 | 上353,386,下136 |
| ○松平康民 | 上483,484,485,下174 |
| ○松平康倫 | 上130,348,353,384,386, 445,453,484,下112,136 |

| | |
|---|--|
| ○マッド | 下521 |
| ○松野夫人 (久良良) | 下102,104 |
| ○松本 | 上263 |
| ○マーティン夫人 | 上527 |
| マニング,チャールス | 下188 |
| ○マーフィー,マイケル | 下398,399,414 |
| マリア | 下384 |
| マルコ | 下345 |
| ○マレイ (モルレイ) ,ディヴィット (文部省学監・教育博物館設立者) | 上300,338,440,574,下121,130,131,134 |
| ○マレイ (モルレイ) ,ディヴィット (文部省学監・教育博物館設立者) 夫人 | 上497,541,547,下99,134 |
| ○マンキチ (ホイットニー家使用人) | 上391,394 |
| ○マンディ,エドモンド,F. (工部大学校〈図画・製図〉教師) | 上529,535,536,570,571,572,573,574,575,586 |
| ○マンディ,エドモンド,F. (工部大学校〈図画・製図〉教師) 夫人 | 上536,570,571,574,575 |
| ○マンディ,エドモンド,F. (工部大学校〈図画・製図〉教師) 令息サミー | 上571,572 |
| ○マンディ,エドモンド,F. (工部大学校〈図画・製図〉教師) 令息サニー | 上571,572,575 |
| ○マンディ,エドモンド,F. (工部大学校〈図画・製図〉教師) 所生子〈赤子〉 | 上575 |

≡

| | |
|---------------------|--|
| ○三浦 徹 | 上110,下91,420,429 |
| ○三浦 徹夫人柳 | 上89,110,154,155,156,158,162,163,165, 173,176,194,318,321,387,405,430,445, 479,下44,91,115,164,225,234,364,376,429 |
| ○三浦 徹令嬢アイ (赤子) | 上318,321,387,405,下115 |
| ○ミカド——→○天皇陛下 (明治天皇) | |

| | |
|---|---|
| ○道 | 上442 |
| ○ミーチャム,ジョージ,M.(東洋英和学校教師・宣教師) | 下106,326,454 |
| ○ミーチャム,ジョージ,M.(東洋英和学校教師・宣教師)夫人 | 下77 |
| ○ミーチャム,ジョージ,M.(東洋英和学校教師・宣教師)夫人令妹 | 下77 |
| ○箕作秋坪(東京師範学校摂理) | 上82,83,103,128,130,265,272, 291,294,295,332,482,下121 |
| ○南夫人 | 下41 |
| 源義家 | 下270 |
| 源義経 | 下316 |
| 源頼朝 | 上362 |
| 源頼義 | 下270 |
| ○宮川経輝(キリスト教伝道者) | 下478,479,481 |
| ミヤギタ(在金沢) | 下282 |
| ミュラー | 下63 |
| ミルトン | 上431 |
| ○ミルン,ジョン(工部大学校〈地質学・鉱物学〉教師・東京大学教師・地震学会設立者) | 下61,62 |

ム

| | |
|----------------------|--|
| ムーディ(信仰復興運動家) | 上202 |
| ○村田一郎 | 上41,353,386,387,425,426,427,429,445,446,448, 456,457,485,500,502,503,505,506,507,508,521,524, 531,537,538,558,568,569,586,下13,14,25,26,32,44, 46,48,55,89,95,98,121,149,152,234,235,381,419 |
| ○村田一郎夫人久子(ひさ) | 上501,502,504,505,506,507,520, 569,下12,13,25,26,34,89,90,91, 95,123,146,148,195,196,229,358 |
| ○村田一郎令巖——→○林(村田一郎令巖) | |
| ○村田一郎令母 | 上387 |

メ

- メアリー (ゴープル, ジョナサン令嬢メアリー) 上449
- メアリー——→○津田 仙 (学農社農学校開設者) 子女メアリー (赤子) 下17
- メイエ夫人 下243,244,262,343,370
- メイベル——→○ベイリー, チャールス, W. (海軍兵学校教官) 令嬢メイベル
- 目賀田嬢 上263
- 目賀田種太郎 (大蔵官僚・韓国財政顧問) 下539
- 目賀田種太郎 (大蔵官僚・韓国財政顧問) 夫人逸子——→○勝 安芳 (海舟・安房守)
三女逸子 (お逸)
- 目賀田種太郎 (大蔵官僚・韓国財政顧問) 長女りよ 下436,440
- メンデンホール, トーマス, C. (東京大学〈数学・実験物理学・星学〉教師) 夫人
下237,269,279,304,368

モ

- 黙阿弥 下270
- モクリッジ (ホイットニー, クララ祖父) 上154,276,424,下341
- モクリッジ (ホイットニー, クララ祖母) 上397
- モクリッジ, ウォルター (ホイットニー, クララ姻戚) 下183
- モクリッジ, セアラ (ホイットニー, クララ姻戚) 上154,下19,378,383
- モース, エドワード, S. (動物学者・大森貝塚発見者) 下61
- モーゼ 下325,452
- 元千代——→○横山元千代
- モートン 下78
- モモタロウ 上283
- 桃太郎 (芸者) 下407
- 森 有祐 上37,38,43,51,52,63,65,111,291,319,497,下12,13,356
- 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 上

33,35,37,38,39,50,52,58,59,80,83,110,132,145,172,181,
185,198,204,409,460,465,507,537,556,562,566,583,
588,下11,12,36,39,41,42,54,66,67,96,247,267,268,271,
273,283,309,310,311,316,320,323,341,342,343,356,429

- 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 夫人阿常
上52,110,138,358,460,507,556,561,562,566,569,
583,584,591,592,593,下11,33,50,58,67,98,100,
134,259,262,267,269,271,273,297,310,311,312,
313,315,316,323,343,344,354,356,360,461,522
- 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 長男清 上110,138,172,556
- 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 次男英 上556
- 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 令嚴有恕 上111,下66,283
- 森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 令母里
上111,112,114,116,172,下50,66,384,429
- 森 ひろ (森 有礼 (清国駐在公使・英国駐在公使) 義姉・有祐令母)
上37,111,366,448,497,下12,13,38,39,50,356
- 森島修太郎 上319,333
- モリス,マリー夫人 (クエーカー教徒・慈善家) 下460
- 森田 下390,391
- 守田勘弥 下271,272

ヤ

- ヤー——→○疋田正善次男保爾
- ヤコブ 上403
- 弥三郎 下108,141,142
- 矢沢嬢 下224,225
- ヤス (ホイットニー家使用人 (男性)) 上224,321,329,354,356,360,362,364,382,
393,394,395,589,596,下48,72,86,124
- ヤス (やす) (杉田家使用人 (女性)) 上427,430,527,下74,75,217,328

- 矢田部良吉（植物学者） 上242,245,249,250,252,253,254,256,262,263,
279,280,285,287,288,290,291,294,296,301,302,
305,310,312,313,319,320,322,330,331,337,338,
344,368,371,373,380,471,472,478,下61,286
- 矢田部良吉（植物学者）夫人——→○金沢良斎（医師）令嬢録
- 柳谷謙太郎（美国駐在領事） 下87,92
- 柳谷謙太郎（美国駐在領事）夫人 下87,89,90,92
- 矢野二郎（商法講習所所長・理事） 上205,291,333,389,401,408,
443,450,451,515,516,528,549,
550,551,552,553,558,下381
- 矢野二郎（商法講習所所長・理事）夫人 上205
- 山川捨松——→○大山 巖（陸軍卿・陸軍中将）夫人
- 山口 上59
- 山田 上59
- 山田長政 下131
- 山田ヨシキ 上456
- ヤモト（?） 上59
- ヤング,ロバート（『グラント将軍と世界一周』著者） 下318
- ヤングマン,ケイト,M.（築地B六番女学校設立者・宣教師） 上120,244,307,368,
442,462,479,564,
下117,392,394,410,427

ユ

- ユーイング,ジェームス,A.（東京大学〈機械工学・物理学〉教師・実測地震学者）
下59,60,61,62,65,83,94,95,108,110,122,
131,176,177,178,179,180,184,197,199,246
- ユーイング,ジェームス,A.（東京大学〈機械工学・物理学〉教師・実測地震学者）夫人
人アニー 下246,485——→○ワシントン,アニー嬢（東京女学校教師）
- ユウメイ（マッカーティ,ディビィ,B.《開成学校〈英語・ラテン語・博物学〉教師・

宣教師) 養女金韵梅 (女医) 上144,245,277,278,279,311,315,337,338,339,439,
440,449,452,454,457,459,460,465,467,469,475,481,
489,491,497,508,516,523,530,532,533,534,537,593,
下12,14,41,44,45,49,63,78,96,134,164,165,227,229

ユウメイ (マッカーティ, ディビィ, B. (開成学校 (英語・ラテン語・博物学) 教師・
宣教師) 養女金韵梅 (女医) 令兄 上279

ユウメイ (マッカーティ, ディビィ, B. (開成学校 (英語・ラテン語・博物学) 教師・
宣教師) 養女金韵梅 (女医) 令巖 上279

○ゆき 下536,540

ユージェニー (仏国王妃) 下65

ユージニー皇后 (ナポレオン三世妃) 下242

ヨ

○横山 (美国聖公会宣教師) 上450,451,469,下355

○横山壮次郎 (元千代令弟) 下12,20,34,65,356

○横山元千代 下12,20,356

○ヨシ——→○杉岡ヨシ (勝家家扶)

○ヨシ 下91

○吉井幸蔵 (大山 巖 (陸軍卿・陸軍中将) 夫人沢子令弟) 下96

○吉沢 (柴田カ) 下48

○吉沢郷党 (開拓使役人) 上398,399,400,405,466,559,下293,294,295

○吉田清成 (美国駐在特命全權公使・外務大輔) 上403,下258,268,271,296

○吉田清成 (美国駐在特命全權公使・外務大輔) 夫人貞子 下259,268,269

義経——→源義経

○吉原重俊 (租税局長) 下493,494

○吉原重俊 (租税局長) 夫人 下493,500,519,525,530

○吉原重俊 (租税局長) 令嬢静枝 下493,494,495,496

ヨセフ 下191,444,516

ヨナタン 下378

○よね（勝家使用人） 上176,267,269,270,271,294,295,302,303,334,
346,347,下23,100,116,154,155,436,483,536

○よね（勝家使用人） 令母 下155

ヨハネ 上403,552,584

○ヨバン 上539

ラ

○ライス夫人 下173

○ライト,ウィリアム,B.（東京三一神学校教師・宣教師） 下280,369,393,414

○ライト,ウィリアム,B.（東京三一神学校教師・宣教師） 夫人エマ 上558,下68,73

○ライト,ウィリアム,B.（東京三一神学校教師・宣教師） 令嬢ラミー 下68

○ライマン,ベンジャミン,S.（石油事業従事者） 上517

○ラヴィ 下456——→○ホイトニー,アンナ,L.（クララ令母〈愛称ペティ,ラヴィ〉）

ラグーサ,ヴィンセンツォ（工部美術学校彫刻学科教師） 下32

○ラッシュ夫人 下521,525

ラッセル 下42

ラバートン（『歴史概要』著者） 上202

○ランキン,ウォルター 上110

○ランキン,ジョー 下183

○ランキン,ハリー 上144,287,300,301,334,336,339

ランマン,チャールズ 上191

ランマン,チャールズ夫人 上191

リ

○リグビー,フランク（ホイトニー,クララ姻戚） 下20

○リグビー,メイム（ホイトニー,クララ姻戚） 下20

○リグビー,セアラ（ホイトニー,クララ姻戚） 下20

○リグビー,ジョージ 下20

- リグビー,マリオン 下20
- リーズ,ヘンリー,H. 下191
- リッチモンド (『自然の驚異』著者) 上411
- リート,レナ (リーナ) 嬢 (ハップバン夫人姪・新栄学校教師・宣教師)
下18,64,65,223,237,238,239,279,281,366,410
- リード,E.J. 下131,134,141
- リビー (ホイットニー,クララ叔母) 上61,79,116,176,241,248,
297,404,下19,70,309,383,525
- リーランド,ジョージ,A. (体操伝習所・東京師範学校・東京女子師範学校 (体育理論・体育実践) 教師) 下194,279
- リーランド,ジョージ,A. (体操伝習所・東京師範学校・東京女子師範学校 (体育理論・体育実践) 教師) 夫人 下279,364,369,370,378
- リリー——→○ベイリー,チャールス,W. (海軍兵学校教官) 令嬢リリー

ル

- ルーミス,ヘンリー 下516

レ

- れい——→○松平定敬 (定次郎) (元伊勢桑名藩主) 令嬢れい
- レーシー,オスマン,M. 上435,下122
- レスリー,フランク (『イラストレーテッド,センテ=アル,マガジン』著者) 上277

ロ

- ロウ長官 下547,548
- ロウ長官夫人 下547,548
- ロウ長官令嬢 下547,548
- ロシア公使 (ストルーヴェ) 上432

| | |
|-------------------|------|
| ○ロジャー | 上443 |
| ○ロジャー夫人 | 上404 |
| ○ロックウェル, ジョージ, J. | 上135 |
| ロメオ | 下126 |
| ○ローリング (海軍主計官) | 下382 |
| ○ロン (清国公使館員) | 下546 |

ワ

| | |
|---|---|
| ○ワイズ夫人 | 上213 |
| ○ワシントン | 上144, 下548 |
| ○ワシントン, アニー嬢 (東京女学校教師・ユーイング, ジェームス, A. 《東京大学〈機械工学・物理学〉教師・実測地震学者》夫人) | 上144, 213, 245, 246, 320, 435, 494, 下44, 94, 96, 97, 102, 139, 141, 163, 164, 181, 197, 199 |
| ワシントン, ジョージ元美国大統領 | 上144, 213, 214, 493, 494, 下202 |
| ワシントン, ジョージ元美国大統領夫人 | 下547 |
| ワソービョーエ | 下174 |
| ○和田秀豊カ (虎ノ門教会牧師・内村鑑三結婚式仲人) | 下513, 516, 527, 529 |
| ○和田秀豊カ (虎ノ門教会牧師・内村鑑三結婚式仲人) 夫人 | 下528 |
| ○渡辺 | 上468 |
| ○渡辺 | 上207, 208 |
| 渡辺 清 (福岡県令) | 上345 |
| 渡辺 昇 (大阪府知事) | 上345 |
| ○渡辺ふで (福岡県令渡辺 清令嬢・小鹿島夫人) | 上345, 392, 下47, 431 → ○小鹿島夫人ふで (旧姓渡辺) |
| 渡辺やす | 下145 |
| ○ワッソン, ジェームス, R. (開成学校〈英語〉教師) | 上213, 300 |
| ○ワッソン, ジェームス, R. (開成学校〈英語〉教師) 夫人 | 下233, 247, 311, 314, 521, 548 |
| ○ワット | 上563 |
| ○ワード | 下68, 183 |

〔備考〕 この索引は、一又民子氏他訳『勝 海舟の嫁 クララの明治日記』（中公文庫本）の末尾に付載されている精確無比な人名索引を略々そのまま転載させて頂くとともに、その記載体例を準拠として当『日記』の記主たるクララの家族、すなわちホイットニー、ウィリアム、C.一家の人々を始め、そこに載録されていない多くの人々をも、一通り網羅登載する意図の基に作成したものである。併し乍ら、何分にも忽卒の間に作成したものであるだけに、意想外の遺漏や過誤のあるやを惧れるのであるが、これらの点については、大方の御叱正・御示教を得て、後日、修訂・補足に努めて、その全きを期して参る所存である。尚、頭部○印付加者は、『日記』の記主たるクララの面談者・面謁者・目睹者、若しくはそう考えられる者であることを示す。